

2019（令和元）年度事業報告書

学校法人 湘南ふれあい学園

目 次

I	学校法人の概要	1
II	主要な重点事業報告	8
III	各学校の事業報告	13
IV	学校法人中長期計画について	24
V	大学部会、教育部会、保育部会 2109年度 研修会プログラム	38
VI	地域連携・交流活動	44
VII	湘南医療大学 研究業績	46
VIII	生涯学習事業	51
IX	施設の状況	53
X	財務状況	54

I 学校法人湘南ふれあい学園の概要

■ 基本情報

名称	学校法人湘南ふれあい学園		
理事長	大屋敷 英志枝		
主たる事務所 住所	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号		
電話番号	045-828-4322	FAX 番号	045-828-4323
ホームページ	http://www.fureai-g.ac.jp/		

■ 建学の理念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。

わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践

2 生命^{いのち}を全うしていただくための知識・技術の習得

3 その人らしさと個性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

■ 法人及び設置校の沿革

年 月	沿革
平成 6 年 (1994)	1 月 準学校法人 湘南ふれあい学園設置
	4 月 茅ヶ崎看護福祉専門学校創立
平成 10 年 (1998)	4 月 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校創立
平成 12 年 (2000)	4 月 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科設置
平成 13 年 (2001)	1 月 学校法人横浜アカデミーより 2 幼稚園、2 専門学校、1 予備校を継承 湘南ふれあい学園を準学校法人から学校法人へ変更
平成 14 年 (2002)	4 月 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー日本語研修科設置
平成 16 年 (2004)	4 月 下田看護専門学校創立 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー美容学科・診療情報管理学科・臨床工学学科設置
平成 17 年 (2005)	4 月 専門学校横浜外語ビジネスアカデミーをふれあい横浜専門学校に校名変更
平成 18 年 (2006)	4 月 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉学科を精神社会福祉学科へ名称変更 ふれあい横浜専門学校美容学科入学定員変更、総合電子専門学校学科再編 (設置及び変更)
平成 20 年 (2008)	4 月 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 理学療法学科入学定員変更
平成 21 年 (2009)	4 月 総合電子専門学校 学科再編 (名称変更等)
平成 22 年 (2010)	4 月 茅ヶ崎看護福祉専門学校を茅ヶ崎看護専門学校に校名変更及び看護学科入学定員変更
平成 23 年 (2011)	4 月 ふれあい横浜専門学校 観光学科入学定員変更 総合電子専門学校 研究科設置
平成 24 年 (2012)	4 月 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 言語聴覚学科 (2 年制) 設置及び作業療法学科入学定員変更 総合電子専門学校 医療マネジメント科設置及び情報デザイン科入学定員変更
	6 月 湘南医療大学 (仮称) 大学設立準備室設置
平成 26 年 (2014)	3 月 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 南湖校舎移転 湘南医療大学 (仮称) 設置認可申請書提出
	4 月 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転 総合電子専門学校を医療ビジネス観光情報専門学校に校名変更及び学科再編
	10 月 湘南医療大学 設置認可 学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
平成 27 年 (2015)	4 月 湘南医療大学開学 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転
平成 28 年 (2016)	3 月 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修設置
平成 29 年 (2017)	2 月 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 30 名→60 名に変更

	4月	みどり幼稚園を幼保連携型認定こども園みどり幼稚園に改組
平成30年(2018)	2月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を60名→90名に変更
	3月	医療ビジネス観光情報専門学校 情報システム学科 廃科 医療ビジネス観光情報専門学校 工業専門課程 廃止
	4月	湘南医療大学 臨床医学研究所
	7月	医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科設置及びこれに伴う校名変更認可
	11月	湘南医療大学 大学院(保健医療学研究科)設置認可及びこれに伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科新課程設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
	2月	湘南医療大学薬学部新設のための寄附活動のための寄附行為変更認可
平成31年(2019)	4月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科設置 湘南医療大学認定看護研修センターを看護実践教育センターに改称 医療ビジネス観光福祉専門学校に校名変更 介護福祉学科、附帯教育事業 介護福祉士実務者研修設置

■設置する学校等の概要

【設置する学校】(2019年5月1日現在)

学校名	学部・学科・専攻等(入学定員)	開設年度
湘南医療大学 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号 学長 大屋敷 芙志枝	保健医療学部 看護学科(80)	平成27年度 (2015)
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)(40)	
	リハビリテーション学科 (作業療法学専攻)(40)	
	大学院 保健医療学研究科	平成31年度 (2019)
茅ヶ崎看護専門学校 神奈川県茅ヶ崎市今宿390番地 学校長 新海 哲	看護学科(80)	平成6年度 (1994)
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 神奈川県茅ヶ崎市南湖1丁目6番11号 学校長 村松 準	理学療法学科(70)	平成10年度 (1998)
	作業療法学科(30)	
	言語聴覚学科(35)	
	付帯教育事業 社会福祉専攻科(80)	
下田看護専門学校 静岡県下田市柿崎289番地 学校長 大石 實	看護学科(40)	平成16年度 (2004)
医療ビジネス観光福祉専門学校 神奈川県相模原市南区上鶴間本町3丁目18番27号 学校長 井上 尚行	医療ビジネス学科(40)	昭和61年度 (1986)
	観光学科(40)	
	介護福祉学科(35)	平成31年度 (2019)
	付帯教育事業 介護福祉士実務者研修(30×3)	
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園 神奈川県横浜市戸塚区汲沢2丁目26番14号 園長 入澤 登美子	認定こども園(218)	平成29年度 (2017)

【設置する学校等の在籍者数】(2019年5月1日現在)

[湘南医療大学] 休学者9名含

	入学定員	編入学定員	収容定員	入学者数	2019年度在籍者数(休学者9名含)				2019年度卒業生
					1年生	2年生	3年生	4年生	
保健医療学部	看護学科	80	10	340	84	84	98	88	78
	リハビリテーション学科(理学療法専攻)	40	0	160	45	45	43	42	38
	リハビリテーション学科(作業療法専攻)	40	0	160	41	41	42	41	34
大学院	保健医療学研究科	12	—	24	11	—			

【湘南医療大学 収容定員の充足率】

	平成27年度(2015)開学年度	平成28年度(2016)	平成29年度(2017)	平成30年度(2018)完成年度	2019年度大学院設置
保健医療学部	1.16	1.08	1.08	1.05	1.05
看護学科	1.25	1.11	1.11	1.06	1.04
リハビリテーション学科	1.08	1.05	1.04	1.03	1.07
大学院					0.91

[茅ヶ崎看護専門学校] 休学者2名含

	入学定員	収容定員	入学者数	2019年度在籍者数(休学者2名含)			2019年度卒業生
				1年生	2年生	3年生	
看護学科	80	240	82	84	86	74	68

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

	入学定員	収容定員	入学者数	2019年度在籍者数(休学者12名含)				2019年度卒業生
				1年生	2年生	3年生	4年生	
理学療法学科	70	280	71	78	62	69	64	55
作業療法学科	30	120	20	22	19	22	22	22
言語聴覚学科	35	70	36	37	30			26
社会福祉専攻科 ^{※1}	80	160	53	53	64			56

※1 社会福祉専攻科は1年9ヶ月の通信課程

[下田看護専門学校]

	入学定員	収容定員	入学者数	2019年度在籍者数			2019年度 卒業生
				1年生	2年生	3年生	
看護学科	40	120	40	40	43	39	37

[医療ビジネス観光福祉専門学校] 休学者3名含む

	入学定員	収容定員	入学者数	2019年度在籍者数（休学者3名含）		2019年度 卒業生
				1年生	2年生	
医療ビジネス学科	40	80	23	23	14	14
観光学科	40	80	72	72	61	56
介護福祉学科	35	70	15	15		
介護福祉士実務者研修※2	30	30	25	28		25

※2 介護福祉士実務者研修は6ヶ月の通信課程（年3回開講）

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

	総定員	入園者数	2019年度在籍者数					2019年度 卒園生
			1歳児	2歳児	年少	年中	年長	
年少	218	75	8	10	55	58	59	59
年中								
年長								

【法人役員・評議員及び理事会・評議員会の開催状況】

1. 役員・評議員の数（2020年3月31日現在）

役員、評議員	定数	現員
理事	6～8	6
監事	2	2
評議員	13～17	13

2. 役員の概要（理事6名、監事2名 2020年3月31日現在）

役職	氏名	主な現職	就任年月日
理事長／常勤	大屋敷 芙志枝	湘南医療大学学長 医療法人社団康心会理事長	1994年3月8日
理事／非常勤	大屋敷 幸志	社会福祉法人麗寿会理事長	2006年6月24日
理事／常勤	熊谷 幸男	湘南ふれあい学園事務局長	2001年6月24日
理事／非常勤	柴田 大司	湘南ふれあい学園 顧問	2002年6月24日
理事／非常勤	関 英雄	老健ふれあいの丘施設長	1994年3月8日
理事／非常勤	有坂 健一	公認会計士 税理士	2016年6月24日
監事／非常勤	金井 清吉	弁護士	2001年4月1日
監事／非常勤	竹俣 耕一	税理士 公認会計士	2012年6月24日

3. 評議員の概要（評議員 13名 2020年3月31日現在）

	氏名	主な現職	就任年月日
評議員／常勤	大屋敷 芙志枝	湘南医療大学学長 医療法人社団康心会理事長	2002年7月4日
評議員／常勤	寺本 明	湘南医療大学副学長兼学部長	2018年4月1日
評議員／常勤	加藤 尚美	湘南医療大学 大学院教授	2019年6月1日
評議員／非常勤	新海 哲	茅ヶ崎看護専門学校 学校長	2015年10月21日
評議員／常勤	入澤 登美子	幼保連携型認定こども園みどり幼稚園園長	2010年3月30日
評議員／常勤	加藤 修一	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 副校長	2005年3月30日
評議員／常勤	小野川 敏子	下田看護専門学校 副校長	2011年3月23日
評議員／常勤	小林 勝一郎	湘南ふれあい学園学園本部 次長	2013年3月22日
評議員／常勤	山戸 真実	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校事務職員	2018年4月1日
評議員／非常勤	有坂 健一	税理士	2016年6月24日
評議員／非常勤	今田 敏夫	茅ヶ崎中央病院 院長	2019年8月1日
評議員／常勤	熊谷 幸男	湘南ふれあい学園事務局長	2001年4月10日
評議員／非常勤	大屋敷 幸志	社会福祉法人麗寿会理事長	2004年7月4日

4. 2019年度 理事会・評議員会開催状況

	開催回数
理事会	10回
評議員会	10回

【設置する学校等の教職員数】

教職員数（2019年5月1日現在）

学校名	教員		職員 ※2
	専任 ※1	兼任	
湘南医療大学	66	117	22
茅ヶ崎看護専門学校	16	67	7
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	22	75	10
下田看護専門学校	8	32	4
医療ビジネス観光福祉専門学校	11	28	6
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	13	18	5
本部事務局（研修センター含む）	2	26	5

※1 専任には、非常勤契約者を含む ※2 非常勤職員含む

教員内訳

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保健	看護学科		5	4	0	5	2	7	2	10	1	0	10	26
医療 学部	リハビリテー ション学科	理学療法 学専攻	6	0	1	2	2	0	2	0	0	0	11	2
		作業療法 学専攻	4	0	1	0	5	1	0	1	0	0	10	2
計			15	4	2	7	9	8	4	11	1	0	31	30

教職員の保有学位や業績については、以下のホームページ上に公開している。

https://sums.ac.jp/html/department/nursing_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/pt_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/ot_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/graduate_school/teacher/

II 主要な重点事業報告

1 重点報告の概要

(1) 学校法人湘南ふれあい学園の教育の方向性

ア 学園各校は、教育力を高め、学生の学習力や学力の質保証を達成させると同時に、学力の到達度の確認・点検を行うための活動として、FD活動を実践した。

イ 全体研修会では、建学の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践について、各校が計画するFDプログラムにより、研修を行った。(39～43 ページ 研修会プログラム参照)

ウ 本学園は、ふれあいグループ病院施設と連携して、公開講座、保健医療福祉に関わる学園広報活動及びイベントを実施した(45～46 ページ資料)。次年度以降も、地域連携活動に参加し、地域の方々を支援する活動を通して社会貢献を行う。

(2) 湘南医療大学大学院保健医療学研究科 開設

2018年11月文部科学省に大学院保健医療学研究科保健医療学専攻の設置認可を受け、2019年4月開設した。入学定員12名のところ入学者は11名であった。専攻領域は、健康増進・予防領域、心身機能回復領域、助産学領域(助産師国家試験受験資格付与)の3領域で、保健医療学の発展に資する高度専門職業人の養成を行う。

(3) 医療ビジネス観光福祉専門学校に校名変更及び介護福祉学科設置認可

旧医療ビジネス観光情報専門学校は、介護福祉学科の設置認可を受けて2019年4月から校名を医療ビジネス観光福祉専門学校に変更した。入学定員35名中、入学者は15名であった。

(4) 湘南医療大学薬学部医療薬学科(仮称)設置認可申請書を文部科学省に提出

2019年2月寄附行為変更認可(薬学部設置に伴う受配者指定寄付金)を受け、2020年3月文科省に湘南医療大学薬学部臨床薬学科(仮称)設置認可申請書を提出し、受理された(2021年4月開設予定)。

(5) 下田看護専門学校学生寮の改築工事完了

下田看護専門学校学生寮の耐震補強工事を文科省の補助金を利用して行った(工事着工2019年夏期、竣工は2020年2月)。

(6) FD・SD活動の推進

本学園各学校に所属する専任教職員は、FD、SD活動は、必須の活動であり、教育部会、大学部会及び保育部会の3部会のいずれかに分かれて、2カ月に一度の全体研修会、6月の専門部会別研修会、11月のチーム医療研修会を実施した。2019年度は、新型コロナウイルスの影響で2月に実施予定であった医療・教育研究会を延期した。同研究会以外については、2019年度も授業方法の改善、個別学習指導方法、学生募集、社会貢献活動等、様々な課題や教育テーマについて研修を実施し、学生や地域に対して本学の教育研究活動を還元した。(39～46 ページ参照)

(7) 全学5つの活動（PDC/全体朝礼/6S/全体研修会/業務改善）

PDC活動： 教育の質の改善、向上させるためのマネジメント手法として、本学園全体で取り組んだ。各校園とも、毎月、①学生募集 ②教務・学生支援 ③国家試験対策 ④6S活動 ⑤業務改善等の項目について、プラン（P）・アクション（D）・チェック（C）を実施した。

全体朝礼： 全職員が毎朝業務の確認を行い、教育事業が円滑に進むようにしている。

6S活動： 部署ごとに月々のテーマ（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法）に沿って目標をたて、全職員が参画して実行・継続、習慣化している。

全体研修会： FD・SD活動の実践の場として、研修により自らのスキルアップを図ると共に、人材の育成に活かした。また、学生へのサービス向上の心と方法を学び実践した。

業務改善： 当月の問題点や課題点を検証し、業務の効率化を図り、次月に改善できるように対策を行った。特に、湘南医療大学では、2019年度は、個人研究費規程を見直し、若手研究者や科研費を申請する研究者に特別助成制度を設置するなど、獲得型補助金の獲得支援に向けた体制を整備した。

(8) 地域連携推進及び研究推進

・地域連携推進

地域公開講座の実施（45 ページ参照）

地方自治体や地区自治会との連携事業

①大学まつり/専門学校進学 ②中高等学校職業体験受入れ ③中高学生対象大学体験会

・研究推進

個人研究の推進・個人研究計画の遂行（※教育・医療研究会での発表は延期）

公的研究の推進・研究倫理教育の実施、科研費応募のための学内説明会、研究不正防止研修の実施

(9) チーム医療教育の実践

本学園は、公益法人であるとともにふれあいグループ（医療法人グループ）の教育部門としての位置づけもあり、各校の卒業生を医療人材としてグループ病院施設並びに地域医療に輩出する使命を果たしており、「チーム医療」に活躍できる人材の育成を掲げている。

11月のチーム医療研修会では、学園各校の教育課程で取り組んでいる2019年度の「チーム医療」教育について、臨床現場でのチーム医療を意識した症例研究を通じた授業展開の進め方などをグループワークで検討し、コミュニケーション能力の高い人材の養成にも努めた。

(10) コンプライアンスの徹底（継続）

ア 学園の規程に則り、理事会、評議員会を実施した。また、各校園において、会議、委員会も予定どおり実施した。

イ 各校とも自己点検・評価を実施し、ホームページに評価結果を公表した。

ウ 4月に教職員オリエンテーション又は研修会の際に、教職員の行動指針や行動規範について説明し、教職員ハンドブックとして、決算理事会終了後には、各校園に備付した。

- エ 学園本部職員による内部監査（湘南医療大学及び茅ヶ崎看護専門学校）の実施。監事による業務監査並びに会計監査を実施。及び、公認会計士による理事長ディスカッションも実施し、学園全体の業務監査及び財産状況の監査について監査事項に基づいて実施し、改善点は監事等から理事会等に報告し、適正化を図った。
- オ 学園は、学生にSNSの注意事項について指導を行っている。書きこんだ情報が思わぬ形で拡散する危険性もあるため、書き込む内容や情報の管理徹底には十分注意喚起を促した。

(11) 規程の整備（継続）

2019年度に施行又は改定した本学園関係の規程は53ページ一覧の通りである。2019年度は、大学院保健医療学研究科の開設を機に、大学院運営に関する規程の整備などに取り組んだ。

(12) 連携同窓会の設立

本学園は、2019年度に学園各校の同窓会の組織から学園の卒業生が一体となる新しい同窓会運営組織として、「湘南ふれあい学園連携同窓会」を設置し、同窓会報を発行し、同窓生に送付する事業を実施した。2020年度は、以下の事業等を検討している。

- ・同窓生に対する共通図書館利用証の発行
- ・「連携同窓会報」（第2回）の発行・同窓生への送付
- ・同窓会ホームページの開設

2 人事計画及び組織

(1) 人事計画

学園の教職員数は、学園の配置基準、大学設置基準、所轄官庁等の指定規則、及び大学の承認基準や採用基準等に基づき年次計画で教員及び職員の配置を原則としている。また、各校の欠員の補充並びに大学薬学部設置申請に必要な教員は、Jrec-IN等の教員募集サイトを利用し、確保に努めた。

(2) 組織

大学では、薬学部設置準備室を開設し、予定教員2名を配置した。また、大学看護実践教育センターでは、認定看護管理者（セカンドレベル）養成課程を開設し、看護学科教員1名を配した。また、認定看護管理者（ファーストレベル）養成課程の申請を行った（2020年11月開設予定）。既病院勤務看護師のスキルを向上することを目的に研修事業を強化する体制を拡大した。また、大学院保健医療学研究科の設置に伴い、大学院保健医療学研究科委員会を設置した。

2019年度においても、IR担当者の設置の必要性を認めつつも学園本部内に配置することは出来ず、大学の教務・学生支援担当内で最小限の情報収集に終始した。2020年度の継続課題である。

(3) 教職員の人材育成

教育部会、大学部会、保育部会の年間の様々な研修活動を通して、学園全体の「教育の質の保証」を高める人材育成のための研修を継続して実施した。（39～44ページ 参照）

3 募集・広報

1) 各校の定員確保の状況：

本学園各校の2020年度入学生定員確保は、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校言語聴覚学科、下田看護専門学校看護学科、医療ビジネス観光福祉専門学校医療ビジネス学科及び介護福祉学科を除き、入学定員を確保した。

2) 本学園の特色を活かした広報活動：

ア グループ奨学金制度の周知

イ グループ就職先病院施設の情報の周知

ウ 職業意欲を高める体験イベントをグループ病院と連携を図った広報活動

将来の目指す職種の職業体験においては、ふれあいグループ病院施設と連携して行った。各校とも高校訪問を中心に丁寧に高校の先生方に説明するとともに、受験生の保護者に対しても、本学園の魅力を伝え、ふれあいグループの奨学金制度の充実など魅力や卒業後教育の充実なども学科内容と併せて説明を強化した。

4 就職状況

2019年度湘南医療大学卒業生の主な就職先は下表の通りとなった。

看護学科 卒業生 78 名		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 卒業生 38 名		リハビリテーション学科 作業療法学専攻 卒業生 34 名	
ふれあいグループ病院	28	ふれあいグループ病院	19	ふれあいグループ病院	15
神奈川県内病院	40	神奈川県内病院・クリニック	13	神奈川県内病院	12
神奈川県外病院	3	神奈川県外病院	3	神奈川県外病院	6
その他	7	その他	3	その他	1

5 退学者数

2019年度湘南医療大学の退学者数は下表の通りとなった。

学部名	学科名	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
保健医療学部	看護学科	1	1	3	1	6
	リハビリテーション学科理学療法学専攻	3	2	0	2	7
	リハビリテーション学科作業療法学専攻	2	2	1	4	9
保健医療学研究科		2	—			2

6 国家試験の状況

学校名/学部名	学科名/専攻名	新卒				既卒		
		受験者数	合格者数	合格率	2019年度 全国平均(新卒)	受験者数	合格者数	合格率
湘南医療大学 /保健医療学部	看護学科	78 (82)	71 (79)	91.0% (96.3%)	94.7%	3 (-)	3 (-)	100.0% (-)
	看護学科・保健師	11 (12)	11 (10)	100.0% (83.3%)	96.3%	1 (-)	1 (-)	0% (-)
	リハビリテーション学科/ 理学療法専攻	38 (36)	35 (33)	92.1% (91.7%)	93.2%	3 (-)	1 (-)	33.3% (-)
	リハビリテーション学科/ 作業療法専攻	34 (26)	33 (20)	97.1% (76.9%)	94.2%	5 (-)	1 (-)	20.0% (-)
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科	68 (62)	66 (51)	97.1% (82.3%)	94.7%	14 (10)	4 (6)	28.6% (60.0%)
茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校	理学療法学科	55 (53)	51 (52)	92.7% (98.1%)	93.2%	4 (8)	1 (5)	25.0% (62.5%)
	作業療法学科	22 (17)	20 (13)	90.9% (76.5%)	94.2%	4 (4)	3 (3)	75.0% (75.0%)
	言語聴覚学科	26 (33)	20 (30)	76.9% (90.9%)	65.4%	3 (4)	0 (1)	0.0% (25.0%)
	社会福祉専攻科 (通信課程)	53 (45)	31 (23)	58.5% (51.1%)	29.3%	82 (79)	18 (7)	22.0% (8.9%)
下田看護専門学校	看護学科	37 (32)	30 (28)	81.1% (87.5%)	94.7%	15 (13)	2 (1)	13.3 (7.6%)
医療ビジネス観光福祉専門 学校	介護福祉士実務者 研修 (通信課程)	10 (34)	10 (30)	100% (88.2%)	69.9%	0 (1)	0 (1)	0% (100%)

Ⅲ 各学校の事業報告

1) 湘南医療大学

(1) 理念の実践

全体研修、教授会、その他委員会等各種会議をとおして、全教職員、学生に対して「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念を礎とする、思いやりのある教育活動を実践することを確認し、行動した。

(2) 教育活動の実践

平成 31(2019)年度においても、大学設置の趣旨、目的を全教職員で共有し、学生が健康で有意義な学生生活を送れるよう教育活動に努力した。そして、平成 31 (2019) 年度は看護学科 84 名、リハビリテーション学科 86 名の第 5 期生、大学院保健医療学研究科（修士課程）に 11 名の第 1 期生を迎えた。

ア) 学修指導

オリエンテーションガイダンスを通じて、看護学科及びリハビリテーション学科の設置趣旨の理解促進、及び学生便覧、シラバス等により 4 年間にわたる系統的な学習計画の指導・説明を実施した。

イ) 入学前教育の実施

看護学科、リハビリテーション学科ともに、入学に先立ち、AO入試入学者は 11 月後半から、推薦入試入学者に対しては 1 月より、入学前課題を出題した。パソコン・スマートフォン・タブレット等を使ってインターネット上で行うウェブ課題形式で、基礎学力・数学・物理・化学・生物等の課題を出題した。

ウ) オフィスアワーの実施

学生が主体性を持って自主的に学習計画を進めるにあたり、オフィスアワーを活用できる環境を整備し、オリエンテーションガイダンス、授業概要誌面上の周知、教員研究室前の掲示等を活用して、学生のオフィスアワーの活用を促す取り組みを促進した。

エ) 国家試験結果と実施した対策

国家試験結果は看護師については、新卒者の合格率 91.0% (71/78 名) 【全国平均 94.7%】、既卒者を含む合格率 91.4% (74/81 名) 【全国平均 89.2%】、保健師については、新卒者の合格率 100.0% (11/11 名) 【全国平均 96.3%】、既卒者を含む合格率 91.7% (11/12 名) 【全国平均 91.5%】となった。

また、理学療法士については、新卒者の合格率 92.1% (35/38 名) 【全国平均 93.2%】、既卒者を含む合格率 87.8% (36/41 名) 【全国平均 86.4%】、作業療法士については、新卒者の合格率 97.1% (33/34 名) 【全国平均 94.2%】、既卒者を含む合格率 87.2% (34/39 名) 【全国平均 87.3%】となった。

看護学科は、1 年生は昨年と同様に国家試験の重要性についてガイダンスを行った。2 年生は学生が自身の知識レベルを知り国家試験の意識高揚と学習計画の基礎固めを目的に、模試業者による模試並びに過去問を活用した模試を実施した。3 年生は 2 回 (6 月・2 月) に業者模擬試験を実施した。4 年生は、業者模試 8 回、国家試験対策講座と解剖学担当教授による基礎講義 8 回 (各 2 コマ) を実施した。なお、学科における国試対策委員を各領域から 7 名置くとともに、学科長が特に成績不良者の国試対策の陣頭指揮を執り、プロジェクトメンバーによる指導を行った。さらに、キャリア

支援センターに、学科より3名の教員が兼務し相談支援体制を敷き、フォローにあたった。

リハビリテーション学科理学療法学専攻は、1年生は成績不良者にフォーカスし生理学、解剖学の自己学習用のテキストを配布しフォローした。2年生は国試の過去問題に触れながら年度末に3年生と同様の専門基礎科目の模試(解剖学・生理学・運動学)を実施した。3年生はゼミ形式の学習と担任による過去問題の解答、2月末に業者の基礎模試(解剖学・生理学・運動学)を実施した。4年生は臨床実習終了後、9月に業者による対策講座(9/2~6)を受講し、業者による模試3回と過去問13回の計16回実施し、成績不良者に対しての指導を強化した。

リハビリテーション学科作業療法学専攻は、1年生は三科目模試を実施、毎週1回実施するホームルームにて、クラス担任を中心に学生の資質向上を図るため、自学自修の勉強会を実施した。2年生は専門基礎科目(解剖学・生理学・運動学)の過去模試を行い、結果のフィードバックと個別対応を行った。3年生はゼミ形式の学習と担任による過去問題の解答を行い、業者の専門基礎科目模試(解剖学・生理学・運動学)とオリジナルの業者模試を実施した。4学年は、臨床実習後に夏合宿を行い、皆で国試を乗り切る覚悟を共有し、業者模試、校内模試(過去問等)を8回(合宿での力試しを除く)実施し、ゼミ単位で学習フォローを行い、成績不良者には集中し対応した。

オ) 就職支援

グループの就職説明会を看護学科、リハビリテーション学科ともに実施し、学内で8月に選考試験を実施した。グループ内定は看護学科29名(うち1名国試不合格)、理学療法学専攻23名(うち2名国試不合格)、作業療法学専攻16名(うち1名国試不合格)の計68名(うち4名不合格)となった。

(3) FD活動

教員の教育力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント(FD)の取り組みの一環として、FD委員会を実施し、学生による授業評価アンケート、教員相互の授業参観、新任教員を対象とした教育方法・学生指導に関する研修会を企画実施した。

ア) 学生による授業評価アンケート

「FDネットワークつばさ」の授業評価アンケートを前後期に実施した。

アンケート結果は、授業科目ごとにデータ化するとともに授業科目群別のレダーチャートを作成、科目担当教員に渡すと同時に、今後の授業改善内容を記す「リフレクション・ペーパー」の作成と提出を依頼した。

なお、2019年度前期の授業評価アンケートから、授業科目の評価が著しく低い教員については、当該授業科目の今後の取組みについても明記し、提出を依頼している。

イ) 教員相互授業参観と自己評価

効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営方法等について、各学科前後期に分かれて各2科目を対象として授業参観を実施した。実施後、参観した教員にはワークシートを提出してもらい、教員個々の授業運営への活用や、今後の授業参観の運営方法に関する改善点等について意見交換と情報収集を行った。

ウ) 他大学の教育方法の伝達研修

両学科のFD委員から他大学で展開している研修に参加し、発表形式の研修を実施した。

エ) 教育方法改善検討会

他大学の教育方法の伝達研修にあわせて、本学の両学科専攻へ導入できないかグループワークを行い、検討した。

オ) 臨床実習指導方法に関する講習会

両学科ともに実習指導者及び学内教員に対して臨床実習指導法について研修を実施した。

カ) 実習評価に関する研修

両学科ともに学内教員に対して実習評価について研修を実施した。

キ) 教育方法改善検討会

学生のモチベーション向上について、1学科2専攻ごとに事例発表を行い両学科混成でグループワークを行った。

(4) 私立大学等改革総合支援事業

2019年度より補助金の申請が可能となり、私立大学経常費補助金事業の一つである「私立大学等改革総合支援事業」の評価項目に照らし合わせて状況を確認し、大学教育の質的転換を図られるように課題に取り組んだ。

結果は、採択点数までに10点不足し、採択とはならなかった。次年度に採択に向けて、より効果的な取組みが求められることから、全学的計画を立てる。

(5) 学生募集活動

学生募集は、計画的広報活動のもと、看護学科は480名の志願者に対して、選考の結果、82名の入学者(定員超過率1.03)であった。また、リハビリテーション学科は381名の志願者に対して、選考の結果、81名の入学者(定員超過率1.01)であった。

(6) 地域交流活動

横浜市の主催である大学・都市パートナーシップ協議会に参加。ヨコハマ大学まつりにおいて、実施に協力した。

また、戸塚区が主催するワクワクけんこうフェスタへのブース参加、戸塚区との共催による無料公開講座開催、神奈川県生涯学習推進協議会が主催する生涯学習フェアに参加した。

(7) 大学院教育の充実

2020年度入学者選抜試験により、新たに2期生8名の学生を受け入れることとなった。これにより、2020年度の大学院生は、17名となる見込みである。

(8) 認定看護師養成課程(認知症看護分野)

2019年5月17日に認定看護師養成課程(認知症看護分野)の開講式を行い、第2期生17名を受け入れた。2020年3月24日に修了式を開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、修了証書を郵送により該当者に手交した。

(9) 認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)

2019年12月5日に認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)の開講式を行い、第1期生9名を受け入れた。

2020年3月14日に修了式を開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、修了証書を郵送等により該当者に手交した。

2) 茅ヶ崎看護専門学校

2019 年度最重要課題は①看護師国家試験合格率 100%②退学者 0 名③学生募集における出願者数の確保を掲げた。学内の学生状況を安定させ、「資格が取れる学校」を PR し、地域医療に貢献できる人材の育成を行う学校として認知を広めるよう努力した。

(1) 学生募集

2019 年度の募集活動の課題は①推薦入試含めた高校生出願者確保②社会人、AO 入試出願者確保を目指した。

今年度は、景気回復が見込まれるため、社会人出願者が減少することを予測していた。そのため、高校卒(新卒者)の割合が増えるため、本校を第一希望で、出願がしやすく、学科試験科目が少ない AO 入試を強化し PR を行った。結果的に AO 入試は昨年の 69 から 82 と 13 名増加し、この入試区分から最大の合格者を出した。しかし、AO 入試以外の入試区分では全て減少となったため、出願者総数は、161 名であった。その主な要因は、以下の通りであった。

- ① 既卒出願者減少 (前年より 14 名減少)。
- ② 推薦入試受験者減少 (入学試験の早期化によることが考えられる)。

(2) 国家試験

2019 年度も引き続き、看護師国家試験合格率 100%の目標を掲げた。

その結果、2019 年度看護師国家試験合格率 97% 必修問題学内平均 45.3 点、一般状況学内平均 184.6 点 (全国平均 89.24% (新卒 94.7%。必修 40 点/50 点満点、一般状況 155 点/250 点) と全国平均を上回る結果であった。

(3) 学生支援

2019 年度の休退学者数は 2018 年度を上回り、退学者 28 名 (1 年 14 名、2 年 13 名、3 年 1 名)、休学 2 名 (1 年 2 名) となった。以下の点が退学の理由である。

○ 1、2 年の課題

①進路不安 (1 年生)

入学前後の看護師像の相違により、職業観の低下を招き学習意欲の低下の理由で進路を変更する場合や、コミュニケーション不安 (対人関係上の問題) から進路を変更数する事例もあった。

②基礎学力の不足 (2 年生)

基礎学力に不安を持ち、再試験や再実習を多く重ねた学生は、教員や指導者から指導を受けるものの学修意欲が低下し、進路変更を選択する場合もあった。

③心理面の不安

私生活や学内での問題行動、人間関係の悩みなどにより、登校できなくなったなど、学習面以外の起因による退学者も見受けられた。

(4) 次年度の重点項目

上記の課題から、看護師になるという強い職業意識を持たなかった学生が休退学になる傾向がある。今後の対策として、学校説明会において、受験生に看護学校受験の動機づけを喚起することや、入試において、将来の医療専門職業人の学習意欲を有する者を見極めるなどの取り組みが必要である。また、入学当初から看護学生として、職業意識を醸成させる指導も全学的に行うことが大切である。その他、近年の学生の傾向として、学生本人だけで諸問題を解決しようとする傾向が強く、状況が悪化した後も継続的にスクールカウンセリング受診をせずに途中で中断してしまうのも2019年の特徴であった。

3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

2019年度事業の基本方針や重点目標について総括すると、教職員一人ひとりが学校運営に関わり、徹底的に学生の面倒を見る姿勢や、ふれあいグループへの優秀な人材提供の面では極めて好成績を挙げることができた一年間であった。重点目標の学生募集では理学療法学科で出願者も増加し、受験生を選択できる状況が確保できた。また、作業療法学科は募集方法の工夫もあり、定員を超える出願者を得て、定員を充足することができた。しかしながら、言語聴覚学科は年度当初の募集活動不振が大きく響き、年度末には追加募集を実施して30名に到達することができたが、定員を満了すまでには至らなかった。

また、2019年度卒業生は、65名(約63%)がふれあいグループへの就職を希望し、結果的には61名をグループに就職させることができた。ふれあいグループとの連携を高め、就職希望者を増加させる目標はクリアすることができた。

(1) 学生募集

2019年度の学生募集活動は例年同様に年内には定員の9割程度を確保できるように心がけて展開した。2018年度来校者や資料請求者が減少した危機感から、ガイダンス等募集担当者をはじめ各学科教員も高校・会場ガイダンスに投入し、臨戦態勢で活動した結果、理学療法学科では来校者が増加した。しかしながら、理学療法士を希望する受験生の中には勉強習慣がなく目標の希薄な学生もいるため、全入時代とはいえ、受験生を見極めることも今後検討する。作業療法学科では説明会の時間と方法を変更したことにより、来校者が増加した。今後は作業療法の必要性や楽しさを高校生にアピールできる説明会などプログラムの変更を試みたい。

言語聴覚学科においては説明会参加者に大学新卒者が少なく、既卒者の平均年齢が40歳台と高い。そのようなことから、ここ数年、定期試験にて再試験を受ける学生も急増していることによる学力面の課題や、給付金制度による入学生確保の実情を把握し、今後の募集方法を再検討する必要が急務である。

(2) 国家試験

国家試験対応については概ね順調に経過し、日常的に実施していた確認テストや補講等の成果が実り、理学療法学科においては現役55名中51名合格、合格率92.7%(全国平均86.4%)と高成

績を上げることができた。国家試験受験者には休日も学校を解放し、学習環境を整え質問に応えた成果である。作業療法学科は、早い時期から徹底した個別管理を実施し、期待した成果を上げることができた。22名中20名合格(90.9%)であり、全国平均87.3%を若干上回ることができた。言語聴覚学科は26名中20名が合格し、目標としていた合格率90%を上回ることができず76.9%であったが、全国平均の65.4%を超えることができた。

このように通学部の3学科は全国平均を上回ることは出来たものの、取りこぼした学生もいることから、今後更なる対応方法を検討する結果となった。

(3) 学生支援

社会問題ともなっている大学生の基礎学力の低下は、本専門学校にも当てはまり、年々低下の一端を辿っている。学習・生活指導が十分に必要な学生も多く、学習習慣や生活習慣の指導など学生指導は多岐にわたった。こうした現状を受け止め、例年実施している基本的な指導の柱である「徹底的に面倒を見る」、「学生のためにやれることは何でもやる」という姿勢を崩さずに展開した。また、文化祭や球技大会といった学校行事の企画・運営を通じた「自分自身で考え、課題を解決する」学習においては、学生に考えさせることの習慣化や自身のヒューマンスキルの不足部分を理解させる指導を繰り返した。今後は理学・作業療法学科のカリキュラム変更に伴い、学生募集・入学選抜改革や医療職の重要性さらに医療人になる覚悟等、社会人基礎力を高める教育も合わせて行う。

(4) 次年度の重点項目

重点課題である休退学防止に関しては、40名の退学者数(退学率9.5%)であった。特に理学療法学科1年生の退学者が多い現状を考えると、今後は入学選考方法の見直しや高校からの推薦等、入学希望者のミスマッチ防止策を徹底することが急務である。また、学生支援等、学校生活での学生サービスは、学習環境の整備として図書整備・備品整備を拡大したものの、ICTの整備状況は不足している。その他、学生の自主的活動であるサークル活動等では、教職員が主導で企画・運営しないと学生が楽しめる環境が設定できない事が課題となった。学習のみならず、教職員と学生が交流できる時間を多く持つことが、学校への信頼感・職業への興味に繋がると考え、今後も継続的にこの課題に取り組む。

4) 旧下田看護専門学校(湘南医療大学附属下田看護専門学校)

2019年度の最重要課題は①看護師国家試験合格率100%②学生募集における出願者数の確保③退学者0名を掲げた。学内の学生状況を安定させ、「資格が取れる学校」をPRし、地域医療に貢献できる人材の育成を行う学校として認知を広めるよう努力した。

(1) 学生募集

2019年度の本校の志願者数は、56名であった。昨年度の91名の半減となり、最終的に31名の学生が入学した。

その要因として、静岡県内の東部・中部・西部の受験生は、自宅から通える進学先を志願する傾向があり、また、伊豆半島の受験生は、東京・神奈川方面を志願する傾向が強い。その他、看護4年制大学への進学希望者の増加や男子志願者学生数の減少などが考えられる。

このように、厳しい募集環境下であったものの、指定校推薦入試とAO入試で入学者の50%程度を確保した。しかし、一般入試では、受験者数が25名に留まったことも、受験機会の早期化、少子化そして地域性の影響を受けていると分析している。

上記を踏まえて、2020年度の学生募集は、2月の一般入試を、AO入試に変更し、専願入試としての機能を持たせて受験生を確保する。AO入試（専願試験）を前面に打ち出すとともに、ふれあいグループ病院施設への就職希望受験生の募集としても広報活動を行う。また、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、受験生の接点が大きく減じられており、通常の広報活動が困難であるため、WEBによる広報活動に注力し、定員確保に向けて全力をあげる。

その他、2019年度指定校推薦入試では、例年並みの合格者を確保した。更に、指定校推薦入学者の質の低下を招かないように、高校とのパイプをしっかりと作り、本校の理念、特色及びグループ全体のスケールメリットなど本校の良さを明確に伝えて理解してもらうように努力する。

また、選考においては、「①看護師になる意思が明確」。「②明るくまじめで熱心な、学習に取り組む意欲が高い」の2つを選考基準として、入学まで結びつけることを目標とし、受験生の意欲と志を面接試験で評価した。筆記試験においても入学者のレベルの低下を招かないように受験対策講座等を行い、本校が求める学生のレベルを事前に周知するように対策を講じる。

(2) 国家試験

第14期生は、実習状況、単位修得状況に課題がある学生もいたが、教職員一丸となって支援した。例年通り、朝学習の徹底（毎朝5分間テスト）、実習前のノート整理の指導、実習中の小テストの実施、実習後の領域確認テストの実施、長期休暇時の課題などを行い、知識の定着と技術の習得、看護師としての態度を修得することを目指して指導を行った。年度後半に入り、学生間の向学心の差が開き始め、学力不足の学生を重点的に指導した。結果は、37名受験し30名合格、合格率81.1%であった。

2020年度は、「看護師国家試験100%合格」を目標とし、学生に「国家試験はクラス一丸で戦い抜く」という気持ちを持たせ、講師との協力体制を強め、各講義の評価を適切に行いつつ、国家試験対策への関わりを増やし、学生サポートを充実させる。また、採点データをもとに、具体的な対策も実施する。

(3) 学生支援

2019年度は、下記5項目について、取り組み、概ね達成した。

- ① 授業時間外の学習強化（全学年の朝学習実施(5分テスト)）
- ② 個人成績の提示（現在の学習状況の開示）・確認テスト結果の保護者への送付
- ③ 定期面談の実施（成績低迷者だけではなく精神面の不安を抱える学生の早期発見のために実施）
- ④ 長期休暇中の課題の作成（休暇前の学習の振り返りシート作成と国家試験対策）
- ⑤ 確認テスト成績不振者対象の補習（夏季休暇）

なお、退学者は、1年生1名、2年生0名、3年生1名であった。

(4) 次年度の重点項目

- ① 国家試験全員合格、全員卒業
- ② 退学者0
- ③ 看護師としての「知識・技術・態度」の習得を教育的に実施する
- ④ 講師との連携強化（国家試験対策として講義内容の評価などを積極的に伝達し、情報共有を実施する）
- ⑤ 解剖学・生理学・疾病論の三教科を最重要教科として位置づけ、1年生より関連付けを行う
- ⑥ 実習の強化
(④の三教科をきちんと関連付けさせ、実習で各個人が展開できるよう指導)
(領域別実習の事前学習の強化(ノート作りの指導))
(学生動向だけでなく指導方法の確認など学校と臨地実習場の連携を更に密に行う)
- ⑦ 教職員の欠員補充
- ⑧ 改正カリキュラムへの対応

5) 医療ビジネス観光福祉専門学校

2019年度は、介護福祉学科(募集定員:35名)を新設したことで、校名を「医療ビジネス観光福祉専門学校」に改称し、従来からの医療ビジネス学科と観光学科(募集定員:各40名)を合わせ、計115名の学年総定員としての初年度を迎えた。

2019年10月、医療ビジネス観光福祉専門学校は「高等教育の修学支援新制度(2020年4月施行)」の認定校として文部科学省から認定を受けた。この認定により、学生募集の強化につなげることができた。

また、介護福祉学科の開設により学習環境・設備が整ったことから、介護福祉士初任者研修を町田会場として新規に開講。より一層の本科外収益の確保を図ることができた。

(1) 学生募集

2020年度入学は、志願者174名・入学者117名となった(2019年度:志願者146名・入学者110名)。留学生の出願増加で志願者数も増加した。なお、日本人入学者は、2020年度51名(2019年度:53名)であった。結果、募集総定員115名に対して1.02倍であった。

(2) 資格取得に向けた取り組み

前年度に引き続き、合格率向上を目標として、ゼミ授業や検定対策及び日々の補習授業や資格直前対策期間を設け、集中的に授業を実施したことで一定の成果を挙げることができた。その結果、各学科・専攻の一人あたりの平均資格取得数および取得率は以下のとおりである。〔()内は前年度の平均取得数、+-は前年比〕

学科名	専攻名	学年	資格取得数 取得率	学年	資格取得数 取得率
医療ビジネス学科	医療経営専攻	2年	12.0資格(8.0資格、+4.0資格)	1年	6.1(5.1、+1.0)
	医療情報管理専攻	2年	4.7(4.5、+0.2)	1年	2.0(2.8、-0.8)
観光学科	トラベル・交通専攻	2年	7.1(7.9、-0.8)	1年	5.9(4.3、+1.6)
	ホテル・ブライダル専攻	2年	9.4(8.6、+0.8)	1年	8.6(6.1、+2.7)
	国際総合専攻	2年	日本語能力試験N3取得者64.3%(22.8%、+41.5%) 日本語能力試験N2取得者42.9%(20.0%、+22.9%)		

医療経営専攻のグループ入職者（医事課）は、全員が医療事務（医療秘書検定 2 級）の資格を取得。診療報酬請求事務能力認定試験においても合格者を出すことができた。観光学科は、1 年生の資格合格率が大幅に向上した。新たに取り入れた和食検定や手話技能検定においても合格者を多く輩出することができた。また、医療福祉に貢献できる人材育成の一環として、介護職員初任者研修の取得者を 10 名輩出することができた。留学生クラスでは、日本語能力試験 N2 の取得者が 43%と昨年の 2 倍となり、留学生の日本語教育も大きな成果を上げたと言える。引き続き高水準の合格率を維持できるよう、さらにカリキュラムも含めて指導体制の維持向上を図る。

2020 度に向けては、資格合格のための基礎学力をさらに強化し、学習習慣を身につけさせる取り組みを 2019 年度と同様に行う。そして、診療報酬請求事務能力認定試験、医療経営士、情報処理技術者試験、医療情報技師、国内旅行業務取扱管理者試験、CWS 認定ウェディングスペシャリスト、レストランサービス技能、サービス介助士、介護職員初任者研修、介護福祉士等の国家試験や民間資格について更なる強化を図り、資格合格率（取得率）の向上を目指す。また、留学生に対する日本語教育をさらに強化し、日本語能力試験 N2 の取得率をさらに向上させる。

（3）就職力向上と魅力あるカリキュラムの実施について

在学者全員の就職を目標に、エンプロイアビリティを学生に身につけるために全教職員が学生指導に関わり、入学→授業→就職活動→卒業まで一貫した指導内容の充実を図った。

- ① 個としてのアイデンティティを見つけ出し、「公」としての自覚を持ち、ふれあいグループへの参画に寄与する人材の育成に全学科をあげて取り組んだ。そして、グループ理念の実践者となるよう入職のためのガイドラインを策定し、カリキュラム等の見直しを行った。
- ② 学生個人が困難にぶつかったとき、自ら努力し解決する力を身につけさせる指導方法を全教職員で考え実践した。入学時のオリエンテーションから始まり、授業内、授業外、ボランティア活動を含む学校行事など一貫した教育指導を実施した。
- ③ 学生各人の能力に応じた指導目標を設定し、個別にキャリアカウンセリングを行った上で、社会に貢献するためのビジョンを描かせ、就職に活かせる専門技術と知識・社会性・人間性を身につけさせた。そして、医療従事者をはじめとする各学科における専門性を身につけるためのカリキュラムと指導を展開し、資格取得対策に力を注いだ。
- ④ 教員力・組織力・環境力の強化により更なる学生満足度の向上を図った。

上記 4 項目を学生が実感できる力を養うべく、学校生活全般に渡り実践的に取り組んだ。

その結果として、全学科の就職率は就職希望者 67 名に対し、内定者 58 名で 86.6%（30 年度 78.7%、29 年度 73.1%）で留学生を含んだ就職率としては、過去最高を記録した。日本人クラスにおいても、95.1%（30 年度 88.9%）で昨年度を 6 ポイント上回った。医療ビジネス学科では 5 名（医事課 4 名、診療支援課 1 名）の学生がふれあいグループ入職を果たした。2020 年度においては、医療事務職をはじめ、情報課や介護職として全員が就職できるよう、カリキュラムの見直し、グループ就職のサポートをより一層充実させる。

(4) 次年度の重点項目

① 有益な人材の輩出

介護福祉学科では、初めてグループ施設等への人材を輩出するが、全員就職を目標とし、技術力と実践力を現場実習で磨き、患者・利用者に信頼される介護福祉士の養成を目指す。医療ビジネス学科では必備資格と検定の保有数を増やし、即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。観光学科では福祉科目の充実を図り、グループの関連企業に応えられる人材の育成を目指す。

② 休学者・退学者の撲滅

休退学者を出さないために入学前から卒業まで、進学相談・生活指導・学習指導・キャリア指導を継続的かつタイムリーに実施する。モチベーション低下のサインを見逃さないように努め、休退学者を出さないことを目指す。また、休退学者を出さないための指導方法なども再検討する。

③ 定員確保とグループ就職につなげる広報活動

魅力ある学校づくりを行い、学科の特性を活かし、将来的にグループに貢献できる学生の確保を行う。高等教育無償化や奨学金制度とともにグループ就職のメリットを伝え、ガイダンスからオープンキャンパスに至るまで、ありとあらゆる手段を講じて、教職員一丸となって定員確保を目指す。

④ 実習施設との連携

広報活動での施設見学や入学後の施設実習など、グループの実習施設と緊密な連携を図り、協力体制を整え、信頼関係を築くことを目指す。

⑤ カリキュラムの再編と指導力の向上

学科間で同一科目を合同し、教室内環境の活性化と講師料の抑制を図る。また、学生が総合的に学べるように、選択科目をできるだけ必修化していく。さらに、教員相互の授業見学や関係各所から意見を伺い、学生の理解に力向上につながる授業デザインを展開する。

⑥ 全員就職に向けて指導強化（就職対策ゼミ授業の実施・個別指導強化）

⑦ 各資格対策授業の充実（基礎学力向上の取組み・授業内容との連動・資格対策授業の強化） 上級資格の取得率を向上させる。

⑧ FD（ファカルティ・デベロップメント）強化（授業担当可能領域の拡張）

教員の教育力を高め、質の高い学生の育成に努める。

⑨ 教職員の意識改革（全教職員が、意志を統一して最重要課題の目標を達成）

6) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

幼保連携型認定こども園みどり幼稚園は学校教育法第22条及び23条に基づき、乳幼児により良い教育環境を与え、安定した保育活動が出来るように努め、就学前の子どもに関する教育、保育等の提供に関する法律、第2条第7項に規定する目的及び第9条に掲げる目標を達成するため乳幼児期全体を通して、その特性及び保護者や地域の実態を踏まえ、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものになるよう環境を通して教育・保育を行

った。ふれあいグループの理念である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を常に念頭に置き、園児一人ひとりの個性を大切に、安全で安心して過ごせるように行事や保育活動を行いました。教育方針や保育活動を保護者の皆様に理解していただく為に、月1回、予定表やクラスだよりを配布している。幼稚園部門ではクラス懇談会の開催や誕生会後に誕生児の保護者様と園長は懇親会を開き情報交換や子育てについての相談などを行った。保育参観日を設け、活動、ご自分のお子さんの園での様子を公開した。また保護者の会と連携をとり、園の行事や保育活動などに理解や協力を得ることが出来、目的を達成した。教育目標の一つでもある「丈夫な体を持つ子に」を大きな目標として年間を通して乾布摩擦の励行や縄跳びなど達成感が持てる活動も取り入れた。絵本活動にも力を入れ、絵本の読み聞かせの大切さを保護者様に理解していただき、子ども達は月刊絵本1冊を管理し、いつでも絵本に触れることが出来る環境を整えた。年長児には毎週絵本の貸し出しも行った結果、絵本へ興味を持つ子ども達が増え、話を聞く態度や集中力もついた。3号認定の1,2歳児は散歩や園庭遊びを行い、自然に触れながら集団のルールや自立を目指した。言葉も豊富になり交友関係も広がり逞しく成長した。

3, 4, 5歳児の1号認定と2号認定の園児達には保育・教育目標に沿って保育活動や行事を経験、体験することで個性を育み成長に繋げてきた。

子育て支援のひとつである横浜市の預かり保育も定着して利用者数も安定し、定期利用者の増加があった。10月より利用料の無償化に伴い、預かり保育定期利用者も雇用証明書等の申請により無償化された。預かり保育利用園児は同年齢だけでなく異年齢と交流を持つことが出来、良い関係が作られている。しかし長時間保育のため、子ども達の中にはストレスを感じている子も多く、精神的な配慮も心がけた。長期休暇中の1号認定の預かり保育利用者と2号認定の園児は長時間の保育内容を考え、夏はプール遊びや午睡も取り入れた。

また未就園児保育（トライスクール）では親子クラス、一人通園クラスとして集団生活のルールを知り、保育疑似体験が出来た。子育ての相談を受け、保護者同士の情報交換にも役立った。2歳児と連携を取り、入園間近には交流を重ねてきました。2020年度の新入園児の95%がトライスクール入会者でした。入園に繋がり良い成果があった。

(1) 園児募集

- ①園内見学は6月4日から開始、予約制で月・火・金曜日に一日5組の未就園児親子を受け入れ、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園の特色や、保育活動、教育方針などを理解していただけるように親切かつ丁寧に対応してきました。保育部門への見学者も対応しました。公開保育、説明会の日を含め、73組の親子の見学がありました。
- ②未就園児親子対象の園庭開放を毎週水曜日10時から12時まで行った。
- ③放課後「はまっこ広場」として地域の方々に園庭を開放した。
- ④みどりっこまつり、講演会、人形劇鑑賞、お餅つきなどを行い、親子や地域交流に努めました。また、ホームページで幼稚園の紹介、月の予定や行事、未就園児対象のわらべうたへの参加募集などを行い、幼稚園へ多く足を運んでいただきました。
- ⑤教職員は常に情報を共有し、来園者には親切かつ丁寧に対応するよう心掛けました。
- ⑥幼保連携型認定こども園として3号認定、1歳児8名、2歳児10名、2号認定として3・4・5歳児各12名を定員に設定し、区役所からの受け入れを行いました。5歳児は定員

には達せず6名の受け入りに終わった。

(2) 園児教育

- ①幼稚園教育要領の中の健康・人間関係・環境・言葉・表現を日々の保育活動に取り入れ、保護者には保育参観をはじめ、運動会・発表会・作品展などの行事に参加していただき、成長した姿を見ていただいた。1、2歳児へは自由参加を呼びかけ、幼稚園部門に関心を持って次に繋がるよう配慮しました。
- ②給食を通して食育にも力を入れ、給食会議では献立の工夫や食物アレルギー対応について考えています。2歳児は食育計画を立て給食に提供される食材に触れ、制作に結びました。給食は認定こども園みどり幼稚園の大きな特色の一つである。
- ③教育目標の一つである「丈夫な体を持つ子に」の取り組みとして乾布摩擦を励行した。
- ④絵本活動に力を入れ、毎日、読み聞かせを行っています。年長児への絵本の貸し出しも恒例になり、絵本に興味を持つ子ども達が増えています。また集中力にも繋がった。
- ⑤一人ひとりの個性を大切にし、その子にあった言葉かけや対応を行ってきました。主体性を大切にしてこどもの思いや考えなどが引き出せるよう対応しました。日々の行動で心配や不安なことに対しては保護者様と面談や話し合いを行い、見守ってきました。
- ⑥関わりの難しい子に対しては専門機関から指導を受け、保護者様と連携を図り、子ども理解に繋げてきました。
- ⑦幼稚園の行事や保育活動の様子を記した「クラスだより」を配布した。親子の関わりの大切さや園の考え方を載せている。
- ⑧誕生会に、その月の誕生児の保護者様を招待し、一緒にお祝いをした。誕生会終了後、園長は保護者様との懇親会を開き、子育て相談や話し合いを行いながら教育方針を理解していただき、信頼関係を深めた。
- ⑨保育活動や行事を通して年長・年中・年少の異年齢の交流も深めた。(着替えの手伝い、給食準備、朝の自由あそびの交流など)
- ⑩幼保小交流事業や中学校・高校と定期的に交流を重ね、園児、生徒、学生がふれあう時間を持った。
- ⑪グループ内の湘南医療大学や専門学校(看護学校、リハ校)の実習生を受け入れ、幼児理解に繋げた。
- ⑫イベントやはまっこ広場、トライスクールなどを通して、園児募集に役立つ機会を得ることができた。

IV 学校法人中長期計画について

学校法人中長期計画 第1期報告

本学園は、2019年3月20日に開催された理事会並びに評議員会において決議された2019年度事業計画に記載された自ら定める「学校法人中長期計画」(第1期事業計画期間:2019年度～2022年度学園中期事業)について、年度計画の実施状況等に基づき、その達成に向けた進捗状況を報告する。

(1)全体評価

・中期目標である、「各学校は、地域社会に対して、主体性、多様性及び協働性を有する「学修者」を育成する。」という方針に則して、計画的に進んでいる。

・全体として、各学校(園)は、理事長、学長、校長(副校長)、園長、事務責任者のリーダーシップ・意見を生かして、教職員協働や学生参加を伴う地域貢献に資する取り組みを行っているほか、学園の理念に基づいた各キャンパスマネジメントを行った。

・「主体性を養う教育」、つまり、課題解決のために考え、思考力を鍛えるために、アクティブラーニング形式の授業を積極的に各校は導入し始めている。

・「多様性を養う教育」、つまり、他者との違いを認め合い、いかにして共に生活していくのかを学ぶために、文化、コミュニケーションの関り理解を各校の授業科目に導入している。

・「協働性を養う教育」、つまり、各校の目的、人材育成に対する課題の共有、価値観や成果の共有をどのように学ぶのか、実習、演習、チーム医療教育の実践を通して将来、医療従事者として臨床現場で多職種協働に必要な基礎能力を修得できる授業方法を取り入れている。

(2)重点課題の取り組み状況

①将来の医療従事者となるべく高い志を有する入学生の確保

学園全体としては、将来医療従事者になるという志の高い学生が入学していると評価している。しかし、専門学校では、退学者の理由に医療従事者となるべくモチベーションの低下による退学理由が散見され始めている。入学後の学習イメージと現実の個々の基礎学力差の乖離から、成績不良となり、モチベーションが下降する学生が近年増加している。その課題を克服すべく、入試、選抜要件の変更や募集広報活動時における本学園の存在意義や求める学力、人材像(AP)を受験者に浸透させる活動をより強化する。

②教育及び研究の質向上と地域貢献

教育の質の向上を目指し、取り組んでいるFD活動

湘南ふれあい学園は、教育の質の向上を目指し、FD(ファカルティ・デベロップメント)委員会を設置している。2019年度は、全学校的な取組にすべく、「目指す教育指針」を作成し、各校の教育改善に努めている。看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、介護福祉士等の養成においてもこの指針を踏まえ、継続的な教育改善を模索している。各学校では、毎年、教員が授業公開を行い、他の教員の参観を通して、改善を目指した交流を図っている。また、年6回、全体研修会を開催し、学生支援、教授改善方法、国家試験対策、休退学者防止、などのテーマについて研修会を実施し、意見交換を図っている。

今後は、学生と教職員合同でFDシンポジウムの開催、外部講師を招いて教員向けの講習会を開催するなど、学生との共同による授業改善に取り組み、医療従事者養成に係る先端的な知見を教育現場への還元を試みる。

また、湘南医療大学では、研究の質の向上のために「特別研究費」を設け、科研費助成事業申請のための学内助成制度を創設した。結果、科研費応募者数は前年に比べて1.5倍の伸びとなった。

地域貢献への取り組みは、湘南医療大学では、戸塚区健康フェスタ、神奈川県生涯学習フェア、

ヨコハマ大学まつりに参加し、保健医療に関わる企画を出展した。また、大学内で健康に関する公開講座 9 回計画し 7 回実施した(中止は新型コロナウイルス感染拡大防止により)。また、学園全校において、中高学生職業体験講座を実施している。

また、湘南医療大学看護実践教育センターにおいて、地域の看護師のキャリア支援を目的に、看護師実習指導者講習会、認定看護師養成課程(認知症看護師、看護管理者(セカンドレベル))を実施した。

③学生の満足度向上と学校(園)の付加価値の向上

湘南医療大学の学生の授業アンケート調査は別添(30～38ページ)のとおりである。

学生の授業評価アンケートは、各校で実施され、学生目線での評価を通して、授業改善につなげ、授業の質の向上と学生・教員間のコミュニケーションの活性化に努めた。

また、学校法人としての付加価値を高めるために、

- ・業務効率化として、各校の事業計画に沿って、戦略的な人事・事業配分が実施された。
- ・ガバナンス体制の強化として、内部監査班による内部監査、監事による業務監査・会計監査の実施、公認会計士によるヒアリング等、学校法人業務体制を充実・強化させた。
- ・新規事業の開発として、薬学部設置に係る教育用機械器具や教育環境の整備充実に向けて寄付金獲得への取り組みが行われた。
- ・他方で、昇給昇任システムの多元化の実施、個人研究費のコンプライアンス上の課題も一部見受けられ、これらについては、継続的な改善を実施する。

(3) 2019年度 所轄官庁・機関への認可申請・届け出状況

ア 湘南医療大学認定看護師研修センター認定看護管理者セカンドレベルは 10 月に開講し第一期生 9 名の受講生を受け入れ、2020 年 3 月に 9 名修了した。

イ 文科省防災機能等強化緊急特別推進事業に採択され、下田看護専門学校学生寮の耐震化工事を実施した。(竣工 2020 年 2 月)

ウ 2020 年 3 月文部科学省に湘南医療大学薬学部(2021 年 4 月開設予定)設置認可申請書及びこれに伴う寄附行為変更認可申請書を提出し受理された。今後、教員確保、教育用備品の準備等を計画的に進める。

エ 2021 年 4 月湘南医療大学の第 3 の学部として、茅ヶ崎保健医療学部(仮称)の設置計画準備を行う予定であったが、校地校舎の整備並びに教員確保等、課題の解決に向けて更に準備期間が必要となり、2023 年 4 月の設置を目途に準備を継続することとなった。

オ 湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校理学療法学科・作業療法学科の教育課程の変更申請を 2019 年 11 月に変更手続きを行い、2020 年 3 月に認可された。

カ 2020 年 3 月に日本看護協会に 2020 年度中に開講予定の認定看護師管理者(ファーストレベル)の設置申請を行った。

(4) 監事監査方針及び計画

2019 年度監査対象校である湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校の内部監査及び監事監査を以下の通り実施した。

【業務監査】

	内部監査	監事監査	結果
湘南医療大学	2019年9月18日	2020年3月25日	適切な運営が確認された。
茅ヶ崎看護専門学校	2019年12月12日	2020年3月19日	適切な運営が確認された。

【会計監査】

2020年5月19日 公認会計士より監事2名が2019年度の予算執行状況等の説明を受け、適切な運営であることが説明された。

重点課題	分類	中期計画	指標	2019年度事業計画	2019年度 事業計画の進捗・達成状況
教育	○学部教育			(保健医療学部) 1.入学予定者に提供する課題を精査し、入学後にスムーズに授業を受けることができる学習力を身につける方法を検討する。	(保健医療学部) 1.看護学科、リハビリテーション学科ともに、入学に先立ち、AO入試入学者は11月後半から、推薦入試入学者に対しては1月より、入学前課題を出題した。パソコン・スマートフォン・タブレット等を使ってインターネット上で行うウェブ課題形式で、基礎学力・数学・物理・化学・生物等の課題を出題した。
	①入学前教育の充実			(看護学科・リハビリテーション学科) (2)ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいた教育課程並びに開講科目の定期的検証する。 1.落第者を輩出しない授業内容及び特色ある教育課程の設計	看護学科内の教育課程担当は、看護教育指定規則の改定により、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムポリシーに則り、看護学科の新カリキュラムを施行した。 1.学生のモチベーション向上について、「チーム医療演習」科目において、1学科2専攻ごとに事例発表会を行い両学科混成でグループワークを実施した。
	②大学の理念を実践できる教育目標に沿って指導する			(保健医療学部) (5)学習並びに学生生活支援の充実による休退学者の減少に取り組む。 1.オフィスアワーの環境を改善する。	(保健医療学部) 1.全体研修会で、休退学防止策について取り組んだが、結果的に、休学者9名、退学者24名となった。特に退学者は前年度に対して7名の増加となった。 2.オフィスアワーを活用できるように、オリエンテーションガイダンス、授業概要誌面上の周知、教員研究室前の掲示等を環境改善して、学生のオフィスアワーの活用を促す取り組みを促進した。
	③多様化する学生への対応を充実させる			(看護学科・リハビリテーション学科) 1.情報リテラシー教育を充実させる。 2.問題解決型授業の展開強化に向けて、ディプロマポリシーを保証する教育内容をカリキュラム・マップにより継続して評価し、改善につなげる。 3.ディプロマポリシー、各科目の到達度と自己学習評価を連動させ、学生が主体的に学習環境を推進する。	(保健医療学部) 1.情報リテラシー教育の授業を必修化し、充実を図っている。同時に初年次生には図書館職員からも1初年次生向けに研修を実施した。今後は、それらの教区効果の測定・評価を必要とする。 2.3については、継続的に教育環境を改善する。
	④アクティブ・ラーニングの活用等特色のある教育(学生が主体的に問題を発見し会を見出していく教育への転換を進める)			(保健医療学部) 1.授業評価アンケートを実施し、授業改善内容を詳細に検討する。 2.教員相互授業参観と自己評価を実施し、授業運営を顧みる機会を設ける。 3.他大学の特色ある教育を学ぶ機会を設ける。 4.グループ病院と連携教育機能を充実させて、臨床実習指導方法及び実習評価を改善する。 5.外部評価を意識した自己点検・評価項目による評価を行う。	(保健医療学部) 1.学生による授業評価アンケート「FDネットワークつばさ」の共通フォーマットによる授業評価アンケートを前後期に実施した。 アンケート結果は、授業科目ごとにデータ化するとともに授業科目群別のレダーチャートを作成、科目担当教員に渡すと同時に、今後の授業改善内容を記す「リフレクション・ペーパー」の作成と提出を依頼した。なお、2019年度前期の授業評価アンケートから、授業科目の評価が著しく低い教員については、当該授業科目の今後の取組みについても明記し、提出を依頼している。 2.教員相互授業参観と自己評価効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営方法等について、各学科前後期に分かれて各2科目を対象として授業参観を実施した。実施後、参観した教員にはワークシートを提出してもらい、教員個々の授業運営への活用や、今後の授業参観の運営方法に関する改善点等について意見交換と情報収集を行った。 3.他大学の教育方法の伝達研修FD委員から他大学で展開している研修に参加し、発表形式の研修を実施した。 4.臨床実習指導方法に関する講習会実習指導者及び学内教員に対して臨床実習指導法について研修を実施した。但し、グループ病院との連携教育については未実施であった。また、両学科ともに学内教員に対して実習評価について研修を実施した。 5.2022年度に外部評価を受審する予定である様式に基づいて、担当者を割り振り、自己点検評価項目に沿って、自己点検を行った。
	⑤FD活動による教員の教育力向上を図る			(看護学科・リハビリテーション学科) (1)入学者全員卒業、全員資格試験合格、全員就職・進学 1.国家試験ガイダンスの質向上を図り、学生に試験対策情報を継続的に提供できるように充実させる。 2.学生を含めた国家試験対策委員会を中心として、主体的に模擬試験、解説、補講を実施する。 3.キャリア支援センター主導により成績低迷学生への個人面談、個別指導を実施する。 4.ゼミを活用した国家試験学習支援体制を強化する。	(看護学科) 1年生は昨年と同様に国家試験の重要性についてガイダンスを行った。2年生は学生が自身の知識レベルを知り国家試験の意識高揚と学習計画の基礎固めを目的に、模擬業者による模試並びに過去問を活用した模試を実施した。3年生は2回(6月・2月)に業者模試試験を実施した。4年生は、業者模試8回、国家試験対策講座と解剖学担当教授による基礎講座8回(各2コマ)を実施した。なお、学科における国試対策委員会を各領域から7名置くとともに、学科長が特に成績不良者の国試対策の陣頭指揮を執り、プロジェクトメンバーによる指導を行った。さらに、キャリア支援センターに、学科より3名の教員が兼務し相談支援体制を敷き、フォローにあたった。 (リハビリテーション学科理学療法専攻) 1年生は成績不良者にフォーカスし生理学、解剖学の自己学習用のテキストを配布しフォローした。2年生は国試の過去問題に触れながら年度末に3年生と同様の専門基礎科目の模試(解剖学・生理学・運動学)を実施した。3年生はゼミ形式の学習と担任による過去問題の解答、2月末に業者の基礎模試(解剖学・生理学・運動学)を実施した。4年生は臨床実習終了後、9月に業者による対策講座(9/2~6)を受講し、業者による模試3回と過去問13回の計16回実施し、成績不良者に対する指導を強化した。 (リハビリテーション学科作業療法専攻) 1年生は三科目模試を実施。毎週1回実施するホームルームにて、クラス担任を中心に学生の資質向上を図るため、自学自修の勉強会を実施した。2年生は専門基礎科目(解剖学・生理学・運動学)の過去模試を行い、結果のフィードバックと個別対応を行った。3年生はゼミ形式の学習と担任による過去問題の解答を行い、業者の専門基礎科目模試(解剖学・生理学・運動学)とオリジナルの業者模試を実施した。4年生は、臨床実習後に夏合宿を行い、皆で国試を乗り切る覚悟を共有し、業者模試、校内模試(過去問等)を8回(合宿での力試しを除く)実施し、ゼミ単位で学習フォローを行い、成績不良者には集中し対応した。
	⑥国家試験対策を整備・充実させる	卒業率 2018年度 NS 82% PT 78.3% OT 63.4% 2019年度 NS 81.7% PT 81.4% OT 79.1% 国家試験合格率 2018年度 NS 96.3% PT 91.7% OT 76.9% 2019年度 NS 91.0% PT 92.1% OT 97.1%		(保健医療学部・事務部) 1.IR担当部署を設置し、各種情報やデータに基づいて教育課程と学修効果を検証し、教学マネジメント体制の改善策を提案する。	(保健医療学部・事務部) 1.IRの担当者のみを置いた。教務・学生支援、総務、学生募集担当者がそれぞれ、学生の入学から卒業までのデータを有するものの、それらのデータを統合し、各種情報やデータに基づいて教育課程と学修効果を検証することは困難であった。さらに時間をかけて、教育改善策を提案する必要がある。
	⑦医療教育のIR活動を充実させる			(保健医療学部) 1.「ふれあい奨学金」により、湘南ふれあい学園に在籍する学生の奨学・修学の奨励等を行い、有為な人材の育成、教育研究の振興の進展を図る。 2.魅力と特色ある教育活動の具現化を推進するため、社会的価値向上に貢献できる活躍が期待される活動への奨励を積極的に行う。	(保健医療学部) 1.年度途中からも奨学資金を受けることができ、経済的理由により修学に支障をきたすことなく、学生が意欲的に学業に専念できるような環境を整備した。 2.ボランティア活動である「クリスマスキャロリング」をグループ病院で実施し、社会貢献活動を実践した。今後は全学的に実施したい。
	○学生支援教育	F奨学金支給者 2015年度 62人 2016年度 111人 2017年度 167人 2018年度 206人 2019年度 204人		(保健医療学部) 1.就職率 2018年度 88.9% 2019年度 94.0% 1.学生一人ひとりにきめ細やかなキャリア支援教育を実現する。	(保健医療学部) 1.就職説明会を実施した。また、教員が希望する学生個別に就職対策支援を実施した。 2.グループ病院施設でのインターンシップにより、看護学科29名、理学療法専攻23名、作業療法専攻16名 計68名が、ふれあいグループに就職することができた。
	①キャリア支援対策を整備・充実させる			(保健医療学部) 1.「大専教員連携」において、相互出張授業、学生サークル活動や部活動連携活動を検討する。 2.連携同窓会組織を開始し、スケールメリットを活かした学校間連携を展開する。	(保健医療学部) 1.「大専教員連携」としては、下田看護専門学校看護学科の授業に大学看護学科教員が出張授業を行った。 2.グループ各学校の垣根を越えて、「湘南ふれあい学園連携同窓会」を発足し、会報第1号を発行した。
○学校間連携教育 湘南ふれあい学園としての総合力を高める。 ①湘南ふれあい学園各校及びふれあいグループとの連携行事・活動の実施			(保健医療学部看護学科) 1.実習施設として、また、幼稚園のイベント等のサポートや、大学教員による幼児・園児の栄養、アレルギー教育に関する認定こども園教員・保護者対象の研修会の実施などにより緊密な連携を図る。	(保健医療学部看護学科) 1.小児看護学実習施設として、幼稚園児との交流を図った。但し、大学教員による研修会や講演会は実施することができなかった。	
②大学とみどり幼稚園との「幼大連携」			(研究推進室) 1.個人研究計画に基づき、研究活動を推進する。 2.個人研究費規程を見直し、獲得型研究費の取得をめざし、優れた研究者や取り組みに対して、支援し、採択する。 3.研究費の使用項目について、経費の執行から研究成果までを社会的に説明できるようにする。	(研究推進室) 1.個人研究活動計画の評価を学長、副学長、学科長が行い、研究成果を把握し、推進する体制を取った。 2.個人研究費規程を改正し、別に特別研究費規程を策定し、科研費獲得に向けて個人研究費を増額して支援を行った結果、3件の科研費を獲得した。 3.研究費の使用項目を見直し、研究経費使用の適正化を図った。	
①将来の医療従事者となるべく高い志を有する入学生の確保	研究	①個人研究並びに個人研究費	文科省科研費採択件数 2017年度 3件 2018年度 3件	(研究推進室) 1.研究倫理教育、科研費応募説明会、研究不正防止研究を行い、公的研究支援を行う。 (研究推進室) (4)地域連携による共同研究活動の推進に向けた、医療施設等との連携事業の強化 1.研究者とグループ病院施設との共同研究を活発化させて、地域医療に貢献する研究活動を行う。	(研究推進室) 1.2019年9月の学内全体研修会において、研究倫理教育、科研費応募説明会、研究不正防止研究に関する研修を実施した。
		②公的研究の推進	学術論文発表数 2015~ 単著7 共著110 学術論文 単著49 共著530 その他論文 515	(研究推進室) (4)地域連携による共同研究活動の推進に向けた、医療施設等との連携事業の強化 1.研究者とグループ病院施設との共同研究を活発化させて、地域医療に貢献する研究活動を行う。	(研究推進室) 1.ふれあいグループが地域医療環境に必要と考える研究ニーズ(認知症歩行訓練等)を明示した上で、病院施設と組織連携を実施している本学研究者への共同研究テーマを募集した。新分野を開拓する。独自の研究テーマで、長期的な視点でグループと共同研究できる研究を整理し、次年度に繋げる。
		③共同研究の推進		(研究推進室) 1.大学独自色を打ち出せる特色ある研究を臨床医学研究所と連携を行いつつ、継続的に検討する。	(研究推進室) 1.臨床医学研究所に所属する2名の研究員が科研費を取得し研究を継続している。1名は「サルコペニアの病態」に関する研究。1名は、「てんかん拠点病院における薬剤師の実態調査」に関する研究。を行い成果をあげている。今後も本学特有の研究を推進できるように研究環境を強化する。
		④ブランディング研究の推進		(地域連携推進室) 1.多様な地域貢献活動の円滑かつ計画的な実施と実践の質を向上させる。 2.公共団体自治体等と連携し、地域にねざし、地域と共に歩む活動を推進する。 3.地域公開講座を実施する 1)大学まつり/専門学校進学相談会 2)中学校職業体験受入れ 3)中学生対象大学体験会 4)地区住民の環境をモデルとした研究または実習	(地域連携推進室) 1.「ヨコハマ大学まつり」は、企画メンバーとして参加。横浜の大学として他大学と共に市民に本学の活動をアピールした。 2.戸塚区と連携した健康イベント「わくわく健康フェスタ」への参加、瀬谷区との小中学生向け体験講座「せやこども大学」について区と共に企画し開催した。 3.市民公開講座を年間7回企画した。(コロナウイルス感染拡大防止の為、2回中止とした) 4.戸塚区内中学校の職業体験学習を2校受け入れた。本学のグループ病院と連携し、医療職業体験会を実施した。 5.戸塚区内の公営団地において、高齢者の健康づくりや健康相談を公衆衛生看護学の活動として実施した。
②教育及び研究の質の向上と地域貢献	地域連携	○地域連携推進活動に関する目標	公開講座参加者数 2015年度 開催無し 2016年度 355名 2017年度 253名 2018年度 432名 2019年度 214名	(看護実践教育センター) (8)医療従事者並びに社会人向けの研修事業の拡大	(看護実践教育センター) 1.医療従事者にむけた認定看護師(認知症分野)、認定看護管理者セカンドレベル(日本看護協会に2019年10月に教育委機関として認定された)、また、看護実習指導者講習会は、E-ラーニングを導入して実施し、地域医療に必要な看護人材の養成を行った。
		①地域連携推進活動を充実させる	認定看護管理者(2ndレベル)受講者数 2019年度 9名	(募集・募集) 1.計画的な広報活動のもと、本学のアドミッション・ポリシーや特色を各種媒体や説明会を活用して広報活動し、多くの受験生かつ、本学が求める受験生を確保する。	(募集・広報) 1.年12回のオープンキャンパスと進路説明会を実施し、本学の特色や教育を理解いただき入学してもらえるようイベントを実施した。計画的な広報活動のもと、看護学科については、480名の志願者に対して、アドミッション・ポリシーに基づく選考の結果、82名の入学者(定員超過率1.03)であった。また、リハビリテーション学科は381名の志願者に対して、選考の結果、81名の入学者(定員超過率1.01)であった。
③学生の満足度向上と学校(園)の付加価値の向上			看護学科志願者数 2015年度 393 2016年度 516 2017年度 428 2018年度 536 2019年度 516		

募集広報	②学校法人の理念並びに3つのポリシーの実践により、地域から必要とされる魅力的な学校(園)になるための広報活動及び各関係機関(者)との連携活動の推進	理学療法専攻志願者数 2015年度 228 2016年度 323 2017年度 304 2018年度 266 2019年度 269 作業療法専攻志願者数 2015年度 100 2016年度 120 2017年度 97 2018年度 147 2019年度 98	(募集・広報) (7) ふれあいブランドを中心に据えた広報活動と次世代医療を担う低年齢層をターゲットとした職業体験会をふれあいグループ病院施設と連携して実施する。 1. 地域ニーズを反映できる質の高い高大連携(高専連携)、出前授業、公開講座等を実施する。 2. ふれあいグループ各病院施設と連携し、学園ブランド力を地域に発信する活動を行う。 3. 既受験者高校並びに高校教員との信頼関係を強め、教員向けの説明会の充実や細やかな対応を行う。 4. 受験生が望むタイムリーな学園教育活動及び入試情報をていきようする。 5. WEB、スマートフォン、ホームページ等の電子広報活動を行う。 6. 地域自治体、企業等団体との連携による、研究成果等の社会還元及び社会貢献活動を行う。	(募集・広報) 1.年間25校の出前授業の依頼を受けた(コロナウイルス感染拡大防止の為、5回中止とした) 2.卒業生取材はもちろん、卒業生を紹介する進学情報誌の雑誌取材等に看護部・リハビリテーション科として協力を要請し、実施した。グループ病院職員としての働き甲斐について発信を行った。 3.高校教員対象説明会や高校訪問を実施し、本学の教育体制や進路状況を報告し、受験生の確保につながる活動を実施した。 4.関東圏の進学フェアでの個別相談会だけでなく、DM郵送等も実施し、本学の最新情報を提供した。また、高校にむけて、メール・FAX通信を発信し、高校生向け、高校教員向けの情報を提供するよう努めた。 5.本学のホームページならびに受験生応援サイトの更新は月平均10回程度更新を実施している。その他受験生向けアプリ・SNSで最新情報を発信した。 6.年2回(コロナウイルス感染拡大防止の為、1回中止とした)のグループ病院職員全員対象の「医療研究会」では、大学教員と医療従事者が共に研究成果を発表、意見交換する場とした。
	①入試試験方法を継続的に改善する		(入試) 1.高大接続を念頭に、多面的・総合的な評価がなされるように必要な改善を実施する。 2.アドミッション・ポリシーに基づく学生の入学を目的に、AO入試、推薦入試、面接試験の方法の検討を行う。	(入試) 1.次年度にむけて、入試委員会にて検討を重ねた。次年度より、多面的・総合的な評価が明確になるよう入試制度を変更することにした。 2.面接はすべての選抜試験で実施することになり、面接に関する評価項目を見直し、募集要項に記載できるよう改善をした。
運営	○人事計画		1.各校(園)の事業計画を達成するために資質の高い人材を登用し、全教職員が学生全員に寄り添った教育活動に専念できる組織を編成するため、各部署で適正と判断される人員数の配置を進める。	1.大学事務職員の離職により、更に職員教育の重要性が高まった。資質の高い人材を登用し、長所を生かし、本学の理念や本学の事業方針の組織下で、個々の能力を活かすことができる組織での人員配置が次年度の課題である。看護学科、並びにリハビリテーション学科の教員は、欠員専任教員の補充はなされ、大学設置基準に求められる教職員数を超える教員を配置した。
	組織 ①学園行動規範		1.本学園の行動規範に従い教職員の自己規律や倫理道徳を徹底する。また、朝礼の五訓を実践し、学生並びに教職員が常に成長していくことができる組織を目標とする。	1.2019年9-10月の全体研修研修会において、本学園の行動規範について説明した。また、毎月の大学全体で義務付けている、(PDC活動、業務改善、全体研修会の参加、朝礼の五訓、6S活動)の5つの活動を通して各自が教育の質の向上に努力している。
	②会議・委員会を充実させる		1.運営管理会議、教授会、各校運営会議、各種委員会等の会議を充実させて、経営と教学が連動して「教育の質の向上」を目指す。そして国家試験 100%、休退学者 0 を目標に教育指導体制を整備する。	1.2019年度は、運営管理会議21回、教授会16回、教務委員会12回、学生支援委員会9回、FD委員会2回、入試委員会5回、図書委員会4回、研究倫理委員会5回、研究推進室会議5回、地域連携推進室会議6回を実施し、教育の質の向上のための課題を検討した。併せて、私立大学等改革総合支援事業のタイプ1、特色ある教育の展開にある未達成事業に取り組んだが、採択に至らなかった。
	③IR担当の設置(継続)		1.大学、各専門学校が行っている教育内容・研究内容の開示、グループ関連病院施設等での実習施設情報等、教育・研究・経営全般の様々な情報収集・分析を反映した企画・立案するIR担当者を設置できる環境を整備する。今年度も引き続き、学生・保護者等学園を支援する方々に、教育活動及び経営情報を提供し、学園の目指す姿を提示し、理解を深めてもらえるよう計画的に実施する。	1.大学のホームページに本学の活動報告として、教育内容や研究内容など様々な情報を開示している。但し、それらの個々の開示情報についての分析作業や分析結果の公表は、IR担当の今後の課題である。また、教育活動や経営状況の情報は、大学学報などの広報誌を作成するなど、今後の努力目標である。また、保護者会などを組織を置き、大学への理解を深められる場を設けることも検討課題である。
	○人材育成 ①全体研修会(FD・SD活動)		1.事務職員は、SD研修を継続的に実施するとともに、次世代リーダーの育成を図る。また、自己啓発支援を実施し、特にPCスキル、文書作成、財務能力の向上に向けた研修に取り組む。 2.教育職員は、授業力・教育力・指導力等、資質向上に向けた体系的な階層別研修を実施し、個々の教育スキルの向上に取り組めるFD活動を行う。	1.大学職員として必要な知識を修得するために、2019年度のSD研修は5回実施した。但し、学生募集や学生支援に関する研究が多く、予定していた事務処理能力の向上や財務諸表に関する研修は次年度以降に実施する。 2.2019年度のFD研修は6回実施した。専門部会別研修会では、「教育内容・教育方法の構築及び学修成果の可視化への取り組み」「国家試験対策教育」「チーム医療」並びに「多職種協働」を実施できる人材教育「大学が抱える課題への取り組み」などの研修を実施した。
	②全学PDC活動		1.全校対象で、PDC活動と称し、毎月、①学生募集 ②教務・学生支援 ③国家試験対策 ④6S(清掃、整頓、清掃、清潔、躰、作法)活動 ⑤業務改善(教育課程、シラバス、学生便覧、教授方法等)の項目について、Plan(計画)・Do(行動)・Check(確認)を実施し、問題点や課題点の対策を行う。	1.PDC活動は、り毎月行った。①学生募集は、資料請求者や学校説明会参加者数の目標値の達成。②教務・学生支援は、学生サービスや事務作業の効率化の目標値を達成。③国家試験対策は、毎月の成績低迷者への指導方法の目標に達せず次期の課題がある。④6S(清掃、整頓、清掃、清潔、躰、作法)活動は、毎月の役割を決めて、行動する項目の目標を達成。⑤業務改善(教育課程、シラバス、学生便覧、教授方法等)の項目については、全体研修会でのFDと連動させて目標を達成した。
コンプライアンス教育		1.寄附行為及び各種規程規則に基づいて、理事会、評議員会及び各会議委員会を運営する。 2.各校毎に理念・目標に照らして教育研究活動の状況を自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己点検評価を行う。 3.教職員ハンドブックの配布を通じて、行動指針や行動規範の周知徹底を図る。 4.学生指導記録や USB メモリの取扱方法等、学内研修会を通じて教職員に啓発を行う。 5.個人情報を含む職務上知り得た情報の管理・運用やSNSの適切な利用について徹底した注意喚起を行い、一層の職員の規律を高める。	1.2019年度は、計画された会議は全て実施した。 2.2019年度は、大学をはじめとする各校は、自己点検・評価を実施し、その結果を各校のホームページに掲載している。但し、その結果内容の分析は公表していないため、次年度の課題である。 3.職員手帳により、大学を含めた本グループの理念や行動指針、行動計画は周知した。但し、学園のみの行動指針、行動計画は各校の事務室保管であるため、ホームページに掲載するなど、更なる周知徹底が必要である。 4-5.個人情報の保護、守秘義務は、学園の行動計画において啓発活動を常に行い、徹底されている。	
施設	キャンパスの整備	(薬学部設置準備室) 1.2021年度開設構想の薬学部キャンパス計画の立案	(薬学部設置準備室) 1.2020年3月文科省に薬学部設置申請書に記載した。保健医療学部棟の隣接地に、薬学部棟を建設し、本学は20年以上の賃貸借契約により、使用する計画である。2020年度に地下2階から地上3階部分の完成、2022年1月竣工予定(地上7階)である。	
	教育設備の充実	(保健医療学部) 1.学生同士の知的交流を生み出すグループワーク室を充実させる。 2.学内無線LANやプロジェクター等を積極的に活用した効果的な授業を実践する	(保健医療学部) 1.図書館内のグループワーク室にビデオ教材を設置し、視聴覚学習環境を整備した。 2.図書館以外に、学生食堂内に学内無線LANを配置し、インターネット環境を整備した。また、プロジェクター等の機器を有して、パワーポイントや動画教材を用いた授業を多数の教員が積極的に活用し、アクティブな授業を展開した。	
大学院教育	①社会人入学生の推進を図る。	(修士課程) 1.保健医療学研究科の広報を充実させる。	(修士課程) 1.保健医療学研究科を志願する社会人入学生が求める研究内容に対応するために、3領域の特別研究指導者を増員すべく、文科省に教員審査を提出し1名がMO合審査に合格した。	
	②AC期間中の保健医療学の大学院における教育研究を計画的に実施する。	(修士課程) 1.保健医療学研究科において、高度な専門職業人教育及び研究を行う。	(修士課程) 1.保健医療学研究科1期生11名を受け入れた。文科省に提出したシラバスの内容に沿って各教科目の学修を実施した。	

2019 年度前期授業評価アンケートについて

1. 対象学生 学生 684 名（休学者 15 名は対象外）
2. 対象科目 実習科目を除く 129 科目
3. 使用アンケート FD ネットワークつばさ 授業評価アンケート
4. 設問内容 設問 1～14 マークシート対応
問 1
① この授業に関心があったから ②シラバスを読んで
② 教員に魅力があったから ④ 自分の専門に関係が深い分野だから
⑤ 幅広い教養を身につけるため ⑥必修だから ⑦ 単位が取り易そうだから
⑧ その他
問 2 この授業を意欲的に受講しましたか
問 3 この授業の内容を理解できましたか
問 4 考え方、能力、知識、技行などは向上しましたか
問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか
問 6 自ら進んで課題を発見し探求する力が身につきましたか
問 7 教員に敬意は感じられましたか
問 8 教え方(教授法)はわかりやすかったですか
問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか
問 10 この授業に対する 1 週間あたりの平均の勉強時間(授業時間を除く)は。
⑤3 時間以上 ④2～3 時間 ③1～2 時間 ②30 分～1 時間 ①30 分未満
問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか
問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか
問 13 オプション
看護学科:あなたはこの授業の事前学習・事後学習に熱心にとりくみましたか
リハ学科:この授業で使用した教室の大きさ・設備等の学習環境は適切でしたか
問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか

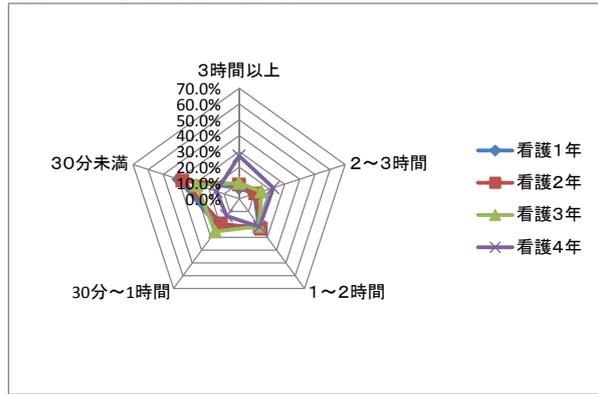
設問 15～17 自由記載
問 15 この授業で良かったと思う点を書いてください(自由記載)
問 16 この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点を詳しく書いてください
問 17 オプション(担当教員からの自由設問)
5. レダーチャートについて
1. 『学生が講義を受けて、学生自身が変化や影響を受けたと感じる項目』
を元に作成した三角形のレダーチャート(設問 4～6)
2. 『授業そのものの評価』(設問 2～3, 7～14)
を元に作成した九角形のレダーチャート
6. 勉強時間 実習科目は本アンケートの対象外になっているため、臨床実習の実施時期によって、学年・学科専攻ごとに実習以外の勉強時間(=本アンケートの調査結果)に差が現れているものと推測される。

2019年度 授業評価アンケート結果（前期）

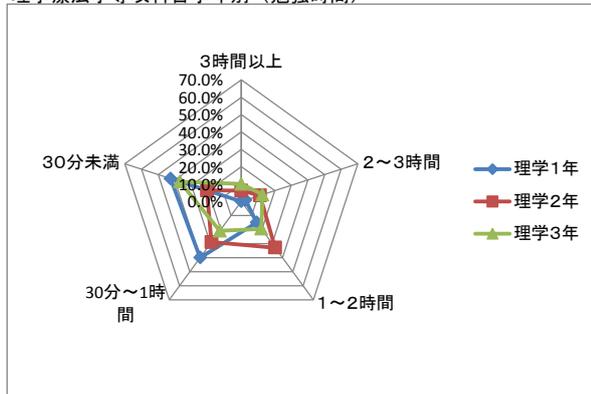
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
看護1年	6.8% ×	10.0% ×	21.1% ×	22.2% △	39.9% ●
看護2年	9.0% ○	10.9% ×	23.4% ○	19.3% △	37.4% ○
看護3年	10.0% ○	14.9% ×	21.3% ×	25.6% ●	28.2% ×
看護4年	27.1% ●	22.5% ×	21.9% ○	13.4% △	15.1% ○
理学1年	0.0% ×	2.5% ×	15.0% ×	40.0% ●	42.5% ●
理学2年	6.2% ●	11.2% ○	32.9% ●	29.0% ●	20.7% ×
理学3年	10.0% ●	12.7% ○	19.5% ●	20.9% ●	36.9% ×
作業1年	10.0% ○	5.6% ×	14.3% ×	24.3% △	45.9% ●
作業2年	6.3% ○	6.7% △	14.1% ×	17.3% ●	55.5% ○
作業3年	1.8% △	6.2% ×	25.6% ●	15.3% ●	51.1% ×
共通1年	6.1%	6.4%	9.3%	18.0%	62.5%
共通2年	9.1%	8.4%	19.4%	17.5%	45.6%

※各科目の集計結果の配当年次・学科専攻別平均時間
 ※前年度比 ●+3%以上、○+3～0%、△0～-3%、×-3%以上

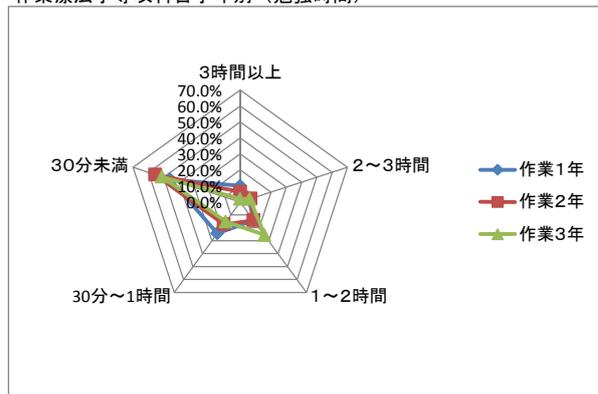
看護学科科目学年別（勉強時間）



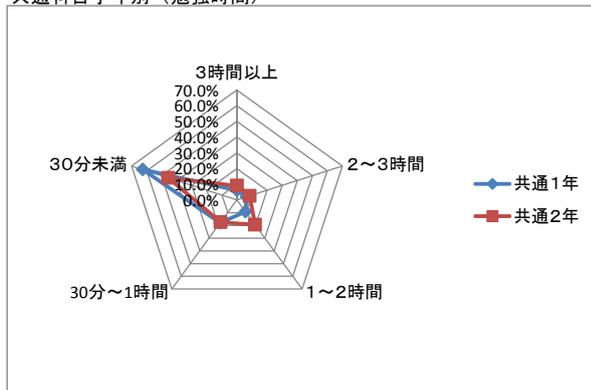
理学療法学専攻科目学年別（勉強時間）



作業療法学専攻科目学年別（勉強時間）



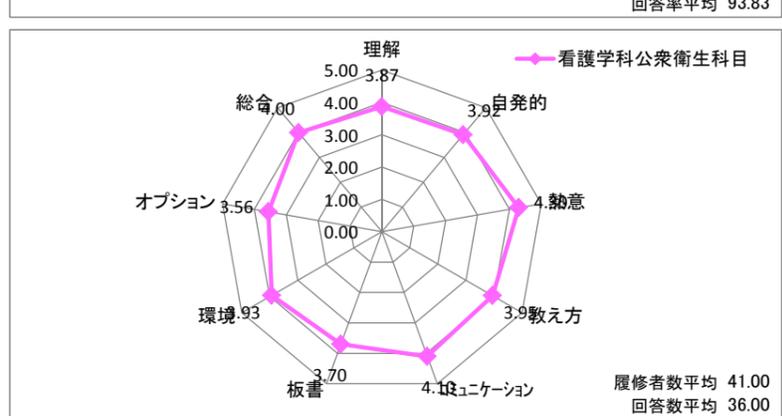
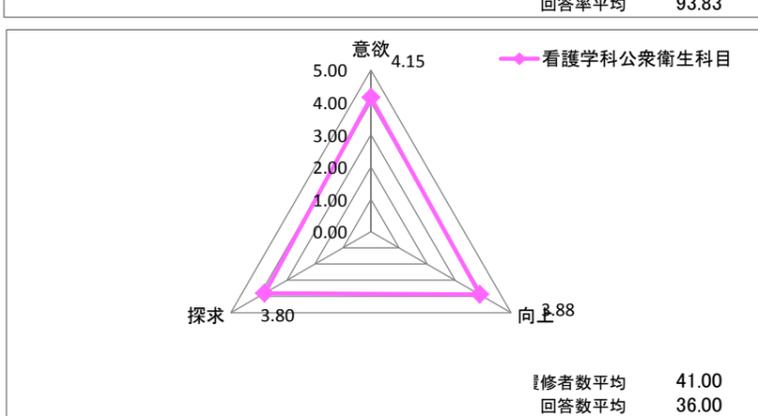
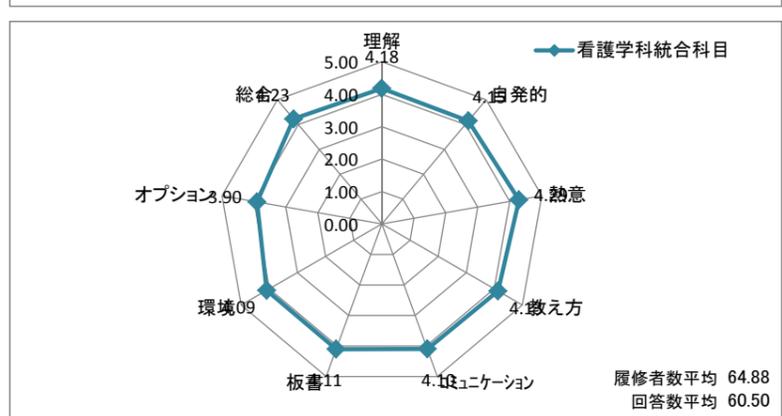
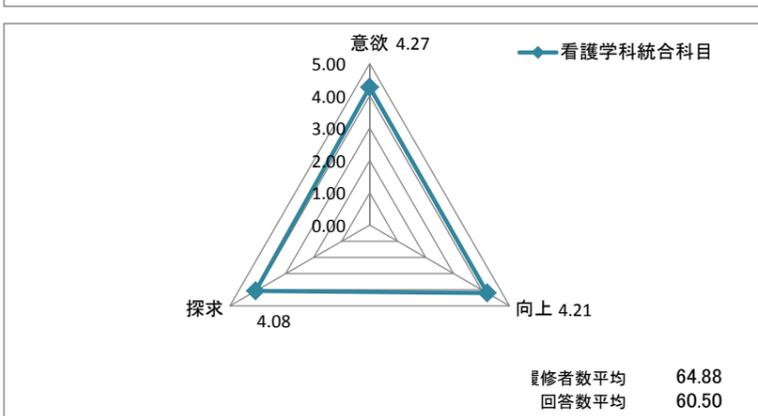
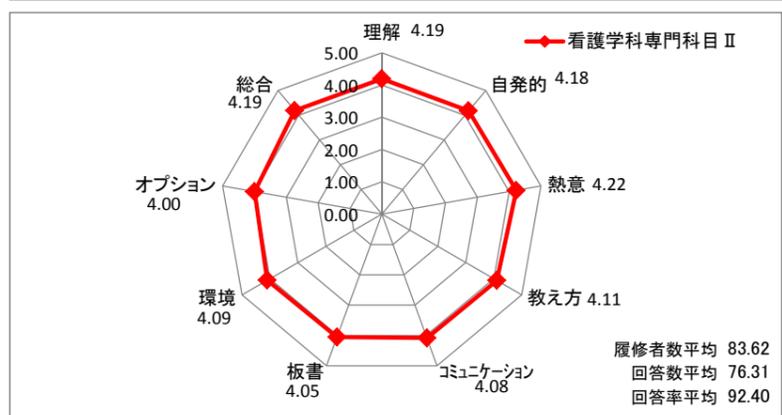
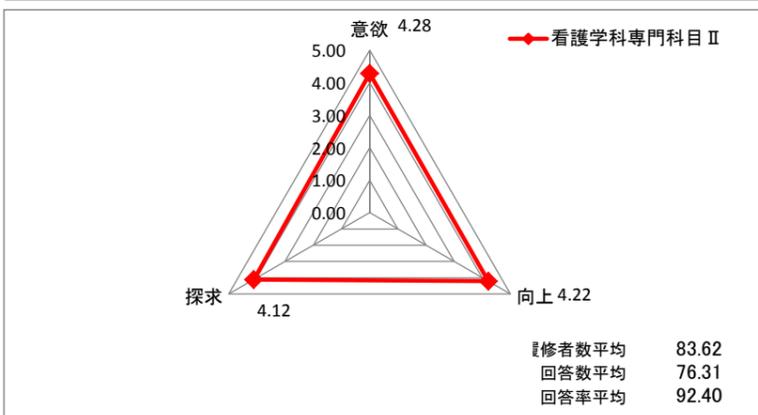
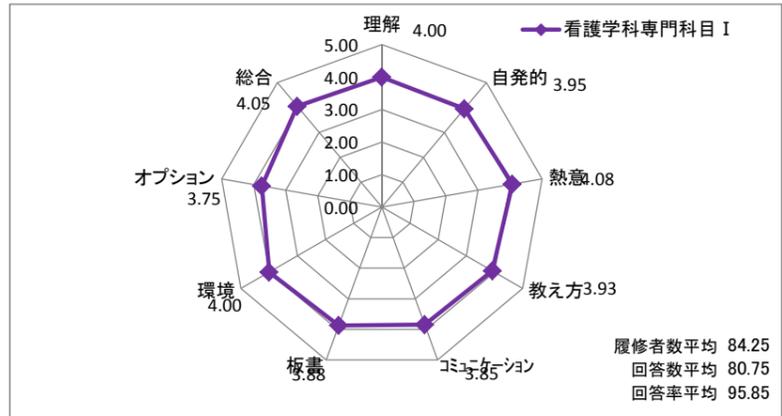
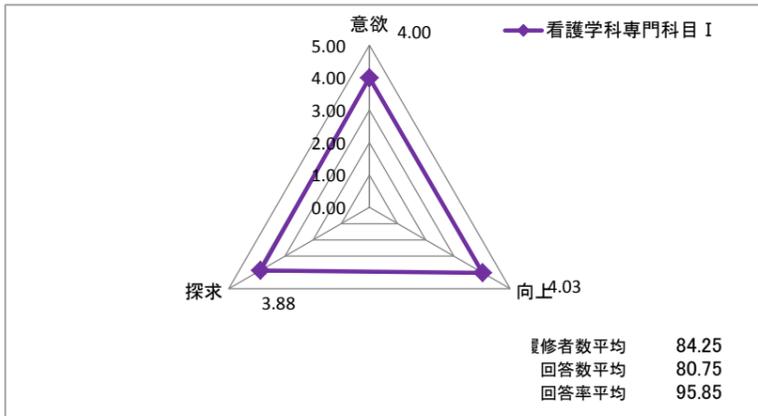
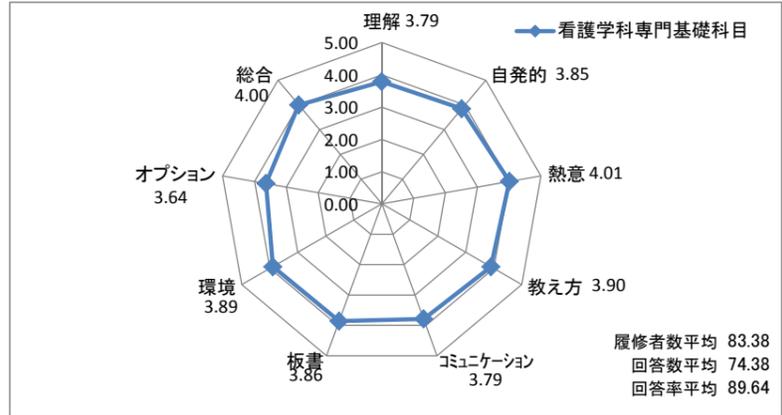
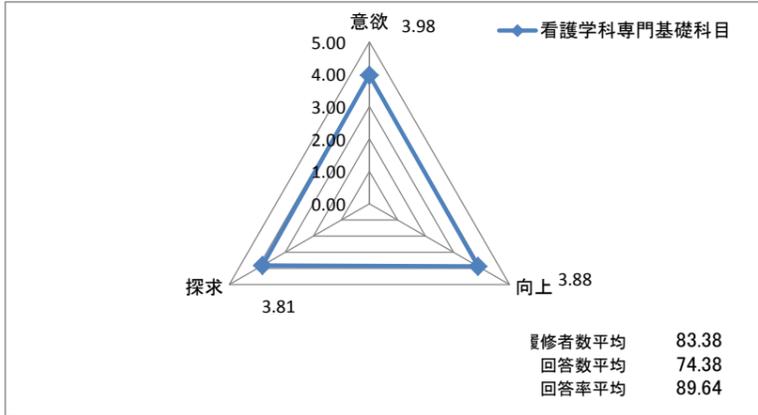
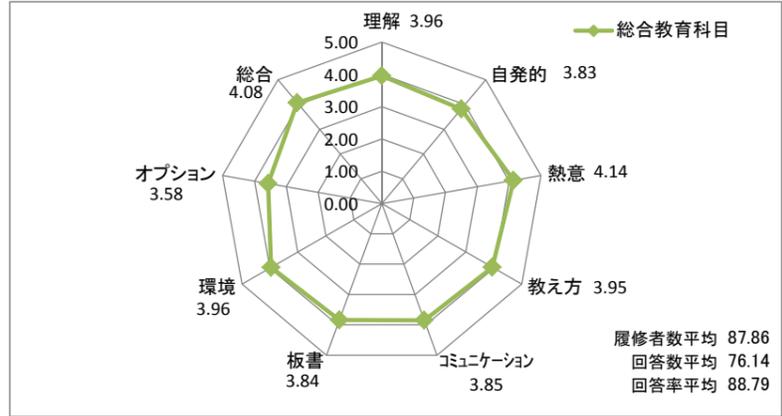
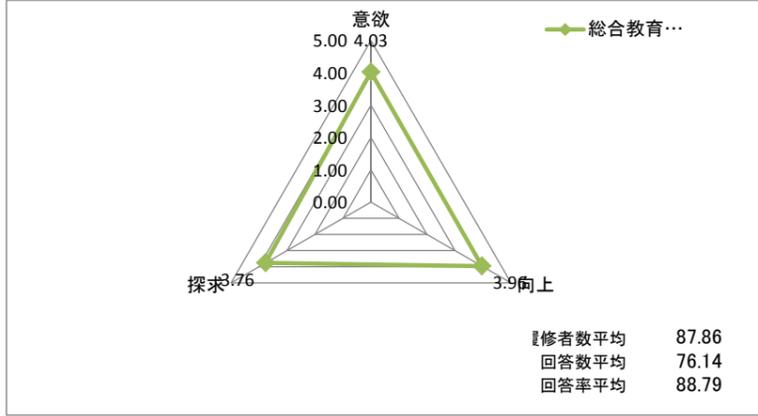
共通科目学年別（勉強時間）



2019年度 授業改善アンケート結果(前期)

※レダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レダーチャート(右)は学生による教員の評価 ※前年度比 ●+0.1%以上、○+0.1~0%、×-0.1%以上

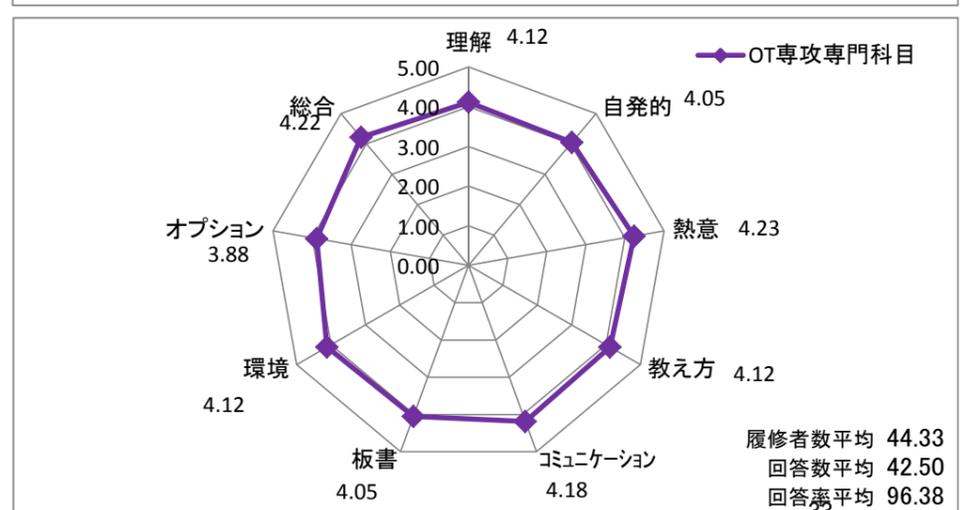
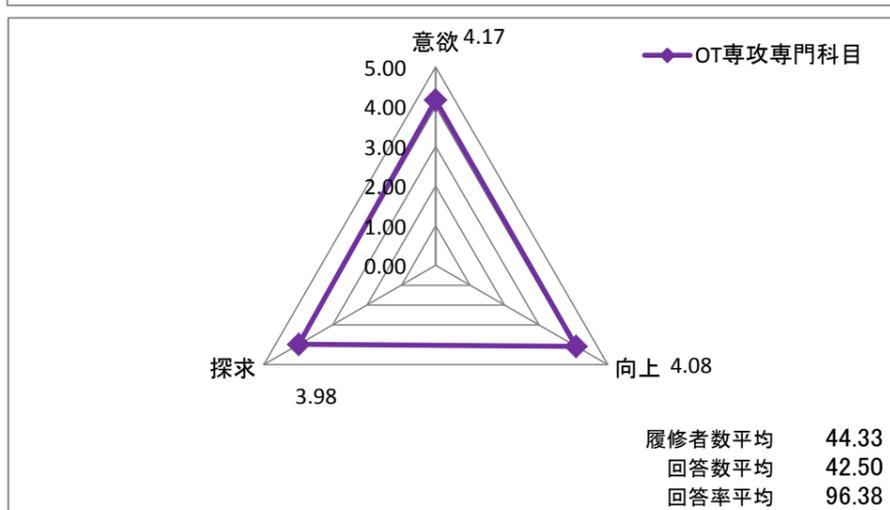
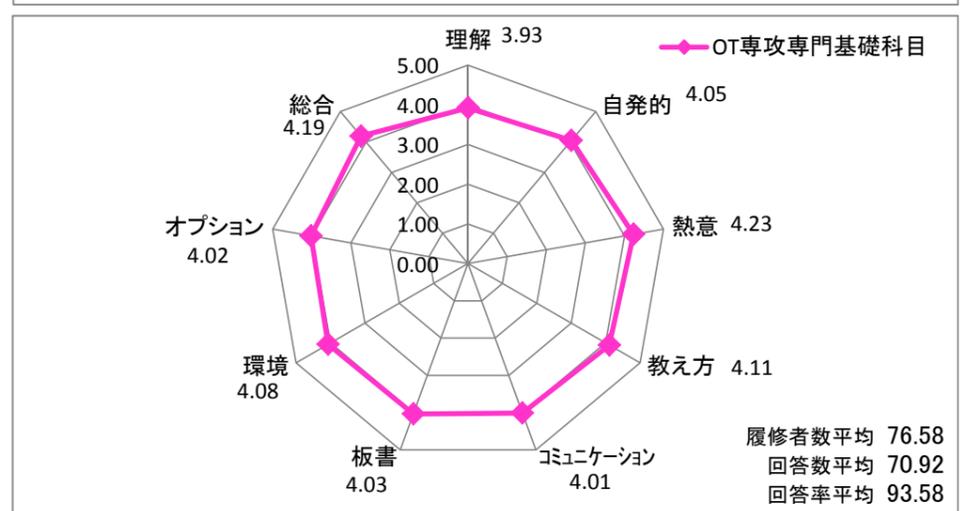
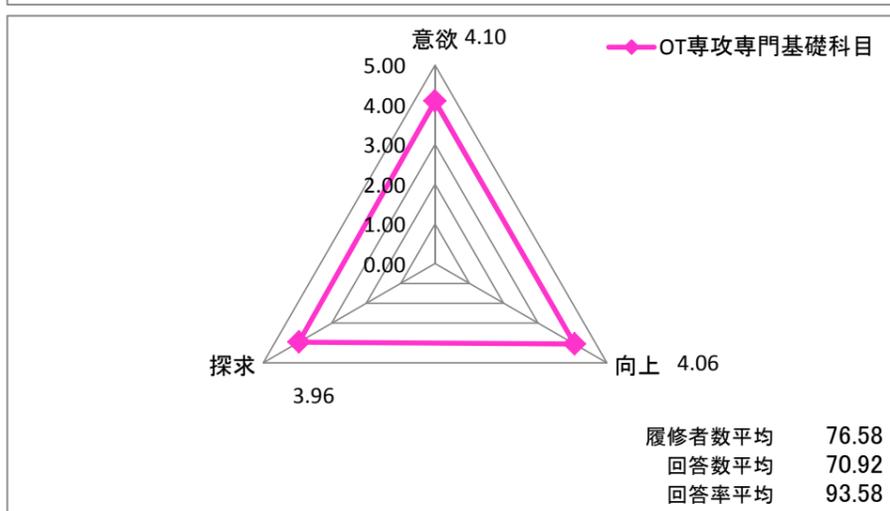
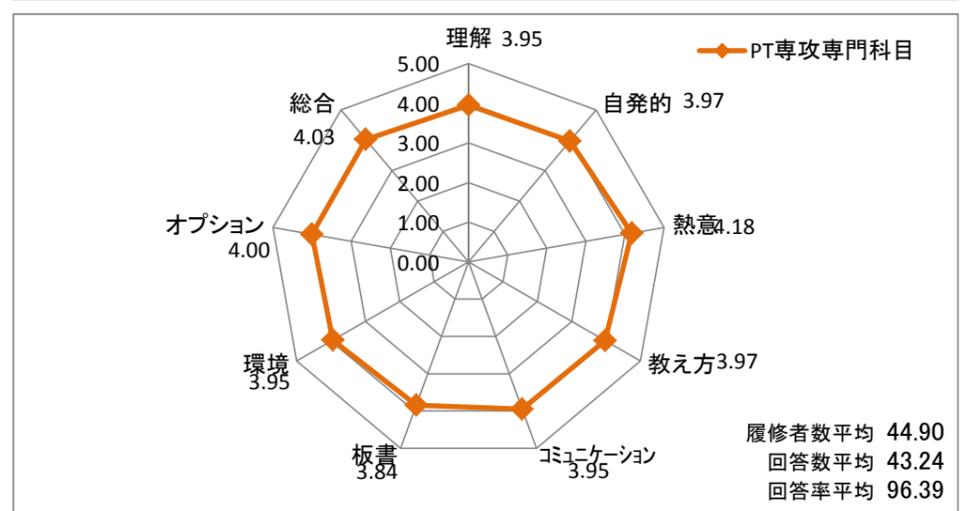
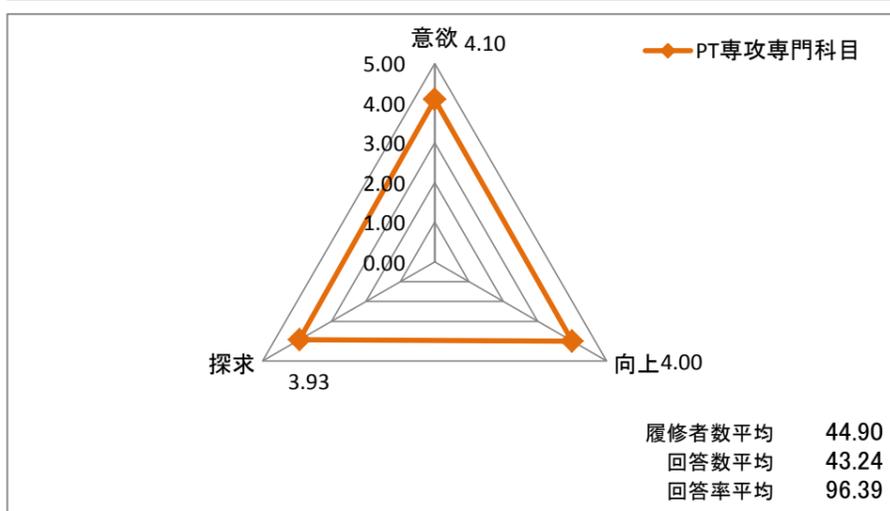
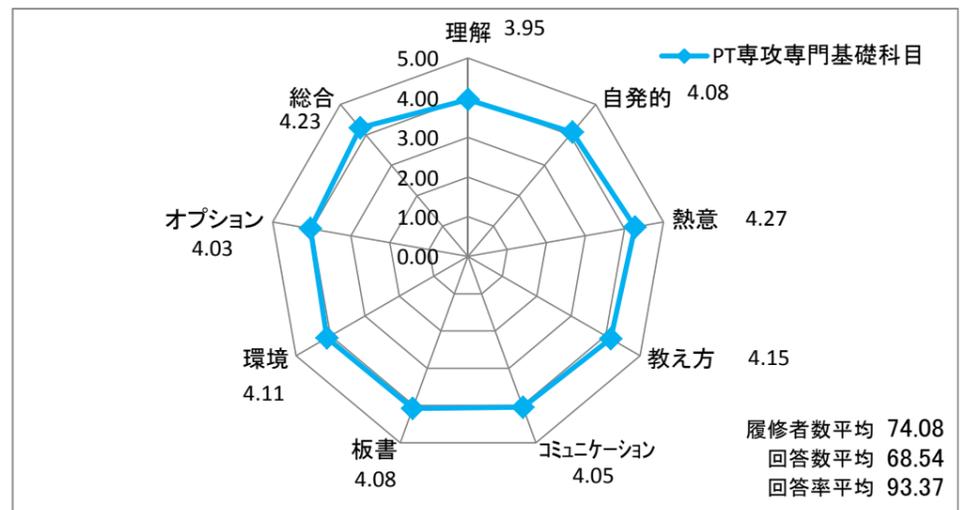
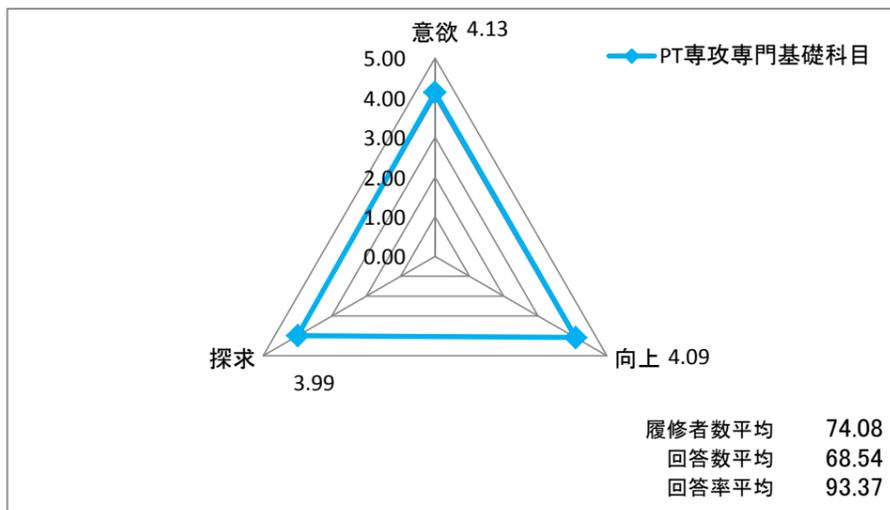
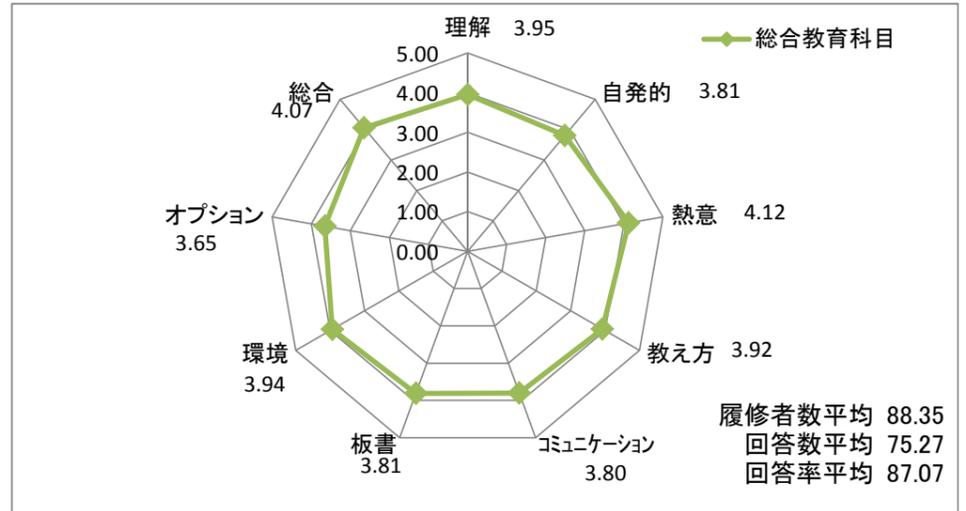
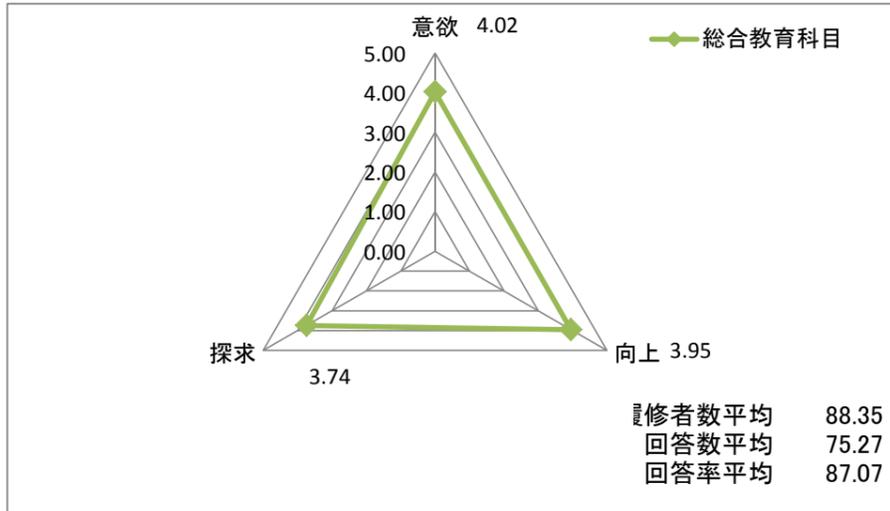
科目名	平均															
	履修者数	回答数	回答率	意欲	向上	探求	理解	自発的	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境	オプション	総合	
総合教育科目	87.86	76.14	88.79	4.03 ×	3.96	3.76	3.96	3.83	4.14	3.95	3.85	3.84	3.96	3.58	4.08	
看護学科専門基礎科目	83.38	74.38	89.64	3.98	3.88	3.81 ●	3.79 ○	3.85 ○	4.01	3.90 ○	3.79 ○	3.86 ○	3.89 ○	3.64 ●	4.00	
看護学科専門科目 I	84.25	80.75	95.85	4.00 ×	4.03 ×	3.88 ×	4.00 ×	3.95 ×	4.08 ×	3.93 ×	3.85 ×	3.88 ×	4.00 ×	3.75 ×	4.05 ×	
看護学科専門科目 II	83.62	76.31	92.40	4.28 ○	4.22 ●	4.12 ○	4.19 ●	4.18 ●	4.22 ○	4.11 ○	4.08 ○	4.05 ○	4.09 ○	4.00 ●	4.19 ○	
看護学科統合科目	64.88	60.50	93.83	4.27 ○	4.21 ○	4.08 ○	4.18 ○	4.15 ○	4.29 ●	4.13 ○	4.10 ○	4.11 ●	4.09 ○	3.90 ○	4.23 ○	
看護学科公衆衛生科目	41.00	36.00	95.97	4.15 ×	3.88 ×	3.80 ×	3.87 ×	3.92 ×	4.30 ○	3.95	4.10 ×	3.70 ×	3.93 ×	3.56	4.00 ×	



2019年度 授業改善アンケート結果(前期)

※レダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レダーチャート(右)は学生による教員の評価※前年度比 ●+0.1%以上、○+0.1~0%、×-0.1%以上

科目名	平均														
	履修者数	回答数	回答率	意欲	向上	探求	理解	自発的	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境	オプション	総合
総合教育科目	88.35	75.27	87.07	4.02 ×	3.95	3.74 ×	3.95	3.81 ×	4.12	3.92 ×	3.80 ×	3.81	3.94	3.65 ○	4.07
理学療法学専攻専門基礎科目	74.08	68.54	93.37	4.13 ○	4.09 ●	3.99 ●	3.95 ●	4.08 ●	4.27 ●	4.15 ●	4.05 ●	4.08 ●	4.11 ●	4.03 ●	4.23 ●
理学療法学専攻専門科目	44.90	43.24	96.39	4.10 ●	4.00 ○	3.93 ●	3.95 ●	3.97 ●	4.18 ●	3.97 ●	3.95 ○	3.84 ●	3.95 ●	4.00 ●	4.03 ○
作業療法学専攻専門基礎科目	76.58	70.92	93.58	4.10 ●	4.06 ●	3.96 ●	3.93 ○	4.05 ●	4.23 ●	4.11 ●	4.01 ●	4.03 ●	4.08 ●	4.02 ●	4.19 ●
作業療法学専攻専門科目	44.33	42.50	96.38	4.17 ●	4.08 ●	3.98 ●	4.12 ●	4.05 ●	4.23 ●	4.12 ●	4.18 ●	4.05 ●	4.12 ●	3.88	4.22 ●



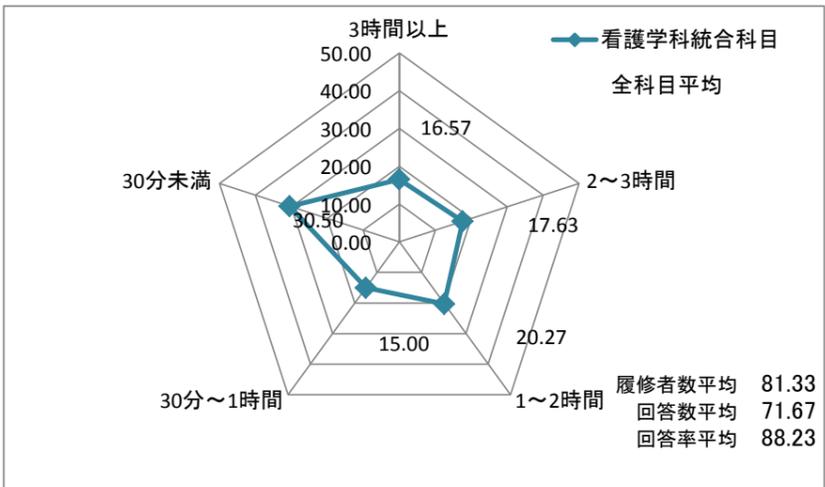
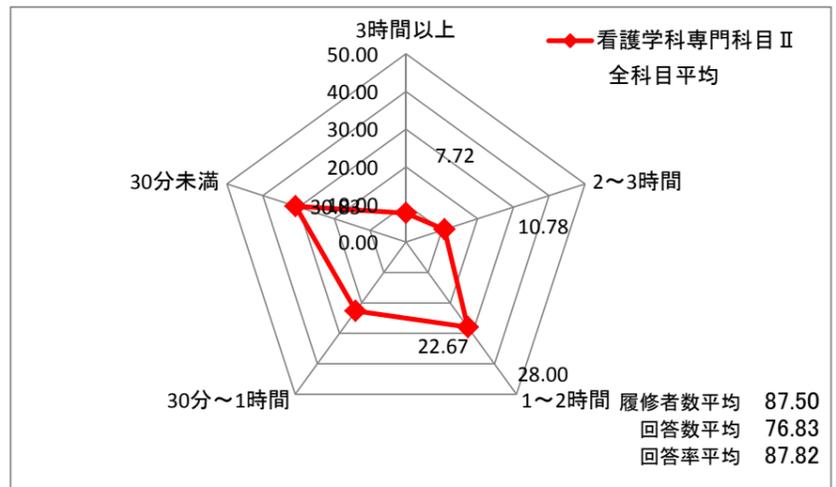
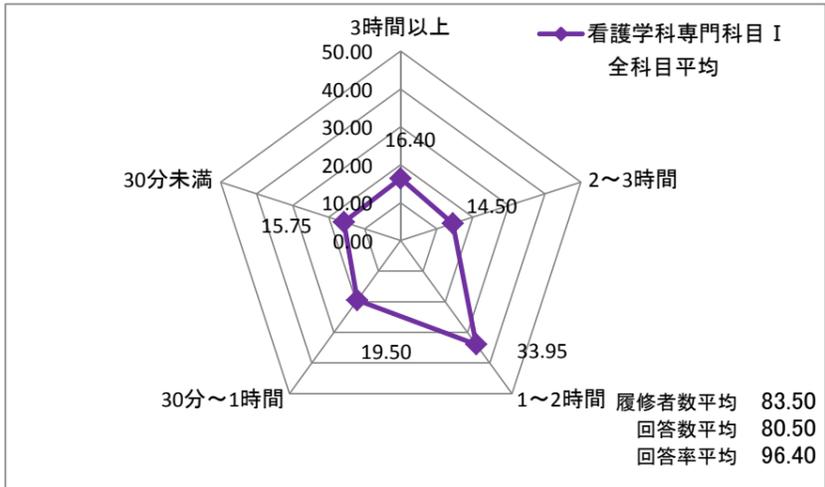
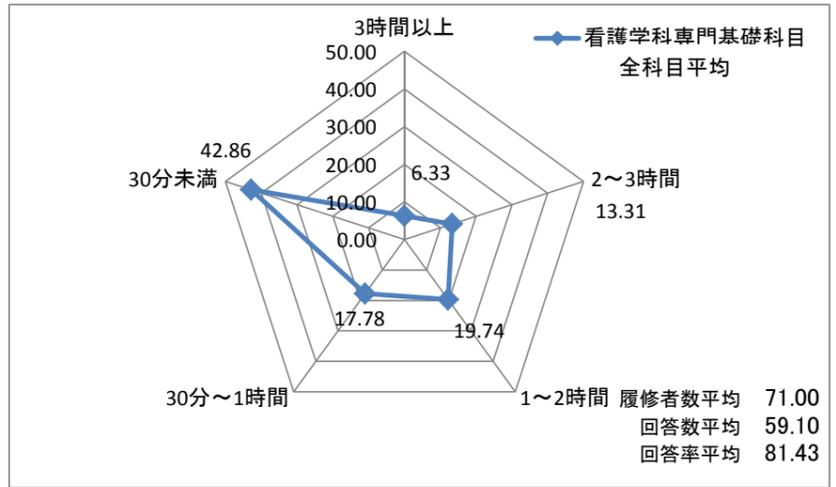
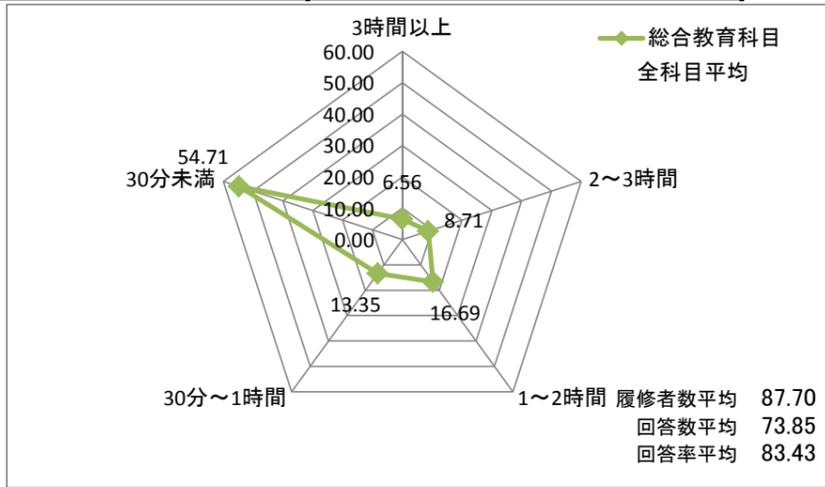
2019 年度後期授業評価アンケートについて

1. 対象学生 学生 677 名（休学者 13 名は対象外）
2. 対象科目 実習科目を除く 107 科目
3. 使用アンケート FD ネットワークつばさ 授業評価アンケート
4. 設問内容 設問 1～14 マークシート対応
問 1
① この授業に関心があったから ②シラバスを読んで
② 教員に魅力があったから ④ 自分の専門に関係が深い分野だから
⑤ 幅広い教養を身につけるため ⑥必修だから ⑦ 単位が取り易そうだから
⑧ その他
問 2 この授業を意欲的に受講しましたか
問 3 この授業の内容を理解できましたか
問 4 考え方、能力、知識、技行などは向上しましたか
問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか
問 6 自ら進んで課題を発見し探求する力が身につきましたか
問 7 教員に敬意は感じられましたか
問 8 教え方(教授法)はわかりやすかったですか
問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか
問 10 この授業に対する 1 週間あたりの平均の勉強時間(授業時間を除く)は。
⑤3 時間以上 ④2～3 時間 ③1～2 時間 ②30 分～1 時間 ①30 分未満
問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか
問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか
問 13 オプション
看護学科:あなたはこの授業の事前学習・事後学習に熱心にとりくみましたか
リハ学科:この授業で使用した教室の大きさ・設備等の学習環境は適切でしたか
問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか

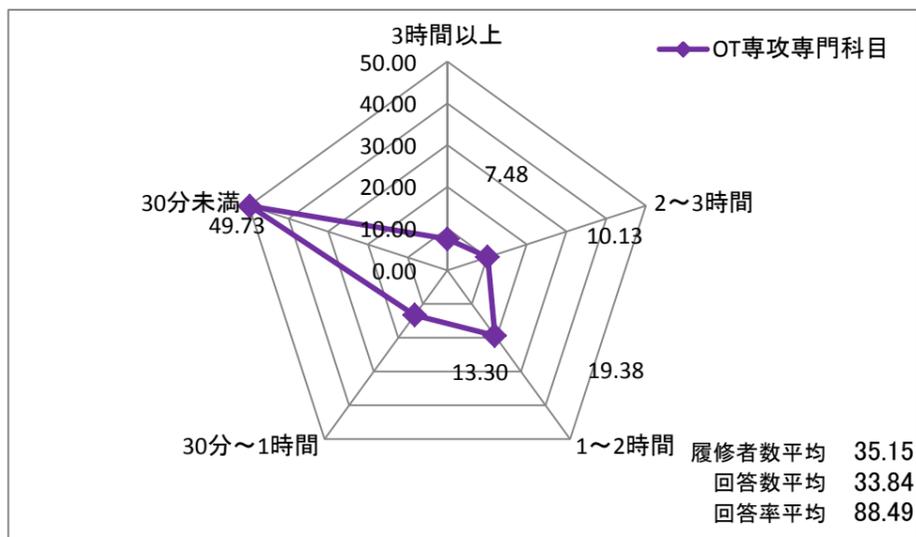
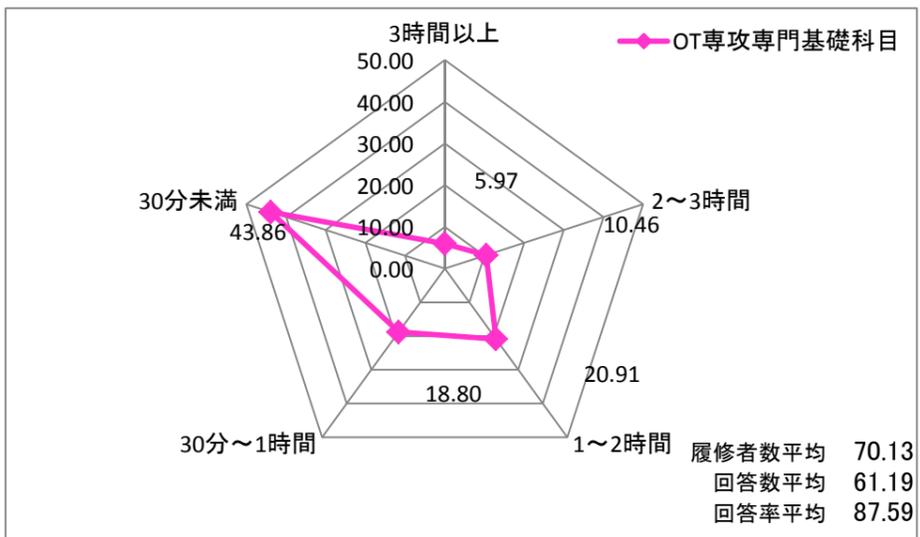
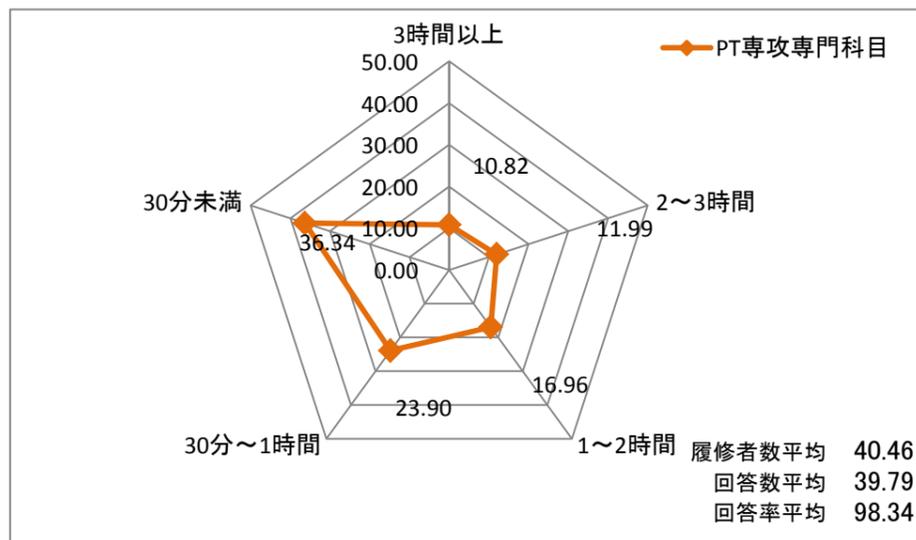
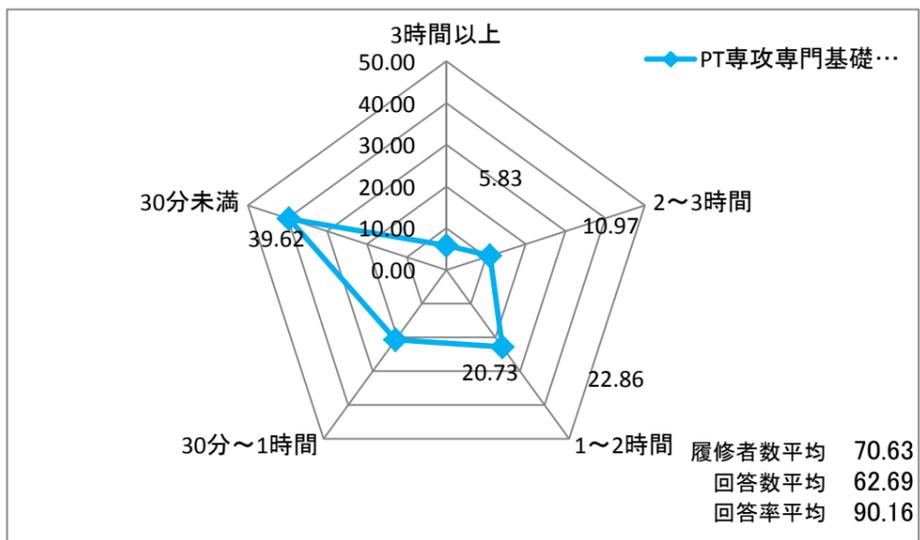
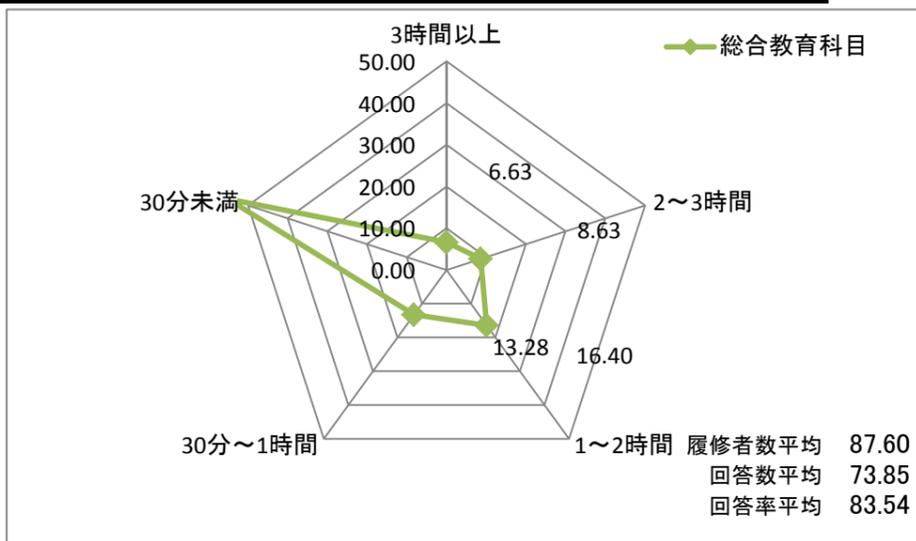
設問 15～17 自由記載
問 15 この授業で良かったと思う点を書いてください(自由記載)
問 16 この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点を詳しく書いてください
問 17 オプション(担当教員からの自由設問)
5. レーダーチャートについて
1. 『学生が講義を受けて、学生自身が変化や影響を受けたと感じる項目』
を元に作成した三角形のレーダーチャート(設問 4～6)
2. 『授業そのものの評価』(設問 2～3, 7～14)
を元に作成した九角形のレーダーチャート
6. 勉強時間 実習科目は本アンケートの対象外になっているため、臨床実習の実施時期によって、学年・学科専攻ごとに実習以外の科目の勉強時間(=本アンケートの調査結果)に差が現れているものと推測される。

2019年度 授業改善アンケート結果(後期【看護学科】)

科目名	勉強時間平均(%)				
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	0分～1時	30分未満
総合教育科目	6.56	8.71	16.69	13.35	54.71
看護学科専門基礎科目	6.33	13.31	19.74	17.78	42.86
看護学科専門科目Ⅰ	16.40	14.50	33.95	19.50	15.75
看護学科専門科目Ⅱ	7.72	10.78	28.00	22.67	30.83
看護学科統合科目	16.57	17.63	20.27	15.00	30.50



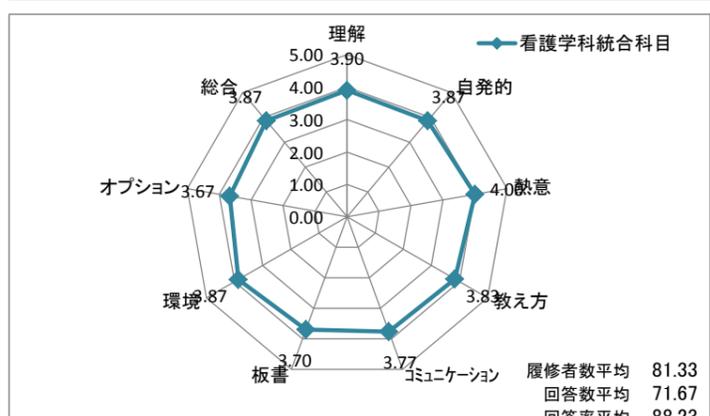
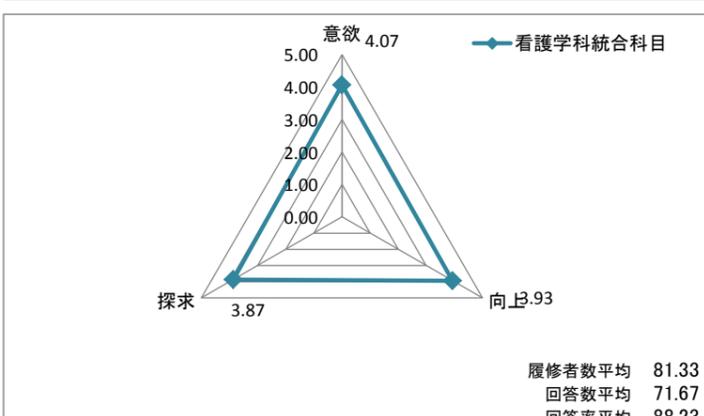
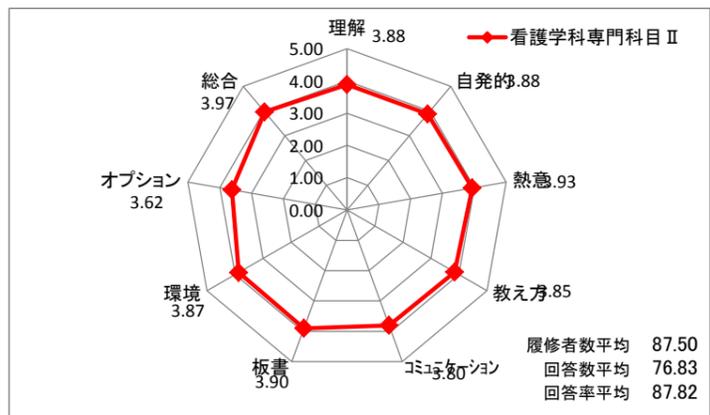
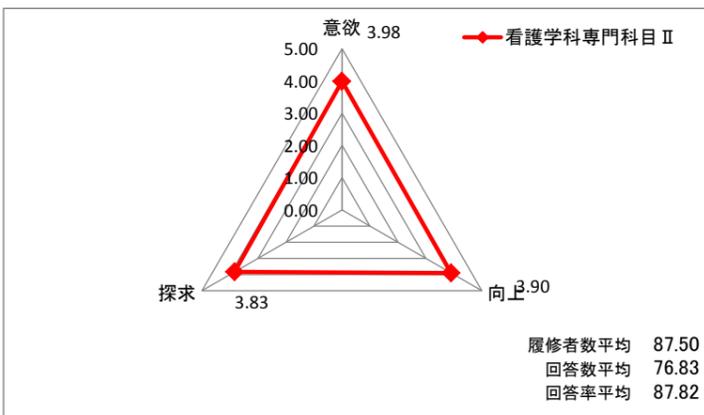
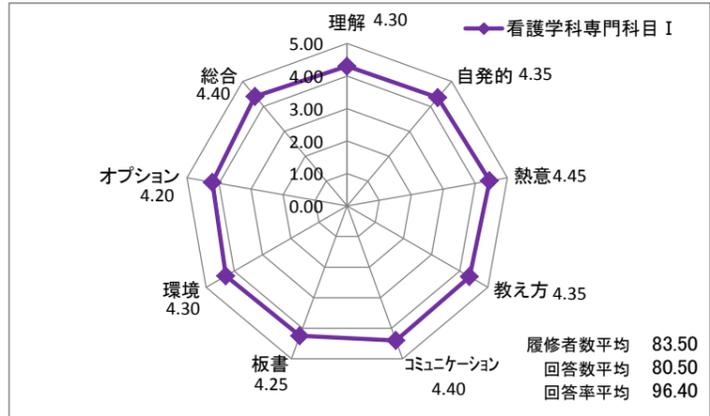
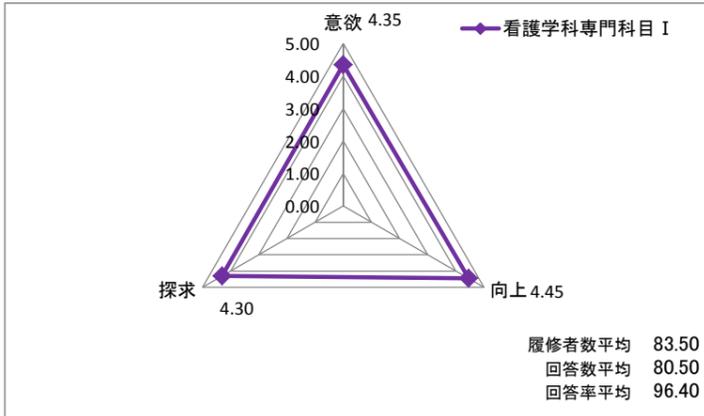
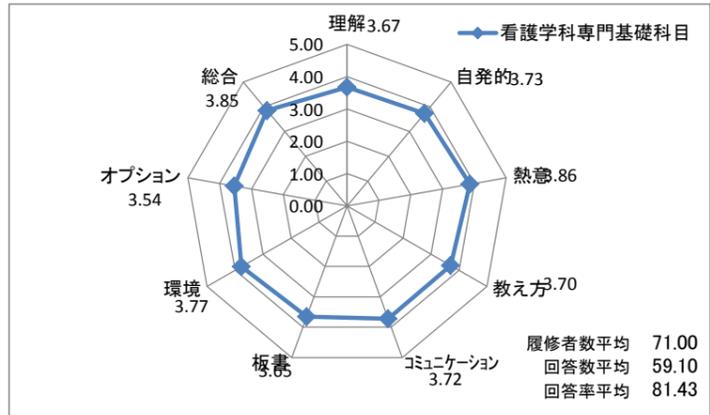
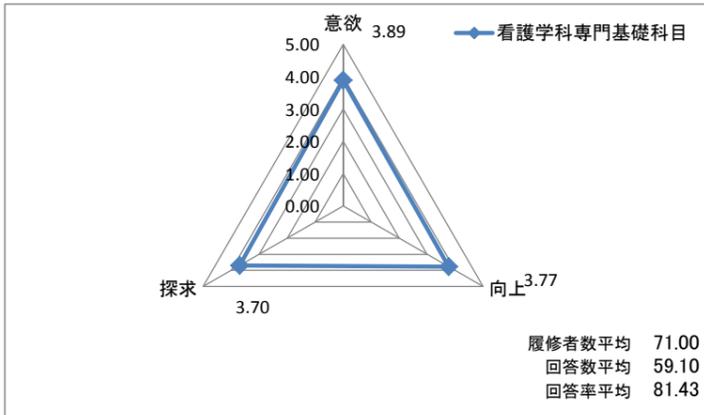
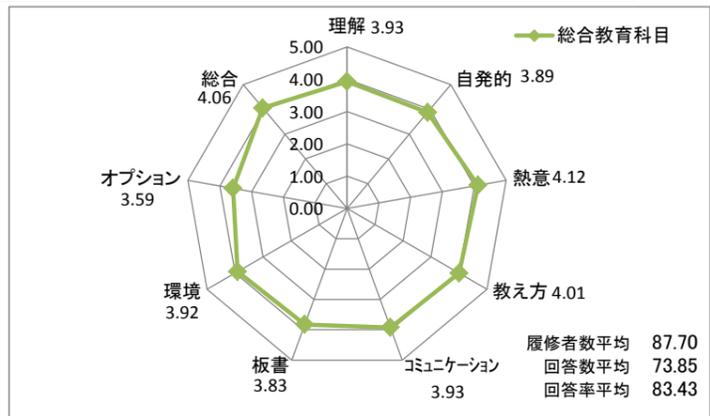
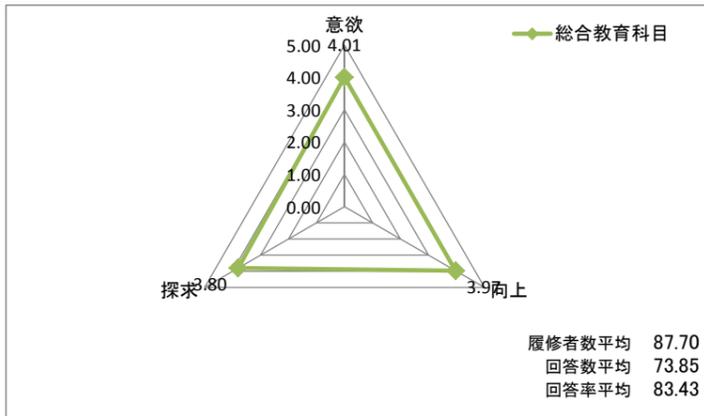
科目名	勉強時間平均(%)				
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
総合教育科目	6.63	8.63	16.40	13.28	55.07
理学療法学専攻専門基礎科目	5.83	10.97	22.86	20.73	39.62
理学療法学専攻専門科目	10.82	11.99	16.96	23.90	36.34
作業療法学専攻専門基礎科目	5.97	10.46	20.91	18.80	43.86
作業療法学専攻専門科目	7.48	10.13	19.38	13.30	49.73



2019年度 授業改善アンケート結果(後期)【看護学科】

※レダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レダーチャート(右)は学生による教員の評価

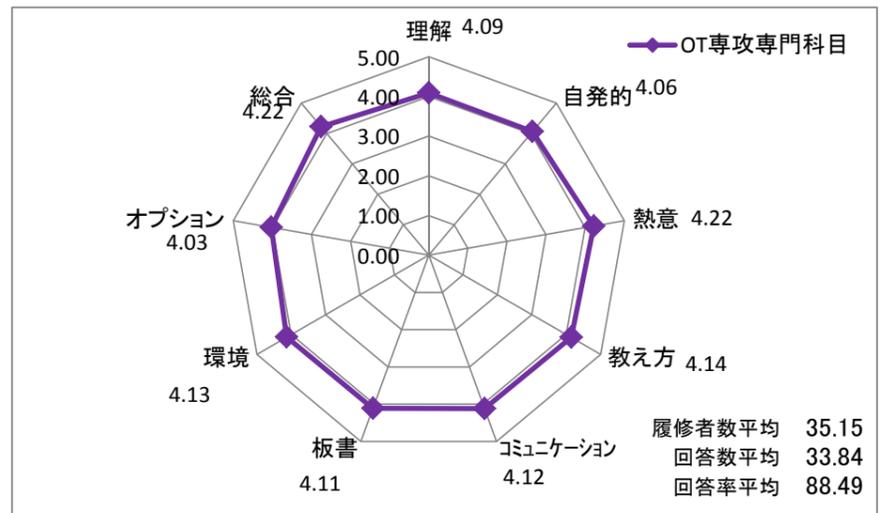
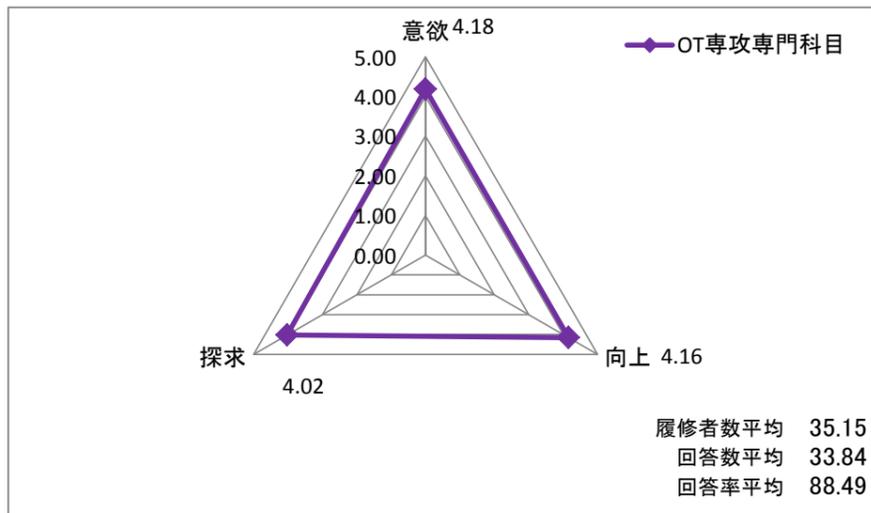
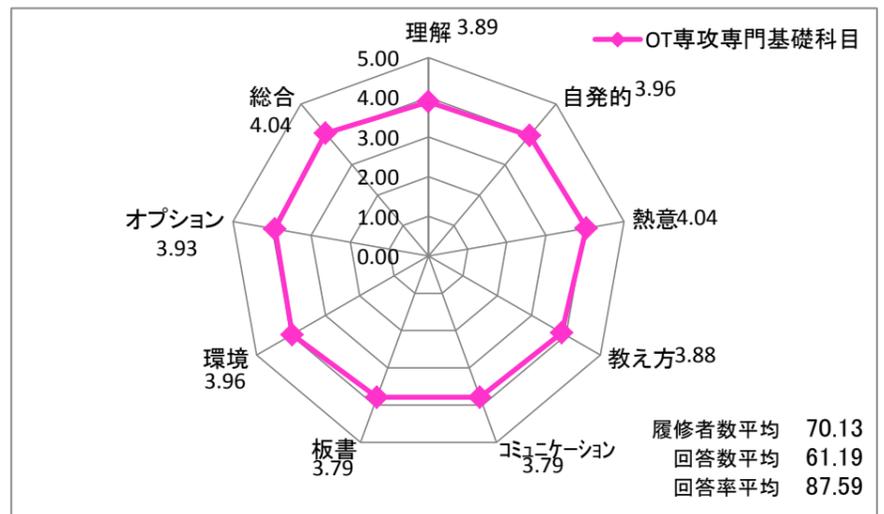
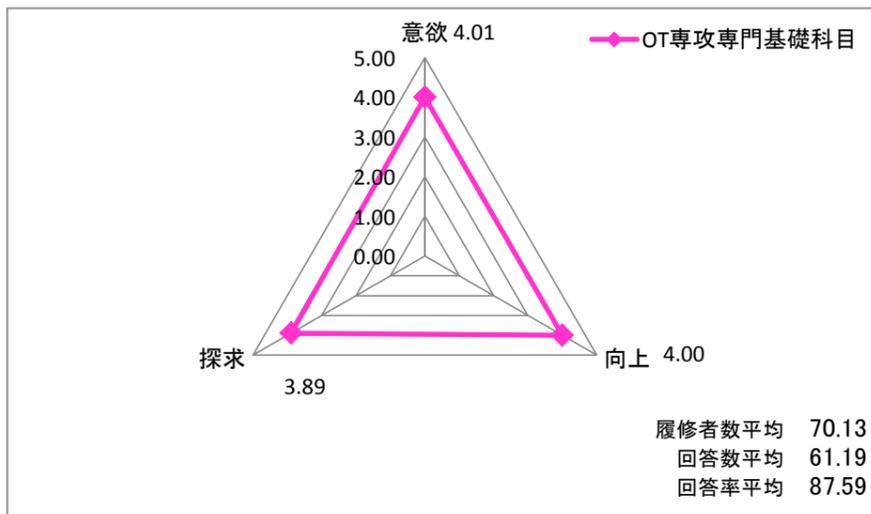
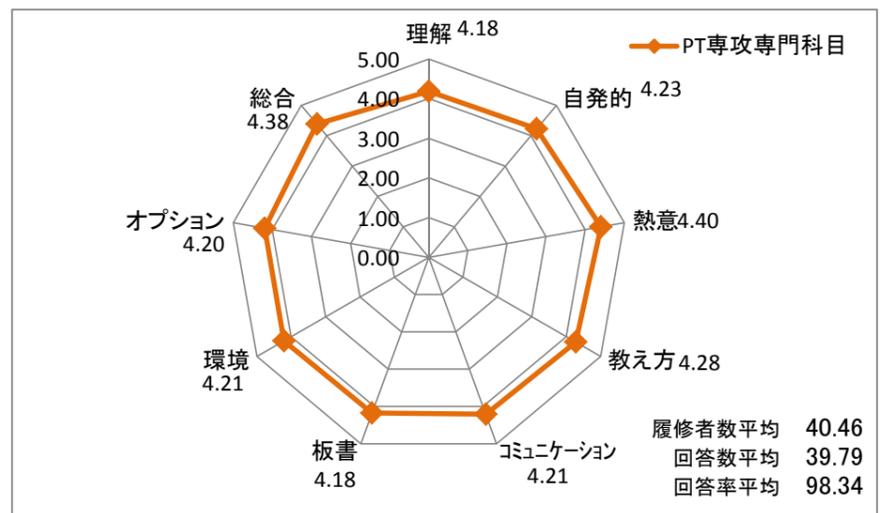
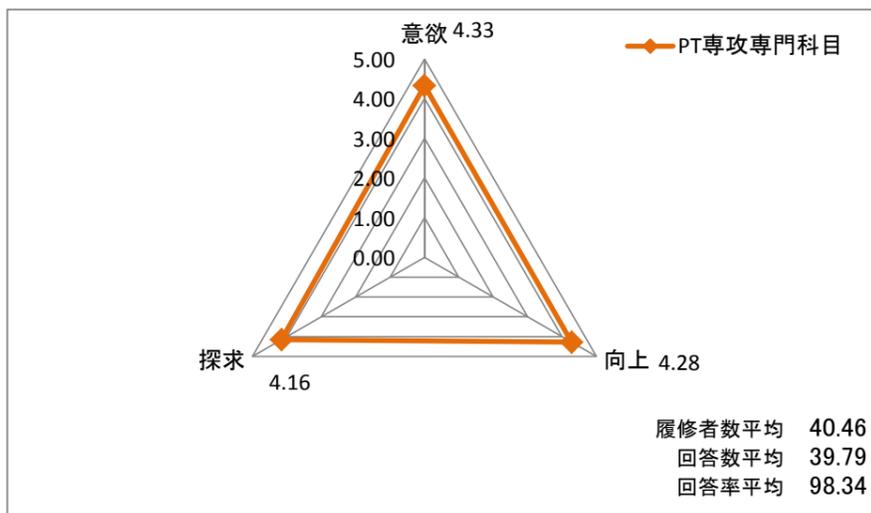
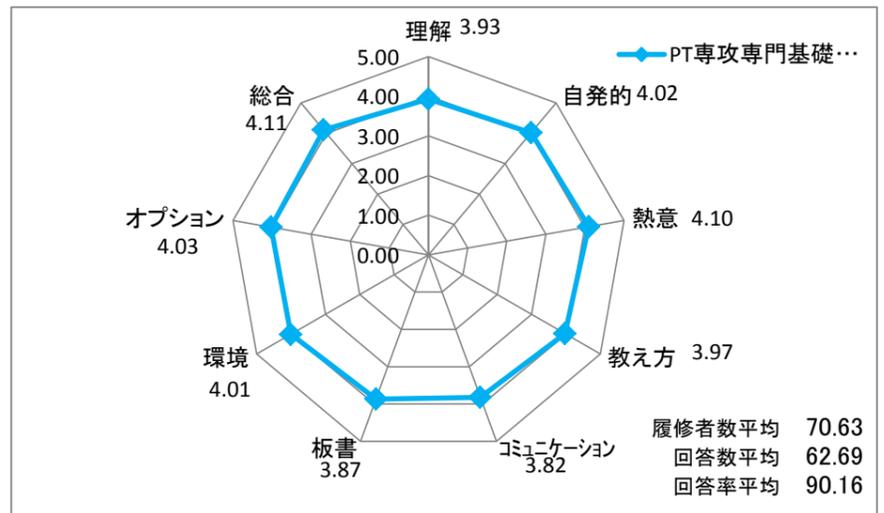
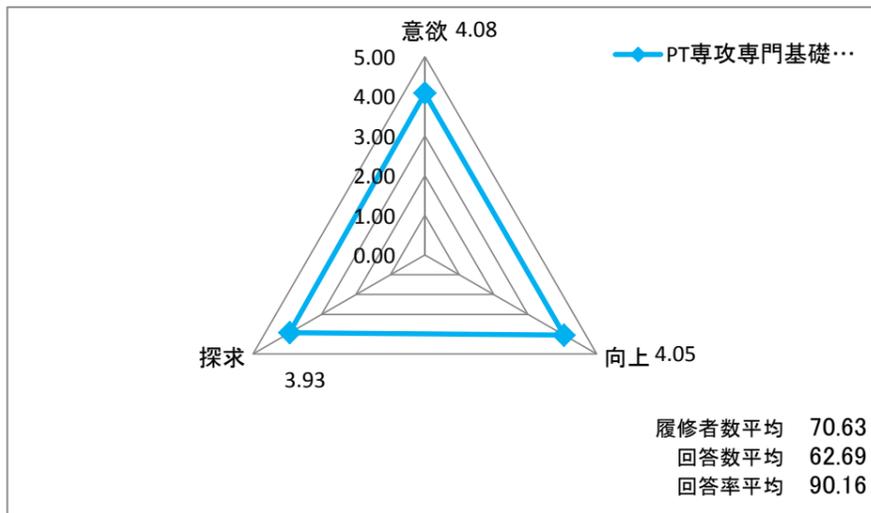
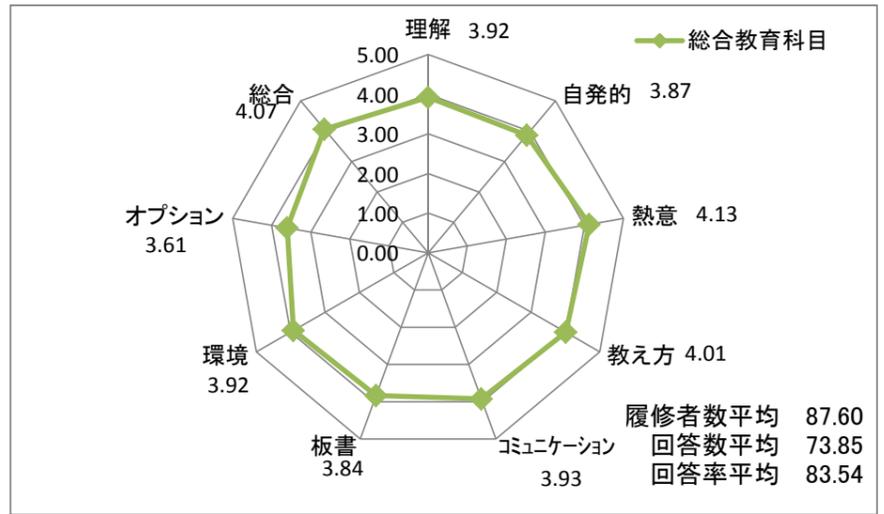
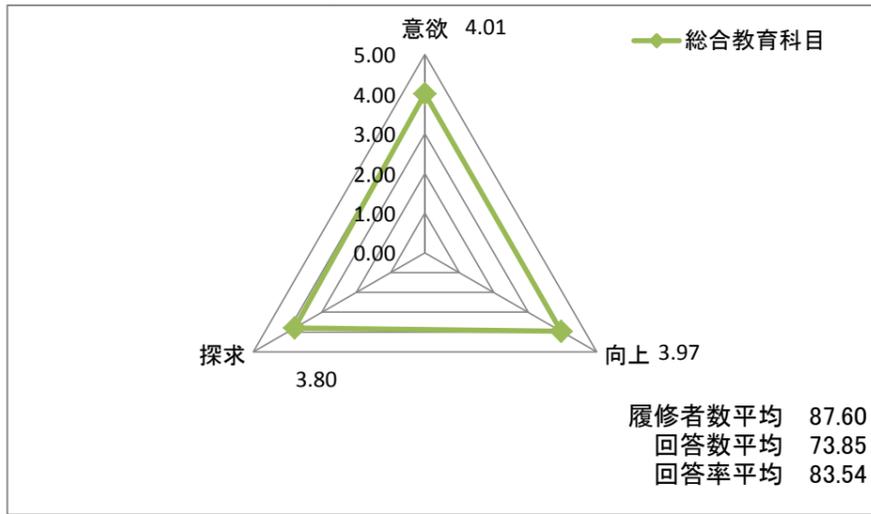
科目名	平均														
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探求	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境	オプション	総合
総合教育科目	87.70	73.85	83.43	4.01	3.93	3.97	3.89	3.80	4.12	4.01	3.93	3.83	3.92	3.59	4.06
看護学科専門基礎科目	71.00	59.10	81.43	3.89	3.67	3.77	3.73	3.70	3.86	3.70	3.72	3.65	3.77	3.54	3.85
看護学科専門科目Ⅰ	83.50	80.50	96.40	4.35	4.30	4.45	4.35	4.30	4.45	4.35	4.40	4.25	4.30	4.20	4.40
看護学科専門科目Ⅱ	87.50	76.83	87.82	3.98	3.88	3.90	3.88	3.83	3.93	3.85	3.80	3.90	3.87	3.62	3.97
看護学科統合科目	81.33	71.67	88.23	4.07	3.90	3.93	3.87	3.87	4.00	3.83	3.77	3.70	3.87	3.67	3.87



2019年度 授業改善アンケート結果(後期) 【リハビリテーション学科】

※レーダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レーダーチャート(右)は学生による教員の評価

科目名	平均															
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探求	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境	オプション	総合	
総合教育科目	87.60	73.85	83.54	4.01	3.92	3.97	3.87	3.80	4.13	4.01	3.93	3.84	3.92	3.61	4.07	
理学療法学専攻専門基礎科目	70.63	62.69	90.16	4.08	3.93	4.05	4.02	3.93	4.10	3.97	3.82	3.87	4.01	4.03	4.11	
理学療法学専攻専門科目	40.46	39.79	98.34	4.33	4.18	4.28	4.23	4.16	4.40	4.28	4.21	4.18	4.21	4.20	4.38	
作業療法学専攻専門基礎科目	70.13	61.19	87.59	4.01	3.89	4.00	3.96	3.89	4.04	3.88	3.79	3.79	3.96	3.93	4.04	
作業療法学専攻専門科目	35.15	33.84	88.49	4.18	4.09	4.16	4.06	4.02	4.22	4.14	4.12	4.11	4.13	4.03	4.22	



IV. 大学部会、教育部会、保育部会 2019年度 研修会プログラム

【大学部会】

月	内容		発表者
4.5月	ふれあいグループが目指すもの 新任教員及びその他の教員に対する教育方法 「看護学科及びリハビリテーション学科の教育方法」 ・カリキュラムポリシー、・学生を育てるための取り組み ・授業評価の結果を生かした授業の実践、・チューター制度/担任制度/オフィスアワー ・臨地実習・臨床実習 実習指導 【2019年度FD年間計画項目】 ・補助金の役割と対応（私立大学等改革総合支援事業） ・特色ある組織的な教育研究活動 ・効果的な推進に向けた改善（2019年度改定 個人研究費） 【卒業時アンケート報告】		大屋敷 芙志枝 加藤、鶴見 青木 西村
	FD 研修	【教員と臨床現場との連携活動について】 各学科初年次教育の紹介（今後の実施内容） 2019年度チーム医療論について①授業方針授業概要・方法（各症例）、②グループ 病院に就職後を見据えた授業展開	高畠、鈴木 牛田、中尾 寺本
	SD 研修	【残業減への取組み】 5月の文科省等各種統計調査の実施内容と作成注意点 【学生募集】①2018年度の募集活動分析 ②2019年度の募集活動：作業療法学専攻 広報展開について	阿部 宮本 成田、田中
6月	2019年度専門部会別研修会（プログラム別表）		
7.8月	ふれあいグループが目指すもの 入試改革における募集戦略		大屋敷 芙志枝 成田
	FD 研修	教育の質的向上への取組み：試験及び成績評価基準の考え方について 国家試験対策：両学科の専門基礎科目の苦手分野と学習ポイントについて 授業研究：2018年度後期授業評価アンケートの前年比UP教員による講義の工夫や 改善点について 実習評価：実習評価方法の検討	寺本 柴田 渡邊、長澤、須鎌、 光金 櫻井、猪股
	SD 研修	私立大学等改革総合支援事業助成金実務研修（総論）	青木
		〃	（企画部分）
〃		（教務学生支援部分）	西村
〃		（入試広報部分）	成田
〃		（総務部分）	阿部
〃		（法人情報公開 財務情報）	諸橋
〃	（法人情報公開 教育研究）	酒井	
〃	私立大学等改革総合支援事業助成金獲得に向けて実務研修	GW	
9.10月	ふれあいグループが目指すもの 科研費獲得に向けての総合研修 研究活動における研究費不正行為防止に関する研修 科学研究費採択経験者からの発表 学生に伝えるべき病院への就職のメリットを教職員全員で確認する		大屋敷 芙志枝 青木 川本、中川 寺本、小林、藤本、 大森、鈴木 寺本、川本、鶴見
	FD 研修	10月開講のチーム医療論の概要と講義の進め方について	GW
	SD 研修	2020年度学生便覧の改善点について	青木

11.12 月	ふれあいグループが目指すもの 教育の質的向上への取組み：経常経費一般補助強化「教育の質にかかる客観的指標の基準を達成する」		大屋敷 芙志枝 GW
	FD 研修	国家試験対策：国司対策の中間報告と後半・直前対策 授業改善：チーム医療論演習の検証と次年度への課題改善	川本、大澤 鶴見、中村、三川 GW
	SD 研修	学生募集：オープンキャンパスの反省と課題 経常経費特別補助強化「私立大学等改革総合支援事業」を獲得するための改善	成田、田中 GW
2月	第16回ふれあいグループ医療教育研究会（延期）		
3月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	FD 研修	4グループに分かれ、医療・教育研究会にて発表予定だった演題を発表	全教員
	S D 研 修	オープンキャンパスの今後の課題 2019年度国家試験状況と就職支援 2019年度広報活動の総括 獲得型補助金私立大学等改革総合支援事業	田中、益子 中川 安室、成田 青木

【教育部会】

	内容		発表者
4.5月 4.5月続 き	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護 校	就職100%を目指して教員・職員として各自ができること 国試対策指導方法：国家試験合格に向けた学生への関わりについて 模擬授業	GW GW 橋田、木村
	リハ 校	教育力・指導力を高める 31年度各学科学生募集の方針 各科国家試験総括（今年度の課題・対策） 模擬授業	加藤 古谷、高橋、岩淵 古谷、高橋、岩淵 松井、山根
	下田 校	第108回国家試験を終えて（状況と対策） 学生募集：2019年度の反省と2020年度の計画 就職100%を目指して 模擬授業	柳 鈴木 柳 池谷
	医 校	学則の確認、各種情報の管理体系について 学生確保に重点を置いた魅力ある資格取得教育の検討 模擬授業	杉山、坂田、遠藤 GW 本間、森、天野
6月	2019年度専門部会別研修会（プログラム別表）		
7.8月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護 校	就職100%を目指して教員・職員として各自ができること 国家試験対策①各学年取り組み状況②今後に向けての取り組み 模擬授業	矢崎 秋田 橋田
	リハ 校	新カリキュラムについて 職員に求められる能力、専門性について グループワークの手法～導入の意図・授業での展開・効能～ 模擬授業	古谷、高橋 藤田 米本、村中、合田 石井、杉山
	下田 校	国家試験対策 昨年度の反省と今年度の取組み 就職指導の基本知識 休退学者対策：クラス運営について 模擬授業	柳 柳 吉水 進士
	医 校	高等教育の修学支援新制度について GPA評価について 留学生の休退学の現状と対策 ～現状を踏まえての意見交換 高専連携に向けた授業計画の策定 模擬授業	宮内 杉山 高橋、坂田 坂田、森、天野 天野

9.10月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護校	就職100%を目指して教員・職員ができること 就職指導：施設の魅力を伝える最適な方法、アドバイスの方法 国家試験の取り組み状況、解説集作成について	秋田 前川 紺谷、板橋
	リハ校	就職100%を目指して：各科別の就職状況 就職100%を目指して：学科別の就職指導を分析・提案する 成績不審者への対応 模擬授業	加藤 古谷、高橋、岩淵 1.2年生担任 古谷、神保
	下田校	国家試験100%合格にむけて各学年対策状況 キャリア支援制度の活動状況 休退学者対策：教員としての私を育てる 模擬授業	柳 柳 高坂 高橋
	医ピ校	留学生指導について ・出席率向上と退学率軽減のための生活指導 ・介護施設でアルバイトする留学生の現状報告 ・留学生の就職指導 「学生募集」後半戦に向けての方策 資格合格率向上に向けた授業計画の策定 授業計画検討会	天野、森、衣幡、高橋 木村 坂田、森、天野 本間、川脇、森、衣幡、天野
11.12月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護校	高等教育無償化に関する伝達公衆 国家試験対策指導法：各学年取組み状況 休退学防止対策（1.2年生の傾向とその対策の検討） 模擬授業	町田 紺谷、板橋 増田 木村
	リハ校	休退学防止 ビジネス文書の基本 国家試験対策 模擬授業	岩淵 藤田 櫻井、神保、杉山 岡崎、合田
	下田校	就職状況報告 国家試験対策：現状と課題 授業評価精度について 模擬授業	柳 柳 柳 池谷
医ピ校	効率のよい高校訪問について（高校別分析） IT技術を利用した広報戦略を考える：現状と事例報告 高等教育の無償化に伴うシラバスの表記について：高等教育無償化の概要、シラバス表記の変更点 各学科の現状報告と落伍者の防止策の検討	今村 杉山、森、木村 杉山、宮内 坂田、森、天野	
2月	第16回ふれあいグループ医療教育研究会（延期）		
1.3月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護校	学生募集状況報告：状況報告と次年度への取組み 国家試験対策：各学年取組み状況 休退学防止に向けた対策 模擬授業	町田 紺谷、内記、高橋 増田 石井
	リハ校	休退学防止 学生募集の諸問題 各学科学年別国家試験対策 模擬授業	岡崎 藤田 松井、神保、岩淵 清川、神保
下田校	高等教育の修学支援制度について 入試状況、国家試験状況について ジクソー法を使った看護過程の展開について 模擬授業	柳 柳 高橋 進士	

	医 び 校	①高等教育無償化に伴う学校関係者評価について ②外国人学生対策と募集 本校の魅力を考える広報戦略（スケジュール、対象地域、高校等） 模擬授業 外部評価に向けて	宮内 宮内 坂田、今村 遠藤 坂田、杉山、森、天野
--	-------------	---	---------------------------------------

【保育部会】

	内容	発表者
4.5月	ふれあいグループが目指すもの 新年度に向けての保育活動の確認 食物アレルギー児の対応について 入園後の年少児の現状と対応 進級児の現状と対応 学校評価（自己点検）の検証 預かり保育のあり方、園児の関わり方について 避難訓練の検証 園内点検・危機管理の確認・見直しについて	大屋敷 芙志枝 主任 教員 年少担任 年中・年長担任 園長 GW GW GW
6月	2019年度専門部会別研修会（プログラム別途）	
7.8月	ふれあいグループが目指すもの 年少一学期の振り返り 年中一学期の振り返り 英語活動について 幼保小交流活動を経験して 感染症対策（手足口病・プール熱等） 業務改善（二学期の保育活動の確認） 預かり保育のあり方・対応	大屋敷 芙志枝 森本、山本 織田、猪井、長江 畠山、上谷、納戸 保育教諭 年長担任 GW GW
9.10月	ふれあいグループが目指すもの 乳幼児突然死症候群への対応策 保育所における感染症対策 環境整備と衛生管理 子どもも大人も輝きだす褒め言葉 子どもの聞く姿から音環境を考える 保育所における感染拡大防止策 子ども、自然、環境をつなぐ眼差しについて 家庭との連携を踏まえた「食育活動」 保育現場での質を高める 運動会の計画・準備・検証 園児募集についての確認・検証	大屋敷 芙志枝 DVD DVD DVD 納戸 畠山 DVD 猪井 上谷 織田 GW GW
11.12月	ふれあいグループが目指すもの 保育活動の流れ 認定こども園・保育園の指針・要領について 0, 1, 2歳児の保育 3, 4, 5歳児の保育 保護者・地域とともに創造する保育 保育者の育ち インフルエンザの予防と治療、最新情報 子どもの姿の読み取りと保育者の援助 こどもの手作りおもちゃについて 季節を取り入れた表現方法 預かり保育のあり方の検証	大屋敷 芙志枝 DVD DVD DVD DVD DVD DVD 畠山、上谷 猪井 織田、山本 長江、納戸 GW
2月	第16回ふれあいグループ医療教育研究会（延期）	
1.3月	ふれあいグループが目指すもの アナフィラキシー対策とエピペンの扱い 食物アレルギー自己事例報告 アレルギー症状への対応手順	大屋敷 芙志枝 DVD DVD DVD

食物アレルギーの診断と検査 治療と対応 エピペンの実習 保育活動の振り返り（3歳、4歳、5歳） 自己点検表の確認 年間事業計画の検証 1日入園についての確認（園児募集） 6S活動について	DVD DVD DVD 各学年担任 GW GW GW GW
--	--

2019年度専門部会別研修会（2019年6月16日（日））

大学部会		
テーマ：湘南医療大学の「教育内容・教育方法」に関する取組（教員）		
教育内容・教育方法の構築及び学習成果の可視化への取り組み 私立大学等改革総合支援事業（教育の質的転換）	教育内容・教育方法に関する取り組み① ～事前事後学修を促す授業の開講～	片山 田邊
	教育内容・教育方法に関する取り組み② ～アクティブラーニング授業の開講～	大澤 久保田
	教育内容・教育方法に関する取り組み③ ～学生の学修成果の把握及び活用～	岡 森尾
大学が抱える課題への取り組み	休退学者を減少させる教育 ～学内連携における学生支援策の検討～	牛田 中尾
国家試験対策 今年度100%合格達成できる指導方法	国家試験全員合格できる支援と対策 どの領域や分野の問題で躓きやすいのか。前年度の指導の反省と分析を踏まえて、一人ひとりに合った勉強方法を考える。	羽生 坂上 三川
「チーム医療」並びに「他職種協働」を実践できる人材教育（学部・大学院）	専門職連携教育 「Interprofessional education (IPE)」 ～学部及び大学院での実践教育～	寺本 島田 澤井 中村 西野

教育部会		
テーマ：指導力の向上を目指して		
学生募集「各校の出願者を増加させるための方略」		町田、久保田、鈴木、今村
休退学防止対策「退学者を防止する取り組み」、「高い合格率に繋がった国試対策（好事例紹介）」		増田、高橋、古谷
教員研修	症例研究からチーム医療を学ぶ～チーム医療の症例研修～	清川、村仲、野澤、高橋
職員研修	SD研修 大学・専門学校事務職員連携企画 企画力・広報力を鍛える、学生支援を充実する、業務改善	成田、中川、藤原、菊地、西村、前川、阿部、藤田

保育部会		
テーマ：乳幼児の環境設定と保育・教育活動		

環境が育む健やかなこどもの育ち、こども園の一日、異年齢による育み、遊びを豊かにする環境構成、「食」を通した育ち、学びの芽 多様な経験を通して、保護者支援・地域の子育て支援、保育者の連携と学び	DVD
保育園の環境設定とデイリープログラム	保育士
各園の保育活動の事例発表	

第 16 回ふれあいグループ医療教育研究会（令和 2 年 2 月 23 日（日））

⇒新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施延期

V 地域連携・交流活動

行事名	日時	場所	概要
公開講座開催 (全9回開催予定※2020年3月開催予定の2回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した)	第1回 5月18日(土)	湘南医療大学	作業療法で能力回復～脳卒中を例に～ 理学療法士のお仕事
	第2回 6月8日(土)	湘南医療大学	介護者の負担を減らす試み こころが風邪をひいたときは
	第3回 7月27日(土)	湘南医療大学	色彩効果で脳力活性、コミュニケーション!
	第4回 9月28日(水)	湘南医療大学	人口減少とAI～40年後の未来をどう生きる?～ 作業療法士のお仕事
	第5回 10月5日(土)	湘南医療大学	知っておくと困らない耳・鼻・のどの病気 こころと身体のリハビリテーション
	第6回 10月26日(土)	湘南医療大学	美味しく食べて健康年齢を伸ばそう 指が思うように動かない、これって病気? 音楽家を襲う病気「ジストニア」とは
	第7回 11月23日(土)	湘南医療大学	100歳まで脳を元気に
	第8回 3月14日(土)	湘南医療大学	呼吸器と肌を快適に-アレルギーの病気を “ゼロ”にする方法-
	第9回 3月28日(土)	湘南医療大学	あなたの脳は右利き?左利き? 動きの若返りは脳リハで
「ワクワクけんこうフェスタ」	2019年8月18日(日)	戸塚区役所	主催：戸塚区 内容：こどもの時から健康に関心を持ってもらい、生活習慣病の予防を促進するために、区内の3大学や関係団体、企業等と連携して、測定や体験、セミナー等の企画を実施する。 本学は、看護師体験(簡単な測定)企画と理学療法の体験型ミニセミナーを実施した。
生涯学習フェア	2019年7月6日(土) 7日(日)、9月7日(土)	かながわ県民センター	主催：神奈川県 内容：生涯学習の場についての情報提供を行う企画で、本学から事務職員がブース参加し、来訪者からの相談・質問に応じたり、公開講座や認定看護師養成課程についての広報を行った。
ヨコハマ大学まつり	2019年9月29日(日)	みなとみらい 21 地区クイーンズスクエア横浜周辺	主催：ヨコハマ大学まつり実行委員会(横浜市内30大学) 共催：大学・都市パートナーシップ協議会、横浜市

			<p>協力：一般社団法人横浜みなとみらい21 協賛：クイーンズスクエア横浜 内容：「大学・都市パートナーシップ協議会の各大学が一堂に集まり、最先端の教育研究内容と学生のパワーを活かして、みなとみらい21地区から市域全体に新たな魅力の発信を図るとともに、市民の皆様にもっと大学を知っていただき、身近に感じていただく。」の趣旨のもとに実施している。</p>
第5回 湘南医療大学大学祭	2019年11月22日(金)、11月23日(土)	湘南医療大学	<p>主催：湘南医療大学 大学祭実行委員会 テーマ：地域、保護者、高校生の皆様に、学修の成果やサークル活動の様子の紹介に授業で修得した知識・技術を生かした内容を加え開催した。</p>
中学校職業体験	<p>第1回 9月20日(金) 第2回 11月22日(金) 第3回 1月29日(火)</p>	<p>湘南医療大学／ふれあい東戸塚ホスピタル 湘南医療大学／ふれあい東戸塚ホスピタル</p>	<p>主催：湘南医療大学 共催：横浜市戸塚区役所地域振興課 内容：戸塚区役所からの要請を受けて、近隣の中学校（舞岡中学校、名瀬中学校、港南中学校）に対し、大学見学及び体験授業を行った。 参加者：計15名</p>

VI 湘南医療大学 研究業績

(1) 著書

書名	発行所	発行月	著書
急性中耳炎、小児科診療ガイドライン—最新の診療指針—第4版	総合医学社	2019年4月	喜多村 健
めまい、緊急度・重症度からみた症状別看護課程+病態関連図、第3版	医学書院、	2019年11月	西尾綾子、喜多村 健
私のこの1冊 Anatomy of the Temporal Bone with Surgical Implications	JOHNS。35(8)1006-7, 2019	2019年8月	喜多村 健
大気・室内気環境関連疾患予防と対策の手引き 2019。(日本呼吸器学会大気・室内気環境関連疾患予防と対策の手引き 2019作成委員会編)	メディカルレビュー社	2019年	橋本 修
『NICEリハビリテーション看護 改訂第3版』回復期におけるリハビリテーション看護	南江堂	2020年出版	塩田美佐代
アドバンスケアプランニング「町全体で患者中心とい医療の実践」	日本看護協会出版社	2019年6月5日	塩田美佐代
アロマセラピーを活かしたフットケア	日総研出版 臨床老年看護 2019年9・10月号	2019年9月	塚原ゆかり
助産師のための妊娠糖尿病ケア実践ガイド	医歯薬出版株式会社	令和元年10月15日	鶴見 薫
徒手による筋機能マネジメント 筋肉テストブック(筋機能の診かた・トリガーポイント・内臓-体性システムの理解)	ガイアブックス 長谷川早苗 監訳 B5版 P.287	2019年4月	坂上 昇
イラストでわかる内部障害学、心筋梗塞後の事例、	医歯薬出版株式会社	2019年11月	上杉雅之、堀江 淳、森尾裕志、ほか27名
医療系学生のための生理学実習書	丸善書店株式会社	2020年2月	斎藤琴子、實木亨、實木葵、須鎌康介
徒手による筋機能マネジメント 筋肉テストブック	ガイアブックス	2019年4月	坂上昇、中尾陽光、下田栄次
イラストで分かる物理療法	医歯薬出版株式会社、東京	2019年6月	大矢 暢久

(2) 学術論文

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
A: Occipital epilepsy was presented in a patient with intracerebral schwannoma: a case report and literature review	Int J Neurosci.	2019: 129(3): 308-312.	Ten H, Yamaguchi F, Matsuno A, <u>Teramoto A</u> , Morita
Rapid screening of copy number variations in STRC by droplet digital PCR in patients with mild-to-moderate hearing loss.	Human Genome Variation (2019)6:41 https://doi.org/10.1038/s41439-019-0075-5	2019年9月	Ito T, <u>Kitamura K</u> , et al.
Forced oscillation technique may identify severe asthma	J Allergy Clin Immunol Pract.	2019 Jun 5	Shirai T, Hirai K, Gon Y, Maruoka S, Mizumura K, Hikichi M, Itoh K, <u>Hashimoto S</u>
Increased extracellular vesicle miRNA-466 family in the bronchoalveolar lavage fluid as a precipitating factor of ARDS.	BMC Pulm Med.	2019 Jun	Shikano S, Gon Y, Maruoka S, Shimizu T, Kozy Y, Iida Y, Hikichi M, Takahashi M, Okamoto S, Tsuya K, Fukuda A, Mizumura K, <u>Hashimoto S</u> .
Forced oscillation technique may identify asthma-COPD overlap.	Allergol Int	2019 Jul	Shirai T, Hirai K, Gon Y, Maruoka S, Mizumura K, Hikichi M, Itoh K, <u>Hashimoto S</u>
A humanized mouse model to study asthmatic airway inflammation via the human IL-33/IL-13 axis.	Am J Rhinol Allergy	2019 Mar	Nagata Y, Maruoka S, Gon Y, Mizumura K, Kishi H, Nomura Y, Hikichi M, <u>Hashimoto S</u> , Oshima T
Forced oscillation technique may identify asthma-COPD overlap	Allergol Int	2019 68(3):385-387	Shirai T, Hirai K, Gon Y, Maruoka S, Mizumura K, Hikichi M, Itoh K, <u>Hashimoto S</u> .

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
要介護認定高齢者がインクルーシブデザイン手法の衣服制作に参加することによる精神的健康への影響(再読有)	在宅ケア学会誌 2019年23巻1号,91-96	令和元年9月	菊池 有紀
在宅高齢者の地域力を活かした介護予防プログラムの試み(査読有)	日本看護科学会誌2019年 39 巻 p. 54-58	令和元年8月	菊池 有紀
在宅高齢者の地域力活用の試み-介護予防プログラムの実践に焦点をあてて-	地域ケアリング Vol21.No.13. 2019 40-41	令和元年12月	菊池 有紀
熊本地震で被災した患者・看護師へのメンタルサポートの現状や心理的な変化と特徴を明らかにすることを目的とした質的研究	日本アディクション看護学会誌 第16巻	2019 掲載予定	陶山克洋,片山典子
妊婦主体の情報共有によって夫婦と助産師を支援する出産支援サービス“Mama to Baby”(博士論文)	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科	2019年9月	伊東 春美
夫婦のコミュニケーションを促進する出産支援サービスMama to Baby	第60回日本母性衛生学会(千葉県) p.157	2019年10月	伊東 春美
Effect of changing obstacle height and pace on toe clearance in healthy young males performing an obstacle-stepping task	WCPT Congress 2019 ジュネーブ(スイス):Palexpo	2019年5月	坂上 昇
介護老人保健施設での介護職員指導に関する研究-行動分析学の枠組みを用いたインターネット利用による介助指導-	科学研究費助成事業データベース(2017年度 研究成果報告書)(公開日:2019. 3. 29)	令和1年	小林 和彦
レオナルド・ダ・ヴィンチから学ぶ医学-リハビリテーションと解剖学からみる体のしくみ-	専門リハビリテーション研究会誌 p7-1	2019.4	金承革, 柴田昌和
中殿筋の肉眼解剖学的構造と片脚立位保持・歩行における機能	バイオメカニズム26	2019	柴田昌和
Standard Cardiac Rehabilitation Program for Heart Failure (心不全の心臓リハビリテーション標準プログラム)(査読付)	Circulation Journal 83:	2019年11月	Izawa H, Yoshida T, Ikegame T, Izawa KP, Ito Y, Okamura H, Osada N, Kinugawa S, Kubozono T, Kono Y, Kobayashi K, Nishigaki K, Higo T, Hirashiki A, Miyazawa Y, Morio Y, Yanase M, Yamada S, Ikeda H, Momomura S, Kihara Y, Yamamoto K, Goto Y, Makita S
The knee extension muscle force threshold for maintaining walking speed in older male patients (高齢男性患者の歩行速度を維持するための膝伸筋力閾値)(査読付)	Anthropological Science 127:	2019年12月	Omori Y, Ishiyama D, Sasaki S, Tada M, Mogamiya T, Morio Y, Katata H, Koyama S, Hatanaka Y, Sasa M, Iijima S, Niki H
地域在住高齢循環器疾患患者における身体機能および身体活動と機能的予後	地域ケアリング 2019: 68-70	2019年11月	井澤和大, 平野康之, 森尾裕志
循環器疾患患者に対するリハビリテーション	理学療法京都 2020	2020年3月	井澤和大, 平野康之, 森尾裕志
腹直筋への電気刺激による変化について	理学療法科学(査読付き)	2020年	斎藤琴子, 柴田大輔, 大矢暢久
鏡を用いた随意促通の即時運動効果	理学療法科学(査読付き)	2020年	斎藤琴子, 菅原憲一
ヘッドマウントディスプレイを用いた動画視聴によるホームプログラムの実施が身体機能および実施率に与える影響について(査読付き)	国際エクササイズサイエンス学会誌	2019年	山崎尚樹, 小貫睦巳, 中村壽志, 田中一秀
健康増進を目的とした運動方法の提案-自動化機器を用いた姿勢評価と運動支援-(査読付き)	国際エクササイズサイエンス学会誌	2019年	中村壽志, 小貫睦巳, 山崎尚樹, 田中一秀
地域住民における山形県湯野浜温泉の温泉浴の効果(査読付き)	日本温泉気候物理医学会雑誌 印刷中	2019年	前田眞治, 中村壽志
見学実習前後での主観的健康感の変化	専門リハビリテーション研究会誌	2019年10月	中村壽志
床からの立ち上がり動作パターンと身体機能の関係	地域リハビリテーション学会誌	2019年12月	中村壽志
足底への温熱療法がバランス能力に与える影響	日本温泉気候物理医学会雑誌	2020年3月投稿予定	中村壽志

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
Test retest reliability of goniometric measurements of the range of dart-throwing motion (査読付)	Journal of Physical Therapy Science 31,pp.236-241,201	令和元年3月	Masahiro Mitsukane, Hirofumi Tanabe, Kosuke Sugama, Yusuke Suzuki, Takahiko Tsurumi
上位型腕神経損傷に対する肩・肘関節同時機能再建術後の機能転換獲得に向けた工夫(査読付)	作業療法ジャーナル 53(11),pp.1195-1198,2019.	令和元年11月	鈴木雄介,三川年正, 生田宗博
Focal dystonia is a movement disorder manifesting among musicians: a single case study ミュージシャンに出現したフォーカルジストニアによる運動障害: シングルケーススタディ(査読付)	International Journal of Innovation and Research in Educational Sciences, Vol6,	2019年5月	Hirofumi Tanabe, Masatoshi Mikawa, akikiko Kondo, Munehiro Ikuta
フォーカルジストニアの軟部組織に対するアプローチの実践(査読付)	作業療法38巻4号:505-510	2019年8月	田邊浩文, 生田宗博, 三川年正
Gait Speed and Hip Joint Range of Motion Range Improvements Using Piston Device for Hip joint(査読付)	19th international conference on control, automation and systems(ICCAS2019 Korea)	2019年10月	Hirofumi Tanabe, Toshimasa Mikawa, Akihiko Kondo, Munehiro Ikuta
Effect of Introducing EMG Biofeedback to a Finger Extensor Facilitation Training Device for Hemiplegic Patients after strokes (査読付)	19th international conference on control, automation and systems(ICCAS2019 Korea)	2019年10月	Da shuhan, Hirofumi Tanabe, Yoshifumi Morita.
Rehabilitation Support Robot for Self Standing-up Training of Hemiplegic Stroke Patients-Deslgn of Counterbalance Mechanism-(査読付)	19th international conference on control, automation and systems(ICCAS2019 Korea)	2019年10月	Tsuyoshi Tokinaga, Hirofumi Tanabe, Takumi Yoshizawa, Yoshifumi Morita.
Verification of therapeutic effect of a piston device for foot with spastic palalysis (査読付)	19th international conference on control, automation and systems(ICCAS2019 Korea)	2019年10月	Nguyen Thi Kicu Chinh, Hirofumi Tanabe, Kenji Ookawa, Yoshifumi Morita.
Effect of walking speed intervention for stroke hemiplegia using neurorehabilitation-robot(査読付)	Health(11)	2019年11月	Hirofumi Tanabe, Toshimasa Mikawa, Akihiko Kondo, Hiroshi Tanabe.
Effect of walking speed intervention for stroke hemiplegia using neurorehabilitation-robot(査読付)	Health(ISSN:1949-4998)	2019年11月	Hirofumi Tanabe, Toshimasa Mikawa, Akihiko Kondo, Hiroshi Tanabe.
Manual Therapy on Upper Extremity of Hemiplegic Stroke Patients	4th Annual Meeting of China Association of Rehabilitation Medicine and Engineering 清華大学・北京首都医科大学招聘講演	2019年9月	田邊浩文
痙縮減弱と軟部組織の短縮を改善するロボットの開発—ピストンフィンガーテクニクデバイス—(査読付)	第53回日本作業療法学会抄録集,福岡	2019年9月	田邊浩文, 生田宗博, 三川年正, 近藤昭彦
一人暮らし高齢者の食生活に関する国内の文献研究	第53回日本作業療法学会, PJ-2A03, 2019	令和元年9月	猪股英輔, 小林法一
医療系養成校進学者の現状と課題(文献研究)	作業療法	2020年5月	久保田 清子
Focal dystonia is a movement disorder manifesting among musicians.	International Journal of Innovation and Research in Educational Sciences. Volume 6, Issue 3, 327-332.	2019.5	近藤昭彦
.Focal dystonia is a movement disorder manifesting among musicians : a single case study (査読付)	International Journal of Innovation and Research in Educational Sciences. Volume 6, Issue 3, May 2019 (電子ジャーナル)	令和元年5月18日(2019)〃	田邊浩文, 三川年正, 近藤昭彦, 生田宗博
フォーカルジストニアの軟部組織に対するアプローチの実践(査読付)	作業療法38-4(2019)505-510	令和元年8月15日(2019)〃	田邊浩文, 生田宗博, 三川年正, 近藤昭彦

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
上位型腕神経損傷に対する肩・肘関節同時機能再建術後の機能転換訓練の工夫 (査読付)	作業療法ジャーナル2019.11	令和元年11月15日(2019)	鈴木雄介, 三川年正, 生田宗博
作業療法学生に求められる社会性 —臨床実習指導者に対する質的調査— (査読付) (修士学位論文)	作業療法ジャーナル2019.12	令和元年12月15日(2019)	三川年正, 鈴木久義
Perception of depressive for post-stroke depression	International Journal of Innovation and Research in Educational Sciences, Volume	令和元年12月	三川年正, 田邊浩文
The effect of rehabilitation for post stroke depression	International Journal of Innovation and Research in Educational Sciences, Volume	令和2年2月	三川年正, 田邊浩文

(3) 学会発表

発表タイトル	学会名	発表月	発表者
出張!高齢者ケアの教師塾湘南in Kyoto 生活者として高齢者を理解する ~「気づき方」と「わかり方」を育む~, 交流セッション	日本看護学教育学会第29回学術集会、京都、	2019.8	生田貴子、梅原里実、鈴木陽子ほか
介護支援専門員の「協働的能力」を高める要素	第12回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会(文京学院大学 本郷キャンパス)	令和元年9月	小林 紀明
学会抄録『Effect inspection of a home visit-care content list for adolescent schizophrenia patients in the critical period』	APNA (American Psychiatric Nurses Association) 33rd Annual Conference in New Orleans, LA	令和元年10月2日~5日	片山 典子
CS立体図と道路中心線データを用いた地域支援プログラムの可視化	第7回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 169	2019年8月	服部兼敏、種市ひろみ、澤井美奈子
バイオテロに関する健康危機管理教育受講と保健師学生の知識、認識の変化	第8回日本公衆衛生看護学会学術集会(愛媛県松山市)	2020年1月(発表予定)	澤井美奈子、鈴木良美、石田千絵、呉珠響
バイオテロに対する感染症対策部門保健師の知識や研修受講経験	第8回日本公衆衛生看護学会学術集会(愛媛県松山市)	2020年1月(発表予定)	鈴木良美、澤井美奈子、石田千絵、呉珠響
地域力を活かした介護予防プログラムの活用の可能性~主観的健康感および握力と片足立位時間への影響~	第39回日本看護科学学会学術集会	令和元年	菊池 有紀
地域力を活かした介護予防プログラムが認知機能、うつ傾向、自己効力感に与える影響	第24回日本在宅ケア学会学術集会	令和元年	菊池 有紀
在宅看護学実習における実習環境や実習展開の違いによる学生への学びの影響	日本看護学教育学会第29回学術集会	令和元年	菊池有紀、塚原ゆかり
地域における子ども・子育て支援に関わるボランティア活動の分析	第78回日本公衆衛生学会総会	2019年10月(予定)	山崎 真帆
在宅看護学実習における実習展開と学生の学び(第1報)	日本看護学教育学会第29回学術集会(京都)	2019年8月	塚原ゆかり、菊池有紀
在宅看護学実習における実習環境や実習展開の違いによる学生への学びの影響(第2報)	日本看護学教育学会第29回学術集会(京都)	2019年8月	塚原ゆかり、菊池有紀
名古屋市「共働きカップルのためのババママ教室」の運営状況と参加者による満足度評価	母性衛生60巻3号222ページ(学会抄録)/第60回日本母性衛生学会学術集会 口頭発表	2019年10月	久保田 泰加
理学療法士養成校の学生における見学実習と主観的健康観	専門リハビリテーション研究会第19回学術研修大会	2019年7月	中村壽志、大森圭貢、下田栄次、坂上昇
Effect of changing obstacle height and pace on tie clearance in healthy young males performing an obstacle-stepping task	WCPT 2019, ジュネーブ	令和元年6月	Yuji MORIO, Yoshitsugu OMORI, Takuya UEDA, Naoki SASA, Shigeya TANAKA, Chika TANAKA, Tetsuya YAMAGAMI, Yoshitaka SHIBA

(4) 研究補助金等外部資金の受入れ状況

	種目	課題名	研究者	開始年度	終了予定	終了年度	2019総額	2019直接	2019間接
1	基盤研究C	介護保険施設等に勤務する看護師のエンプロイアビリティに関する研究	牛田 貴子	2015	2018	延長 2019	0	-	-
2	若手研究B	在宅高齢者の地域力を活かした介護予防プログラムの活用と検証	菊池 有紀	2016	2018	延長 2019	0	-	-
3	基盤研究C	青年期統合失調症者の臨界期における訪問看護師の教育プログラムの開発	片山 典子	2017	2019	延長 申請中 2020	910,000	700,000	210,000
4	基盤研究C	テロリズムに対する保健師の準備態勢に関するコンピテンシーモデルの開発	澤井 美奈子	2017	2019		260,000	200,000	60,000
5	基盤研究C	在宅においても実施可能である棒まがぎ体操が歩幅、運動耐容能に与える効果の検証	森尾 裕志	2018	2020		650,000	500,000	150,000
6	若手研究	外傷性脳損傷官舎の社会的行動障害への対応方法に関する研究：家族代表の視点から	鈴木 雄介	2018	2019	延長 申請中 2020	910,000	700,000	210,000
7	若手研究	思春期のひきこもり親和性群の心理社会的要因とSNS利用の関連	玉田 聡史	2018	2020		1,170,000	900,000	270,000
8	若手研究	局所投与かつ局所保持可能な理想的な細胞・成長因子送達法による骨欠損治療法の確立	関口 裕之	2019	2021		1,430,000	1,100,000	330,000
9	若手研究	食事ができる非利き手箸操作の獲得に向けた練習の効果と方法の確立	大森 圭貢	2019	2021		2,080,000	1,600,000	480,000
10	基盤研究C	非妊娠時やせの妊婦の妊娠週数別体重増加量と出生体重に関する研究	藤本 久江	2016	2019		650,000	500,000	150,000
11	基盤研究C	介護支援専門員の多職種連携における「協働的能力」に関する調査研究	小林 紀明	2018	2020		1,040,000	800,000	240,000
12	基盤研究C	脳卒中麻痺手テラーメイドリハビリのためのプログラム作成支援システム	田邊 浩文	2019	2021		195,000	150,000	45,000
13	障害者政策研究補助事業	てんかんの地域診療連携体制の推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究	浦 裕之	2019	2021		300,000	300,000	-
							9,595,000	7,450,000	2,145,000

VII 生涯学習事業

運営主体	研修センター								
系統	介護系				社会福祉系			事務系	
事業名	介護職員 初任者研修	介護職員 初任者研修	喀痰吸引等研修	介護福祉士 実務者研修	介護福祉士 国家試験対策講座	社会福祉士 実習指導者講習会	社会福祉士 国家試験対策講座	医療事務講座 (初級)	医療事務講座 (中級)
期日	2019.7月～12月	第1回：2019.7月～10月 第2回：2019.9月～2019.12月 第3回：2019.11月～2020.3月	2019.10月～2020.2月	2019.7月～12月	2019.10月～11月	2020.2月	2019.7月～2020.1月	2019.9月～2020.2月	2020.1月～2020.4月
日数	15日（講義15日）	17日（講義15日、実習2日）	10日（講義8日、演習1日、実習1日）	6ヶ月	3日	2日	10日 (平日コース・土曜コース)	6ヶ月 (5日)	4ヶ月 (10日)
会場	町田校	講義：研修センター 実習：湘南サルバーガーデンほか	講義：研修センター 演習：研修センター 実習：茅ヶ崎新北院病院ほか	講義：研修センター 医療的ケア：研修センター 医療的ケア実習：茅ヶ崎新北院病院ほか	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター
受講料	35,400円 (テキスト代含む)	60,000円	100,000円 (受講料施設持ち) (テキスト代別)	無資格者：125,000円 初任者研修：105,000円 基礎研修、1級：30,000円	グループ職員：3,500円 グループ外職員：4,000円	8,000円 (テキスト代別)	グループ職員：16,500円 グループ外職員：24,000円	30,000円	37,500円 (受講料施設持ち)
定員	20名	20名×3	15名	30名	15名	20名	18名×2	20名	20名
2019年実績	11名	第1回：10名 第2回：6名 第3回：9名	14名	25名	10名	10名	32名	13名	11名

運営主体	湘南医療大学			
系統	看護系			
事業名	認定看護管理者教育課程 (セカンドレベル)	認知症看護研修	認定看護師養成課程 (認知症看護分野)	看護師実習指導者講習会
期日	2019.12月～2020.3月	2019.8月	2019.6月～2020.3月	2019.8月～11月
日数	180時間	2日	665時間	240時間 (eラーニング含む)
会場	湘南医療大学	湘南医療大学	湘南医療大学	湘南医療大学
受講料	250,000円	6,000円	入学検定料：50,000円 入学金：100,000円 授業料：900,000円 (教科書、保険料等別)	80,000円 (受講料施設持ち) (テキスト代別)
定員	20名	20名	15名	20名
2019年実績	9名		17名	17名

今年度も、介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、社会福祉士国家試験対策講座、社会福祉士実習指導者講習会を開講した。また、湘南医療大学看護実践教育センターでは、看護師実習指導者講習会、認定看護師（認知症看護分野）、認定看護管理者（セカンドレベル）を開講した。

2020年度にむけ、看護協会に認定看護管理者（ファーストレベル）を申請し、開講に向け準備を進めている。また、湘南東部総合病院と連携し、特定行為の申請準備も進めている。

学校法人湘南ふれあい学園 規程一覧

○共通

2020年3月31日現在

No.	規程名	制定日	決定1	承認日	直近改正日
1	就業規則	H3.4.1、実施	H26.1.8、規程会議済	職員代表	H31.4.16、一部改正
2	就業規則(非常勤職員)	H16.12.16、実施		職員代表	H31.4.1、一部改正
3	慶弔金規程	H4.1.4、実施	人事	人事	H25.1.1、一部改正
4	非常勤講師に関する規程	H27.4.1、制定	H27.2.6、規定会議済	H27.2.18 理事会済	H31.4.1、一部改正
5	教職員給与規程	H6.1.1、実施	H26.1.15、規程会議済	職員代表	H31.4.16、一部改正
6	退職金規程	H3.3.4、実施	H26.1.8、規程会議済	職員代表	H26.4.1、一部改正
7	役員報酬規程	H27.4.1、制定		理事長改廃	
8	役員退職金支給規程	H27.4.1、制定	H26.8.18、規程会議済	H27.2.18 理事会済	
9	育児休業規程	H4.4.1、適用	法令	職員代表	H29.10.1、一部改訂
10	介護休業規程	H15.9.1、適用	法令	職員代表	H29.1.1、一部改訂
11	事務組織及び事務分掌に関する規程	H26.4.1、制定	H26.5.12、規程会議済	H27.9.8 運営会議済	H27.4.1、一部改正
12	顧問規程	H26.4.1、制定		理事長改廃	
13	稟議規程	H26.4.1、制定	H26.1.8、規程会議済	H26.11.26 理事会済	
14	監事監査規程	H6.4.1、制定	H26.3.12、規程会議済	理事会	2020.4.1一部改訂予定
15	内部監査規程	H27.4.1、制定	H26.8.18、規程会議済	H27.2.18 理事会済	
16	経理規程	H16.4.1、施行	H26.3.12、規程会議済	H31.1.23 理事会済 2019.9.18 理事会済	H31.4.1、一部改正 2019.10.1一部改正
17	寄附金等取扱規程	H25.10.10、制定		理事会	H25.10.10、一部改正
18	資産運用規程	H22.4.1、制定	H26.6.4、規程会議済	理事長改廃	
19	国内出張旅費規程	H17.10.1、施行	H26.1.8、規程会議済	理事長改廃	H29.4.1、一部改正
20	赴任旅費支給規程	H17.5.1、制定	人事	人事	
21	学会・研修会等参加規程	H27.4.1、制定	H26.1.8、規程会議済	理事長改廃	H29.11.1、一部改正
22	固定資産及び物品管理規程	H26.4.1、制定	H26.6.4、規程会議済	理事長改廃	
23	公印取扱規程	H26.4.1、制定	H26.2.5、規程会議済	理事長改廃	H31.4.1、一部改正
24	文書管理規程	H22.4.1、施行	H26.2.5、規程会議済	H26.11.26 理事会済	H26.4.1、一部改正
25	文書取扱規程	H24.4.1、施行	H26.2.5、規程会議済	H26.11.26 理事会済	H26.4.1、一部改正
26	図書管理規程	H27.4.1、制定	H27.1.19、規程会議済	H27.1.21 理事会済	
27	個人情報管理規程	H17.4.1、施行	H26.6.4、規程会議済	H27.2.18 理事会済	H29.7.19、一部改正
28	情報公開規程	H17.4.1、施行	H26.5.12、規程会議済	H27.2.18 理事会済	H27.4.1、一部改正
29	公益通報に関する規程	H27.4.1、制定	H26.1.22、規程会議済	H27.2.18 理事会済	
30	学生寮規程	H27.4.1、制定		H27.1.21 理事会済	H30.4.1、室田寮規程改正
31	セクシャルハラスメントに関する規程	H21.2.1、制定		職員代表	
32	講演、寄稿等の職員外部活動規程	H20.8.1、制定		改廃の記載なし	
33	看護師養成所専任教員養成講習会受講資金貸与規則	H24.4.1、施行		H26.11.26 理事会済	H26.4.1、一部改正
34	看護教員研修貸付金制度規程	H20.12.1、制定		改廃の記載なし	
35	転校等に伴う入学検定料・入学金免除規程	H20.3.28、制定		理事会	
36	湘南ふれあい学園 学生慶弔見舞規程	H17.8.31、制定		H25.11.25理事長決裁	H27.11.25、一部改正
37	名刺管理規程	H28.7.1、施行		理事長改廃	
38	貸室利用規程	H29.1.1、制定		理事長決定	
39	実習謝礼金支払規程	H29.1.1、制定		理事長決定	H30.10.1一部改正
40	非常勤講師報酬等規程	H29.1.1、制定		理事長決定	H31.04.01 改正
41	特定個人情報取扱規程	H30.4.1、制定		理事長決定	
42	服装に関する規程	H31.4.1施行	H30.9.28、伺い書	理事長決定	
43	学校法人理事会の決定権限の委任に関する規程	H31.4.1施行	2019.7.24理事会	理事会	
44	固定資産及び物品購入規程	2019.10.1施行	2019.9.18理事会済		
45	職員懲戒規程	2019.11.22、施行			
46	湘南ふれあい学園専修学校評価実施規程	2019.4.1施行	2020.2.21学園運営会議		

VIII 施設の状況

2020年3月現在 学校法人所有施設の所在等

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地・学校名	校地(m ²)	施設等	面積(m ²)	摘要
横浜市戸塚区汲沢2丁目26番14号 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	2,306.00	園舎	1,176.69	自己所有
茅ヶ崎市今宿390番地 横浜市中区山手町 茅ヶ崎看護専門学校	1,477.64 10,982	校舎 倉庫	2,893.32 9,296.8	自己所有
茅ヶ崎市南湖1丁目6番11号 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	3,752.04	校舎	5,725.54	自己所有
相模原市南区上鶴間本町3丁目18番27号 医療ビジネス観光情報専門学校	1,106.50	校舎	4,360.56	自己所有
下田市柿崎289番地 下田看護専門学校	5,538.78	校舎 学生寮	4,982.12	自己所有
横浜市戸塚区上品濃16番18号 湘南医療大学	26,794.02	校舎	14,287.79	校地 (自己所有/一部借地) 校舎 (自己所有/一部借用)

主な施設設備の取得は次のとおりである。

湘南医療大学 校地 270,848 千円 (土地 : 18,872.36m²)

IX 財務状況

(1) 決算の概要

①貸借対照表

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

総資産額は、16,783百万円で前年度に対して4,299百万円の増加、負債総額は4,734百万円で前年度に対して119百万円の減少となりました。総資産額の増加は、主に横浜市戸塚区上品濃の土地取得（湘南医療大
学校地）による固定資産の増加によるものです。

また、負債額119百万円の減少は、長期借入金の減少によるものです。尚、負債額（前受金を除く）の総
資産額に占める割合は、21.1%です。

経年推移の状況が分かる資料

貸借対照表の経年比較

(単位：千円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
固定資産	7,697,167	7,641,192	8,011,783	12,276,209	12,718,983
流動資産	3,159,400	3,568,488	3,684,283	4,077,688	4,064,858
資産合計	10,856,567	11,209,680	11,696,066	16,353,897	16,783,841
固定負債	1,625,728	1,537,468	1,444,028	3,319,644	3,018,561
流動負債	1,192,543	1,460,487	1,489,908	1,535,230	1,716,414
負債合計	2,818,271	2,997,955	2,933,936	4,854,874	4,734,975
基本金	8,373,968	8,529,180	9,361,488	11,982,520	12,814,511
繰越収支差額	△ 335,672	△ 317,456	△ 599,358	△ 483,497	△ 766,644
純資産	8,038,296	8,211,724	8,762,130	11,499,023	12,048,866
負債及び純資産の部合計	10,856,567	11,209,680	11,696,066	16,353,897	16,783,841
減価償却累計額	1,181,109	1,457,489	1,745,170	2,045,953	2,365,198

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

比 率	算式(×100%)	2015年度 (2016. 3. 31)	2016年度 (2017. 3. 31)	2017年度 (2018. 3. 31)	2018年度 (2019. 3. 31)	2019年度 (2020. 3. 31)
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	53.9	60.6	74.3	7.7	2.6
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	264.9	244.3	247.3	265.6	236.8
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.4	16.4	14.0	21.6	20.4
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	288.5	285.7	273.1	301.4	287.2
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	93.2	92.4	94.5	82.7	84.0
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	220.5	199.1	178.0	170.9	138.4

※総負債には内部負債である「退職給与引当金」及び「前受金」を算入しない

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部：学生生徒等納付金収入は、湘南医療大学の大学院設置等により前年度に対して約2 百万円増収の約2,296 百万円となった。また、寄付金収入は、教育環境整備補等充実資金として71 百万円受入れによる。主な補助金収入は、大学経常費補助金111,025 千円の交付、下田校学生寮の耐震補強工事費用の補助金228,264 千円の交付であった。借入金収入2,000 百万円は、借入金の条件変更による借り換えを行ったためである。前年度繰越支払資金約3,677 百万円などの要因により、資金収入合計は、8,516 百万円となった。

支出の部：人件費支出は、湘南医療大学薬学設置準備室教員の増員や医療ビジネス観光福祉専門学校介護福祉学科設置、各校の教員欠員補充等の増加分で前年度から75 百万円の増加となり、1,336 百万円となった。また、教育研究経費支出は、前年に対して約10 百万円増加し490 百万円となった。管理経費支出は、前年に対して15 百万円減少し、316 百万円となった。

翌年度繰越支払資金：上記の結果、法人全体として翌年度繰越支払資金は、3,433 百万円となり、期首に比べて243 百万円減少となった。

資金収支の経年比較

		(単位：千円)				
	科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
資金収入の部	学生生徒納付金収入	1,504,494	1,798,458	2,074,856	2,294,065	2,296,796
	手数料	73,220	51,050	52,378	50,545	48,537
	寄付金収入	79,200	85,000	370,380	268,079	76,929
	補助金収入	130,787	230,057	212,908	191,210	543,549
	資産売却収入	0	0	2,368	0	0
	付随事業・収益事業収入	77,336	59,469	46,361	40,075	44,691
	受取利息・配当金収入	513	106	108	110	113
	雑収入	34,510	48,655	46,766	62,685	61,616
	小計 ①	1,900,060	2,272,795	2,806,125	2,906,769	3,072,231
	借入金等収入	0	0	0	2,000,000	2,000,000
	前受金収入	962,347	1,076,051	1,200,089	1,219,962	1,195,527
	その他の収入	341,395	43,915	134,847	40,420	53,833
	資金収入調整勘定	△ 854,699	△ 1,090,914	△ 1,113,996	△ 1,231,848	△ 1,482,459
	収入の部合計 A	2,349,103	2,301,847	3,027,065	4,935,303	4,839,132

(単位：千円)

	科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
資金支出の部	人件費支出	1,012,348	1,116,823	1,207,817	1,261,438	1,336,565
	教育研究経費支出	398,448	408,033	455,797	480,272	490,174
	管理経費支出	251,811	252,856	265,994	331,779	316,553
	借入金等利息支出	41,575	38,537	28,057	44,555	49,770
	借入金等返済支出	103,969	103,969	81,076	103,969	2,126,861
	施設関係支出	55,772	172,169	641,972	2,206,267	741,144
	設備関係支出	143,521	36,994	18,188	99,415	22,033
	小計 ②	2,007,444	2,129,381	2,698,901	4,527,695	5,083,100
	資産運用支出	70	16,399	4,492	18	0
	その他の支出	343,869	110,962	268,127	150,664	158,961
	資金支出調整勘定	△ 128,570	△ 252,355	△ 147,034	△ 143,091	△ 159,293
	支出の部合計 B	2,222,813	2,004,387	2,824,486	4,535,286	5,082,768

(単位：千円)

	科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
資金収入差額の部	資金収支差額 (①-②)	△ 107,384	143,414	107,224	△ 1,620,926	△ 2,010,869
	資金収支差額 (A-B)	126,290	297,460	202,579	400,017	△ 243,636
	翌年度繰越支払資金	2,776,746	3,074,206	3,276,985	3,677,004	3,433,369

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収支収入は、2,840百万円、支出は2,143百万円で697百万円の収入超過となった。
 施設整備等活動による収入は、232百万円、支出は763百万円で531百万円の支出超過となった。
 その他活動による収入は、2,022百万円、支出は2,177百万円で155百万円の支出超過となった。
 上記の結果、翌年度繰越支払資金は3,433百万円となり、昨年度の3,677百万円より243百万円減少した。

活動区分資金収支計算書の経年比較

(単位：千円)

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	1,885,001	2,166,526	2,595,660	2,711,563	2,840,212
教育活動資金支出計	1,562,607	1,777,711	1,929,608	2,073,489	2,143,293
差引	322,394	388,815	666,052	638,074	696,919
調整勘定等	165,230	118,106	107,318	30,423	△ 237,047
教育活動資金収支差額	487,624	506,921	773,370	668,497	459,872
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	0	102,377	207,748	195,079	231,906
施設整備等活動資金支出計	199,293	209,164	659,859	2,305,682	763,177
差引	△ 199,293	△ 106,787	△ 452,111	△ 2,110,603	△ 531,271
調整勘定等	13,335	35,640	△ 13,336	△ 10,310	△ 17,077
施設整備等活動資金収支差額	△ 185,958	△ 71,147	△ 465,447	△ 2,120,913	△ 548,348
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	301,666	435,774	307,923	△ 1,452,416	△ 88,476
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	26573	23358	8809	2002602	2,022,188
その他の活動資金支出計	141,628	161,673	113,952	150167	2,177,347
差引	△ 115,055	△ 138,315	△ 105,143	1,852,435	△ 155,159
調整勘定等	39,682	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 75,373	△ 138,315	△ 105,143	1,852,435	△ 155,159
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	226,293	297,459	202,780	400,019	△ 243,635
前年度繰越支払資金	2,550,453	2,776,746	3,074,206	3,276,985	3,677,004
翌年度繰越支払資金	2,776,746	3,074,206	3,276,985	3,677,003	3,433,369

ウ) 財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

(単位：%)

比率	算式(×100%)	2015年度 (H28.3.31)	2016年度 (H29.3.31)	2017年度 (H30.3.31)	2018年度 (H31.3.31)	2019年度 (2020.3.31)
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	17.1	17.9	25.7	23.5	16.2

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

事業活動収入：学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、事業収入、雑収入等は、資金収支計算書収入の部と同様の要因により、2,842百万円となり、前年度に対して130百万円の増加となった。

基本金組入額合計は832百万円となり、基本金組入前当年度収支差額(帰属収入)は、549百万円の収入超過となった。

事業活動支出：資金収支計算書の支出の部と同様の要因で、前年度に対して人件費は、74百万円の増加で1,345百万円(人件費比率43.8%)となった。また、教育研究経費は、前年度に対して22百万円の増加で770百万円(教育研究経費比率27.1%)、管理経費は、前年度に対して13百万円の減少となり、358百万円(管理経費比率12.6%)となった。

当年度収支差額：当年度収支差額は、284百万円の支出超過となった。

事業活動収支の経年比較

(単位：千円)

事業活動収支	科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
教育活動収支	収入	学生生徒納付金	1,504,494	1,798,458	2,074,756	2,294,065	2,296,796
		手数料	73,220	51,050	52,378	50,545	48,537
		寄付金	85,799	85,113	165,276	73,151	75,537
		経常費等補助金	130,787	127,680	212,908	191,210	315,285
		付随事業収入	62,789	55,684	43,951	40,075	44,691
		雑収入	34,510	50,950	46,745	62,924	61,655
		教育活動収入計	1,891,599	2,168,935	2,596,014	2,711,970	2,842,501
	支出	人件費	1,021,217	1,124,778	1,216,953	1,271,684	1,345,964
		教育研究経費	547,024	661,930	716,640	748,302	770,940
		管理経費	278,724	280,272	294,034	371,961	358,751
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計		1,846,965	2,066,979	2,227,627	2,391,947	2,475,655	
教育活動収支差額		44,634	101,956	368,387	320,023	366,846	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	513	106	108	110	114
		その他の教育活動外収入	14,547	3,785	2,411	0	0
		教育活動外収入計	15,060	3,891	2,519	110	114
	支出	借入金等利息	41,575	38,537	28,057	44,555	49,770
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	41,575	38,537	28,057	44,555	49,770
		教育活動外収支差額	△ 26,515	△ 34,646	△ 25,538	△ 44,444	△ 49,656
経常収支差額		18,119	67,310	342,849	275,579	317,190	
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	2,368	0	0
		その他の特別収入	0	106,635	209,124	2,463,674	233,232
		特別収入計	0	106,635	211,492	2,463,674	233,232
	支出	資産処分差額	617	516	3,935	2,360	578
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	617	516	3,935	2,360	578
		特別収支差額	△ 617	106,119	207,557	2,461,314	232,654
基本金組入前当年度収支差額		17,502	173,429	550,406	2,736,893	549,843	
基本金組入額合計		△ 467,271	△ 155,212	△ 832,308	△ 2,621,032	△ 834,991	
当年度収支差額		△ 449,770	18,216	△ 281,902	115,861	△ 283,143	
(参考)							
事業活動収入計		1,906,659	2,279,460	2,810,025	5,175,755	3,075,847	
事業活動支出計		1,889,157	2,106,032	2,259,619	2,438,862	2,526,004	

イ) 財務比率の経年比較

- ・人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率等

(単位：%)

比率	算式(×100%)	2015年度 (H28. 3. 31)	2016年度 (H29. 3. 31)	2017年度 (H30. 3. 31)	2018年度 (H31. 3. 31)	2019年度 (2020. 3. 31)
人件費比率	人件費 / 事業活動収入	53.6	49.3	43.3	24.6	43.8
教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	28.7	30.5	27.6	27.6	27.1
管理経費比率	管理経費 / 経常収入	14.6	12.9	11.3	13.7	12.6
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	0.92	7.6	19.6	52.9	17.9
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 事業活動収入	78.9	78.9	73.8	44.3	74.7
経常収支差額比率	経常収支差額 / 経常収入	1.0	3.1	13.2	10.2	11.2

(2) その他

①有価証券の状況

本学校法人では、有価証券は所有していない。

②借入金の状況

借入先	期末残高 (円)	利率 (%)	返済期限
(株)みずほ銀行 横浜駅前支店	947,100,000	2.900%	2031年3月31日
	252,650,000	0.290%	2033年10月31日
	2,000,000,000	0.590%	2030年3月31日

③学校債の状況

本学校法人では、学校債は発行していない。

④寄付金の状況

【特定公益増進法人】 (単位：円)

特別寄附 (薬学部設置経費として)	2,287,000
一般寄附 (将来的な学術研究活動振興のため)	71,000,000

【受配者指定寄付金】 (単位：円)

薬学部設置経費として	500,000,000
------------	-------------

※日本私立学校振興・共済事業団の専用口座にて、配布申請するまで管理されるため
2019年度決算においては、寄付金収入として反映されない。

⑤補助金の状況

(単位：円)

	経常費補助金	看護師等養成所補助事業	学校施設整備費補助金	介護福祉士養成施設 日本語学習等支援	結核健康診断予防接種	幼稚園関連補助金	合計
湘南医療大学	国庫 110,974,000				市 51,528		111,025,528
茅ヶ崎看護専門学校	県 11,623,000	県 26,633,000			県 24,709		38,280,709
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	県 18,789,000				県 37,666		18,826,666
下田看護専門学校		県 18,398,000	県 228,264,000		県 54,640		246,716,640
医療ビジネス観光福祉専門学校	県 8,492,000			県 240,000	市 36,551		8,768,551
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園						県・市 119,930,542	119,930,542

⑥収益事業の状況

貸 借 対 照 表

2019年 3月 31日 現在

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[流 動 資 産]	2,100,000	[流 動 負 債]	1,369,081
未収入金	2,100,000	一年内返済長期借入金	731,464
[固 定 資 産]	88,385,585	前受金	415,000
(有形固定資産)	88,385,585	未払金	16,500
建物	38,719,476	未払消費税等	206,117
土地	49,666,109	[固 定 負 債]	9,554,640
		長期借入金	7,314,640
		長期預り金	2,240,000
		負債の部合計	10,923,721
		純 資 産 の 部	
		[元 入 金]	358,152,316
		[利 益 剰 余 金]	△ 278,590,452
		繰越利益剰余金	△ 278,590,452
		純資産の部合計	79,561,864
資産の部合計	90,485,585	負債・純資産の部合計	90,485,585

⑦関連当事者等との取引の状況

ア)関連当事者について別表のとおり

イ)出資会社は該当なし

⑧学校間財務取引

該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学校法人湘南ふれあい学園の経営状況の分析(過去6年間)、経営上の成果と課題

下記の財務比率は、経営状況、負債の状況、及び将来の備えに対する資産の保有状況の実施結果の分析を示している。将来支出に備える保有資産の状況は、大学平均(83.7%)を大きく上回っており、万一の支出の状況にも十分に耐えるだけの資産を保有している。

資料1

比率名	計算式	H26	H27	H28	H29	H30	R01	6年間の傾向	経営上の成果と課題(自己点検・評価)
① 経営状況									
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	17.6%	0.9%	7.6%	19.6%	52.9%	17.9%		平成24年度の当該率の大学平均は、4.8%である。本学園は、平均を大きく上回っている状況である。
② 負債に備える資産の蓄積状況									
内部留保資産比率	(運用資産-(総負債-内部負債))/総資産	4.2%	9.2%	11.0%	14.0%	0.9%	0.1%	減少	当該比率がプラスのため、運用資産で総負債を全て充当できる。
運用資産余裕比率(年)	(運用資産-外部負債)/事業活動支出	32.4%	53.9%	60.6%	74.3%	7.7%	2.5%	減少	一年間の学校法人の経常的な支出を賄える資金を保有している。
流動比率	流動資産/流動負債	252%	265%	244%	247%	266%	237%	若干減少	当該比率が200%以上であるため良好と考える。
前受金保有率	現金預金/前受金	307%	289%	286%	273%	301%	287%	横ばい	当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末の保有比率が100%を超えているため、問題は無い。
③ 負債水準の状況									
固定負債構成比率	固定負債/((総負債-内部負債)+純資産)	16.8%	16.6%	15.3%	13.9%	22.1%	19.5%	横ばい	施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が高い場合、経営上の留意が必要となるが、15.3%である本学園は、問題とならない。
流動負債構成比率	流動負債/((総負債-内部負債)+純資産)	12.7%	12.1%	14.5%	14.3%	10.2%	11.1%	横ばい	財政の安定性の確保では、当該比率が低い方が良く、本学園の比率は評価できる。
総負債比率	(総負債-内部負債)/総資産	19.0%	16.4%	16.4%	14.0%	21.6%	20.4%	横ばい	当該比率50%以下は、負債総額が純資産を下回っていることを示す。本学園の財務安全性は確保されている。
負債比率	(総負債-内部負債)/純資産	26.0%	22.1%	22.3%	18.7%	30.7%	28.4%	横ばい	当該比率が100%以下であるため、他人資金である総負債が自己資金である純資産を下回っている。
④ 将来支出に備える保有資産の状況									
積立率	運用資産(現金預金+特定資産+有価証券)/要積立額(減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金)	260.9%	220.5%	199.1%	178.0%	170.9%	138.4%	減少	平成24年度の当該率の大学平均は、83.7%である。本学園は、平均を大きく上回っている。また、減価償却累計額はH26年からR01年度末で約14億6千万円増加しているが、それに見合う資金の蓄積ができています。

※総負債には、内部負債である「退職給与引当金」及び「前受金」を算入しないことを原則とした。

資料2 運用資産及び外部負債の金額

下記の表より、運用資産は増加しているものの、外部負債も増加している。しかし、積立額も大幅に増加しているため、運営が安定していることを示している。

項目	計算式	H26	H27	H28	H29	H30	R01	H26-R01間傾向
運用資産	現金預金+特定資産+有価証券	2,550,453	2,776,746	3,074,206	3,276,985	3,677,004	3,433,369	882,915 増加
外部負債	総負債-(退職給与引当金+前受金)	2,089,104	1,777,560	1,835,586	1,638,392	3,529,211	3,424,348	1,335,244 増加
積立額	減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金	977,727	1,259,473	1,543,808	1,840,625	2,151,654	2,480,336	1,502,609 増加

資料3

総資産基本金組入前当年度収支差額比率関連指標

	(百万円)
総資産	16,784
事業活動収入	3,076
基本金組入前当年度収支差額	550
総資産基本金組入前当年度収支差額比率	3.3%
基本金組入前当年度収支差額比	17.9%
総資産回転率	0.2回転

今後の方針・対応方策

資料3では、1年間に本学園の資産が、売上高として何回転しているか、すなわち、投資した資産がどのくらい、学納金などの収入を生み出す効果をもたらしているかを表している。本学園は、0.2回転と低いため、当面は、山手資料館の利用(稼働率)の向上に関する計画を早急に図りたい。

本学は、基本金組入れ前当年度収支差額は、学園創立以来、黒字を続けている。今後は、人、建物、設備の活用による学部学科の設置による数量や単価の増加策を検討したい。

監 査 報 告 書

2020年 5月 20日

学校法人 湘南ふれあい学園
評議員会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園
監事 金井 清吉
監事 竹俣 耕一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第8条第2項に基づいて同学園の2019年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）を含め、学校法人湘南ふれあい学園の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決算書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手段を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

監 査 報 告 書

2020年 5月 19日

学校法人 湘南ふれあい学園
理事会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監事 金井 清吉

監事 竹俣 耕一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第8条第2項に基づいて同学園の2019年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）を含め、学校法人湘南ふれあい学園の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決算書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手段を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

2019年度 湘南医療大学臨床医学研究所 事業概要

2019年度は下記の事業を実施致しました。尚、研究成果の詳細は別紙に纏めてあります。

1 研究事業

- 1) 個人研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・0件
- 2) 科学研究費による研究・・・・・・・・・・2件
- 3) 民間助成金による研究
 - ①日本損保保険協会, 交通事故医療研究助成・・・1件
- 4) 発表論文・・・・・・・・・・・・・・・・・・16件

2 助成事業

無し

3 付帯事業

- 1) 学術集会（公開セミナー）・・・・・・・・0回
- 2) 研究報告会（年次報告会）・・・・・・・・0回
- 3) 刊行物（年報、業績集、研究所ニュース）・・・今後検討

4 計算書

- 1) 資金収支計算書
- 2) 固定資産台帳

臨床医学研究所 2019 年活動報告

超高齢社会を迎えた我が国においてサルコペニア、変形性関節症、腰痛患者、骨折患者は年々増加している。これら疾患は患者のADL, QOLの低下に直結することから、病態解明、治療法の開発は健康寿命延伸に向けて極めて重要である。基礎的、臨床的アプローチによる病態解明を行った。

サルコペニアの病態に関する研究

1. 変形性関節症患者における筋量減少の検討

下肢筋量の低下は変形性膝関節症(OA)患者の発症や進行に関与する可能性が示唆されている。また、OA患者では健常患者に比して筋量が減少し、サルコペニアの病態をきたすことが報告されている。しかし、身長やBMIなどで補正した筋量を健常者と比較しており、OAにおける正確な筋量変化を反映しているかは不明であった。本研究では両側下肢CT画像を用いて、術側(severe OA)と対側の比較検討を行った。人工関節全置換術前に撮影した124名OA患者の両側下腿CT画像を解析に用いた。ブラインド下に骨、脂肪組織を自動認識可能な画像解析ソフトMimicsを用いて関節面から15-16(R15),20-21(R20),25-26(R25)cmにおける筋体積、骨体積を測定した。術側と対側における骨体積、筋体積の相違を検討した術側(severe OA)と対側におけるJOAスコアはそれぞれ 69.0 ± 1.5 , 53.9 ± 1.0 であった($P < 0.001$)。術側のR15,20,25における筋量は対側に比してそれぞれ 5.90 ± 0.94 , 6.04 ± 0.80 , $4.22 \pm 0.82\%$ 少なかった。($P < 0.001$)。また、術側での減少率とJOAスコア(pain)との間に相関を認めた。計測したすべての領域で骨量に有意差は認められなかった。本研究結果から疼痛によるunderuseが下肢筋量低下に寄与している可能性が示唆された。近年、サルコペニアに対する運動療法に加え、栄養療法やホルモン療法が試みられている。OA患者における筋量減少に対するアプローチはサルコペニアやOA発症・進行予防に重要かもしれない。

2. 加齢に伴う筋量減少メカニズムの検討

サルコペニアは加齢に伴う筋量および筋力低下を基盤とするQOLを著しく損なう病態である。近年、加齢に伴う筋肉内脂肪組織(IMAT)の増加が筋組織内の炎症に関与することが報告されている。本研究ではIMATが産生するアディポサイトカインが炎症を惹起しているとの仮説の元、加齢に伴うレプチン発現変化とレプチンによる炎症惹起機構について検討した。12、24、48、96週齢のSDラットの大腿四頭筋におけるレプチンおよび炎症性サイトカインの発現をreal time PCR法で検証した。また10週齢のSDラットの大腿四頭筋を酵素処理後、筋由来細胞を採取して1週間培養を行い、レプチンまたはIL-6で刺激を行い、real time PCR法でレプチンおよび炎症性サイトカインの発現を検討した。また、レプ

チン刺激後の培養液中の IL-6 濃度を ELISA 法を用いて検討した。大腿四頭筋におけるレプチン発現は 12 週齢と比較して、48 週齢で 6.4 倍、96 週齢で 9.7 倍に増加した。IL-6 発現は 48 週齢で 1.6 倍、96 週齢で 3.3 倍に増加した。大腿四頭筋由来細胞における IL-6 mRNA 発現及び 培養上清中の IL-6 濃度はレプチンの用量依存性に増加した。また IL-6 による刺激ではレプチンの増加は認めなかった。近年、IMAT の増加と筋組織内の IL-6 タンパク量が正の相関を示すことが示されている。本研究結果から、骨格筋において加齢に伴い増加した IMAT から産生されるレプチンにより IL-6 発現が上昇し、筋組織の炎症環境形成を生じている可能性が示唆された。筋組織におけるレプチン発現の機構解明が、サルコペニアの制御につながる可能性があると考えられる（論文業績 6）。

変形性関節症の病態解析

1. 肥満患者における変形性関節症病態の解析

肥満は変形性膝関節症（OA）の発症、進行におけるリスクファクターであることが報告されているが、肥満による OA 発症、進行メカニズムは十分に明らかになっていない。近年、滑膜における Mast cell 数と KL grade が相関することが報告されているが、肥満との関連性は明らかになっていない。本研究では非肥満 OA 患者と肥満 OA 患者における Mast cell marker の発現を検討した。リアルタイム PCR 法を用いて Mast cell marker である CD203c, CD117 および bFGF の発現と相関を検討した。また、非肥満患者（BMI<30）と肥満患者（BMI≥30）の二群に分けて発現量の比較検討を行った。CD203c と bFGF の間に正の相関を認めた。また、CD203c と bFGF との間に正の相関を認めた。肥満患者における CD203c, CD117, bFGF の発現は非肥満患者に比べ有意に高かった。肥満や糖尿病患者の脂肪組織中で Mast cell が増加し、炎症に関与することが報告されている。また、肥満細胞は慢性炎症下での主要な bFGF 産生細胞であることが報告されている。bFGF は MMPs の産生を促進することから、更なる検討は肥満と OA の関連性を明らかにするかもしれない（論文業績 8）。

腰痛の病態解明

1. 椎間板性腰痛機序におけるマクロファージの関与の検討

腰痛の 85%は病因を確定できない非特異的腰痛であり、未だ腰痛機序は明らかになっていない。非特異的腰痛の原因として椎間板由来、椎間関節由来、筋膜由来、神経根由来、椎骨由来などの可能性が考えられる。その中で、特に椎間板由来の腰痛が注目されている。近年、マクロファージが椎間板変性や疼痛に関与する可能性が示唆されている。我々は、GFP 骨髄キメラマウスを用いて椎間板変性時には内在性および骨髄から動員性されたマク

ロファージが存在することを明らかにしてきた。一方、変性椎間板には M1 および M2 サブタイプが存在することが報告されているが、内在性、動員性のどちらに由来するかは明らかになっていなかった。GFP 骨髄キメラマウスを用いて椎間板傷害モデルを作製し、検討を行った。傷害後 1 日目から GFP + F4/80+CD11b+細胞は増加し、その割合は GFP-F4/80+CD11b+細胞に比べ有意に多かった。GFP + F4/80+CD11b+細胞の一部は CD86+陽性細胞であったが、GFP-F4/80+CD11b+細胞は CD86 陰性であった。一方、CD206 陽性細胞は GFP-F4/80+CD11b+で多く認められた。本研究結果から M1 マクロファージは動員性、M2 マクロファージは内在性マクロファージに由来することが明らかになった。M2 マクロファージは抗炎症や組織修復に重要な役割を果たすことが知られていることから内在性マクロファージは椎間板変性抑制や修復促進のための重要な細胞標的かもしれない。(論文業績 1)。

骨折治癒促進法の開発

外傷や腫瘍搔爬後の広範囲骨欠損は治療に難渋する。治療の長期化に伴う患者の社会復帰の遅延は、患者に肉体的・精神的苦痛を与えるとともに医療費の増加と社会経済的損失に直結する。そこで局所投与かつ局所保持可能な理想的な細胞・成長因子送達法による骨欠損治療法を確立すべく研究を行った (2019 年度科学研究費 若手研究採択)。9 週齢雄性 C57BL/6J マウスの右大腿骨にマウス専用創外固定器を設置後、骨幹部中央に約 2 mm の骨欠損を作製し、広範囲骨欠損モデルとした。ゲル剤はヒアルロン酸を主骨格、チラミンを架橋基とし、過酸化水素水と混和すると硬化するものを用いた。骨欠損のみの群 (defect 群)、骨欠損部に局所硬化ヒアルロン酸ゲルのみを投与した群 (HA 群)、骨欠損部に BMP-2 (2 μ g) 含有 PBS を投与した群 (PBS/BMP 群)、骨欠損部に BMP-2 (2 μ g) 含有局所硬化ヒアルロン酸ゲルを投与した群 (HA/BMP 群) の 4 群を作製した (各群 n=6)。作製直後および 14 日後に軟 X 線撮影 (Xp) を行った。術後 14 日で屠殺して右大腿骨を採取後、micro CT で撮影して骨欠損部における骨癒合 (union) の評価し、骨欠損部における骨量 (BV) と骨塩量 (BMC) を測定した。また、組織学的に評価した。Xp および組織像では、HA/BMP 群および PBS/BMP 群で新生骨の形成を認めていたが、HA/BMP 群の方がより旺盛だった。defect 群および HA 群では新生骨形成はほとんど認められなかった。HA/BMP 群は 6 例中 5 例 union、PBS/BMP 群は 6 例中 2 例 union だったが、defect 群と HA 群は全例 non union だった。HA/BMP 群は他の 3 群と比較して BV および BMC とも有意に高値だった ($p < 0.001$)。BMP-2 含有局所硬化ヒアルロン酸ゲル剤は、マウス広範囲骨欠損モデルにおいて骨欠損治癒を促進した。本方法は BMP-2 の局所送達による新規骨欠損治療法として有用かもしれない。

学会発表

1. Nakawaki M, Uchida K, Miyagi M, Inoue G, Takano S, Tazawa R, Satoh M, Sekiguchi H, Kawakubo A, Takaso M. Possible regulation of nerve growth factor by M1 and M2 macrophages following intervertebral disc injury in mice. ORS 2019 Annual Meeting, Austin, 2019
2. Kawakubo A, Uchida K, Takano S, Aikawa J, Iwase D, Miyagi M, Nakawaki M, Sekiguchi H, Inoue G, Takaso M. Transforming Growth Factor-beta Stimulates Nerve Growth Factor Production Via The Tak1/p38 Pathway In Osteoarthritic Synovium. ORS 2019 Annual Meeting, Austin, 2019
3. 川久保歩、内田健太郎、宮城正行、中脇充章、井上玄、齋藤亘、関口裕之、高相晶士. GFP 骨髄キメラマウスを用いた椎間板傷害後に増加するマクロファージ起源解析, 第38回日本運動器移植再生医学研究会, 2019, 新宿
4. 庄司慎太郎、内田健太郎、関口裕之、井上玄、宮城正行、村田幸佑、川久保歩、高相晶士. 塩基性線維芽細胞増殖因子含有局所硬化ヒアルロン酸ゲル、局所硬化デキストラゲルの骨形成促進能の比較検討, 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
5. 川久保歩、内田健太郎、宮城正行、中脇充章、井上玄、齋藤亘、関口裕之、高相晶士. 椎間板内在性マクロファージの分化能の検討. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
6. 川久保歩、内田健太郎、宮城正行、中脇充章、井上玄、齋藤亘、関口裕之、高相晶士. GFP 骨髄キメラマウスを用いた椎間板障害後に増加するマクロファージの起源解析. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
7. 高野昇太郎、内田健太郎、相川淳、岩瀬大、迎学、宮城正行、井上玄、関口裕之、大貫裕子、高相晶士. 変形性膝関節症の滑膜組織において TGF- β によって誘導される神経ペプチドの探索. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
8. 内田健太郎、菅生健、中島武彦、関口裕之、占部憲、高相晶士. バンコマイシン含有リン酸カルシウムセメントの生体内埋入後のバンコマイシン抗菌活性評価. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
9. 関口裕之、内田健太郎、井上玄、庄司真太郎、宮城正行、齋藤亘、大貫裕子、高相晶士. 骨形成蛋白 (BMP-2) 含有人工コラーゲンゲルはマウス難治性骨折モデルにおける骨形成と骨癒合を促進する. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
10. 森谷光俊、内田健太郎、高野昇太郎、岩瀬大、井上玄、宮城正行、関口裕之、大貫裕子、高相晶士. 関節リュウマチ患者の滑膜マクロファージにおいてC型レクチン受容体 macrophage inducible C-type lectin の発現は亢進している. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
11. 岩瀬大、内田健太郎、相川淳、関口裕之、目時希恵、湊佐代子、松尾篤、松尾隆、高相晶士. ウサギ下肢腱延長モデルを用いたロッキング機構を有するスライド延長の固定強度の検討. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜

12. 迎学、内田健太郎、高野昇太郎、岩瀬大、相川淳、宮城正行、井上玄、関口裕之、大貫裕子、高相晶士. 変形性膝関節症患者の滑膜組織におけるインスリン様成長因子1の制御機構. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
13. 内田健太郎、高野昇太郎、岩瀬大、相川淳、井上玄、宮城正行、関口裕之、大貫裕子、高相晶士. 肥満変形性膝関節症患者の滑膜組織において増加する mast cell の役割の検討. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
14. 村田幸佑、内田健太郎、高野昇太郎、相川淳、岩瀬大、井上玄、関口裕之、大貫裕子、高相晶士. HbA1c 高値の変形性膝関節症患者の滑膜組織では Toll-like receptor-4 と MMP-13 が亢進している. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜
15. 高野昇太郎、内田健太郎、庄司真太郎、相川淳、岩瀬大、迎学、宮城正行、関口裕之、大貫裕子、高相晶士. 滑膜線維芽細胞における古典経路と非古典経路のクロストークを介した TGF- β による VEGF 制御機構. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 2019, 横浜

競争資金獲得

1. 関口裕之. 局所投与かつ局所保持可能な理想的な細胞・成長因子送達法による骨欠損治療法の確立, 科学研究費 若手研究, 429 万円, 2019-2021
2. 庄司真太郎、馬淵 洋、大鳥精司、松下 治、関口裕之、高相晶士. 局所投与かつ局所保持可能な理想的な細胞・成長因子デリバリーシステムを用いた交通外傷後の広範囲骨欠損治療法の確立日本損保保険協会, 交通事故医療研究助成, 100 万円, 2019

学術論文

1. Kawakubo A, Uchida K*, Miyagi M, Nakawaki M, Satoh M, Sekiguchi H, Yokozeki Y, Inoue G, Takaso M. Investigation of resident and recruited macrophages following disc injury in mice. J Orthop Res, in press (査読有)
2. Takano S, Uchida K, Shoji S, Itakura M, Iwase D, Aikawa J, Mukai M, Sekiguchi H, Inoue G, Takaso M. Vascular endothelial growth factor is regulated by the

canonical and non-canonical transforming growth factor- β pathway in synovial fibroblasts derived from osteoarthritis patients. *Biomed Res Int*, 6959056, 2018 (査読有)

3. Murata K, Uchida K, Takano S, Shoji S, Iwase D, Inoue G, Aikawa J, Yokozeki Y, **Sekiguchi H**, Takaso M. Osteoarthritis patients with high haemoglobin A1c have increased Toll-like receptor 4 and matrix metalloprotease-13 expression in the synovium. *Diabetes Metab Syndr Obes*, 12:1151-1159 (査読有)
4. Muaki M, Uchida K, Hirosawa N, Murakami K, Kuniyoshi K, Inoue G, Miyagi M, **Sekiguchi H**, Shiga Y, Inage K, Orita S, Suzuki T, Matsuura Y, Takaso M, Ohtori S. Wrapping with basic fibroblast growth factor-impregnated collagen sheet reduces rat sciatic nerve allodynia. *J Orthop Res*, 37:2258-2263, 2019 (査読有)
5. Takano S, Uchida K, Itakura M, Iwase D, Aikawa J, Inoue G, Muakai M, Miyagi M, Murata K, **Sekiguchi H**, Takaso M. Transforming growth factor- β stimulates nerve growth factor production in osteoarthritic synovium. *BMC Musculoskelet Disord*, 20(1):204 (査読有)

6. Tazawa R, Uchida K, Fujimaki H, Miyagi M, Inoue G, **Sekiguchi H**, Murata K, Takata K, Kawakubo A, Takaso M. Elevated leptin levels induced inflammation through IL-6 in skeletal muscle of aged female rats. BMC Musculoskelet Disord, 20(1):199, 2019 (査読有)

7. Fujimaki H, Uchida K, Inoue G, Matsushita O, Nemoto N, Miyagi M, Inage K, Takano S, Orita S, Ohtori S, Tanaka K, **Sekiguchi H**, Takaso M. Polyglycolic acid-collagen tube combined with collagen-binding basic fibroblast growth factor accelerates gait recovery in rat sciatic nerve critical-size defect model. J Biomed Mater Res B Appl Biomater, 108B: 326-332, 2020(査読有)

8. Uchida K, Takano S, Inoue G, Iwase D, Aikawa J, Takata K, Tazawa R, Kawakubo A, **Sekiguchi H**, Takaso M. Increase in mast cell marker expression in synovium of obese knee osteoarthritis patients, Diabetes Metab Syndr Obes., 12;377-382, 2019 (査読有)

9. Moriya M, Uchida K, Takano S, Iwase D, Inoue G, Mukai M, Tazawa R, Aikawa

J, Sekiguchi H, Takaso M. Expression and Regulation of Macrophage-inducible C-type lectin in human synovial macrophages. Cent Eur J Immunol, in press (査読有)

総説、解説

1. 関口裕之、内田健太郎、高相晶士. 高週齡マウス骨折治癒過程における仮骨内疼痛関連因子の発現の検討, 整形外科, 70(8);856, 2019

令和元年度研究活動報告書

てんかん拠点病院における薬剤師業務の実態調査

浦 裕之

(湘南医療大学臨床医学研究所 研究員)

研究要旨

てんかん拠点病院において、薬剤師は服薬アドヒアランス対策などでてんかん薬物療法の適正化に向けて重要な役割を担うべきであると考えられるが、その薬剤師業務の実態は不明である。本研究は、てんかん拠点病院における薬剤師業務および病診薬連携の実態把握に関わる項目についてアンケート調査を実施し、てんかん拠点病院を効果的に運用するために必要な薬剤業務に関する検討を行うことを目的とした。初年度である平成31年度では、てんかん拠点病院を対象とした郵送によるアンケート調査を実施し、薬剤師業務の現状について情報を得た。全体で16施設に送付し、計12施設より回答を得た（回収率75.0%）。令和2年度では、初年度に得られた情報を元にてんかん診療における薬剤師業務の指針を策定する予定である。また、抗てんかん薬の血中濃度測定や治験実施状況に関して具体的な情報を得るために二次調査を予定している。

A. 研究目的

てんかん拠点病院では、多様な診療科と診療支援部門が密に連携し、専門的なてんかん医療を提供することが望まれる。薬剤師は、服薬アドヒアランス対策などでてんかん薬物療法の適正化に向けて重要な役割を担うべきであると考えられるが、てんかん拠点病院における薬剤師業務の実態は未だ明らかとなっていない。そこで、てんかん拠点病院における薬剤師業務および病診薬連携の実態把握に関わる項目についてアンケート調査を実施し、てんかん拠点病院を効果的に運用するために必要な薬剤業務に関する検討を行う。

B. 研究方法

- ①アンケート調査期間：令和元年10月1日から同年10月31日(1ヶ月間)とした。
- ②調査対象施設：てんかん診療全国拠点機関1施設およびてんかん診療拠点機関15施設（令和元年10月1日時点で都道府県

に指定されている機関)を調査対象とした。

③調査方法：各施設長にアンケート調査協力依頼状を送付し、同意が得られた場合に薬剤部長宛にアンケート調査用紙を配布するよう依頼した。

④調査項目：DPC病院分類、救急医療体制、薬剤部門の職員数、薬剤部門以外の薬剤師数、薬剤師の平日夜間・休日勤務体制、治験実施状況、プロトコルに基づく薬物治療管理(PBPM)の実施状況、抗てんかん薬のTDM実施状況、TDM測定部門(薬剤部、検査部、外注)、TDM解析部門(薬剤部、検査部、外注)、特定薬剤治療管理料を算定した抗てんかん薬の種類、退院時薬剤情報管理指導実施状況、薬剤部から他の医療施設への情報提供の有無、入院時持参薬の使用状況と入院時持参薬を確認する職種、採用抗てんかん薬の種類と後発品採用の有無について調査した。

(倫理面への配慮)

本研究におけるアンケート調査は、湘南

医療大学の倫理委員会における審査、承認を得て行った（承認番号：医大研倫第19-021号）。

C. 研究結果

令和元年11月下旬にてんかん診療全国拠点機関およびてんかん診療拠点機関の各施設長に郵送し、令和2年1月中旬までに回収できたアンケート結果について集計を行った。全体で16施設に送付し、計12施設より回答を得た（回収率75.0%）。

DPC区分はDPC対象病院群が83%、非DPC対象病院が17%であった。救急医療体制は「救急体制あり」が83%（3次救急66%、2次救急17%）、「救急医療体制なし」が17%であった。薬剤部門における薬剤師数は30名以上が59%、以下20-29名が25%、10-19名が8%、0-9名が8%であった。また、治験部門における薬剤師数は0名が25%、1-5名が58%、9名が17%であった。薬剤部門の夜間勤務体制は92%の施設で実施しており、休日勤務体制はすべての施設で実施されていた。また、夜間・休日ともに外来・入院内服調剤業務はすべての施設で実施されていた。治験実施体制はすべての施設で構築されており、被験者への服薬指導を実施する主たる職種が薬剤師である施設は42%、薬剤師以外である施設は58%であった。PBPMを導入している施設は全体の50%であったが、抗てんかん薬に関連するPBPMを導入している施設はなかった。抗てんかん薬のTDMに関して、血中濃度の測定を行っている部門では検査部門が外来・入院ともにもっとも多くそれぞれ83%、92%であった。一方、血中濃度の解析を行っている部門では、薬剤部門が外来・入院ともにもっとも多くそれぞれ50%、75%であった。特定薬物治療管理

料を算定している抗てんかん薬のうち、バルプロ酸ナトリウムとカルバマゼピンはすべての施設で算定しており、以下、フェニトインが92%、フェノバルビタールが82%、レベチラセタム、ラモトリギン、ゾニサミドが75%、トピラマート、クロバザム、クロナゼパムが67%、ラコサミド、ペランパネルが58%という内訳であった。持参薬使用状況としては、概ね8割以上使用している施設、2-8割程度使用している施設、2割未満しか使用していない施設がそれぞれ33%であった。また、持参薬を確認する職種については、すべての施設で「薬剤師が確認している」と回答した。退院時薬剤情報管理料を算定している施設は全体の92%であり、情報提供内容はお薬手帳がすべての施設で使用されていた。一方、トレーニングレポートや薬剤管理サマリーを用いた情報提供を行っている施設はそれぞれ34%と17%であった。抗てんかん薬の採用割合については現在データ解析中である。

令和2年度には、初年度に得たこれらの情報に基づきてんかん診療における薬剤師業務の指針を策定する予定である。また、抗てんかん薬のTDM実施状況、治験実施状況については、研究協力者の長谷川大輔教授が今回得られた結果に基づき二次調査を計画している。

D. 考察

本調査結果から、てんかん拠点病院の半数以上の施設で抗てんかん薬の血中濃度解析に薬剤師が関与していることが明らかとなった。また、すべての施設で薬剤師が持参薬鑑別に関与しており、てんかん薬物療法の適正化に寄与していることが推察された。一方、てんかん拠点病院において抗てんかん薬に関連するPBPMを導入してい

る施設はなかった。PBPMの実践は、薬剤師の専門性の発揮によって薬物治療の質の向上や安全性の確保、さらには医師等の業務負担軽減に寄与するものとされる。令和2年度にてんかん診療における薬剤師業務の指針を策定予定であるが、てんかん診療において実施可能なPBPMについても併せて検討する予定である。

てんかん拠点病院ではカルバマゼピンやバルプロ酸ナトリウムといった従前薬だけでなく、新規抗てんかん薬であるラモトリギン、レベチラセタム、ラコサミド、ペランパネル、トピラマートについても高率で特定薬物治療管理料が算定されていることが今回の調査により明らかとなった。

また、てんかん拠点病院では、退院時の薬剤情報提供手段としておくすり手帳が活用されていることが本調査結果より明らかとなった。一方、トレーシングレポートや薬剤管理サマリーを退院時の服薬情報提供手段として用いている施設は全体の半数に満たなかった。てんかん薬物療法において服薬アドヒアランス対策は重要であるが、てんかん拠点病院で完結するものではなく、かかりつけ医・かかりつけ薬剤師など地域医療との協働体制を構築することが必須と思われる。今回の調査で得られた薬剤情報提供手段の現状を踏まえ、服薬アドヒアランス向上に資する薬剤情報提供のあり方について今後検討していく。

E. 結論

てんかん拠点病院では、抗てんかん薬の

血中濃度解析や持参薬鑑別に薬剤師が関与し、てんかん薬物療法の適正化に寄与していることが推察された。一方、てんかん診療における薬剤師業務の改善および拡充に向けて、PBPMの構築や退院時薬剤情報提供のあり方について検討する必要があると考えられた。今後、調査により得られた結果に基づきてんかん診療における薬剤師業務の指針を策定する予定である。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 浦 裕之：薬剤抵抗性てんかん患者に対する薬学的アプローチ. *HosPha* 29(4), 4-7, 2019

2. 学会発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

資金収支内訳表

2019年 4月 1日から
2020年 3月31日まで

収入の部

(単位:円)

科目	部門 臨床医学研究所
学生生徒等納付金収入	0
授業料収入	0
入学金収入	0
実験実習料収入	0
施設設備資金収入	0
諸費収入	0
基本保育料収入	0
特定保育料収入	0
在籍料収入	0
付属教育事業収入	0
手数料収入	0
入学検定料収入	0
試験料収入	0
証明手数料収入	0
寄付金収入	0
特別寄付金収入	0
一般寄付金収入	0
補助金収入	0
国庫補助金収入	0
都道府県補助金収入	0
市町村補助金収入	0
施設型給付費収入	0
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	0
補助活動事業収入	0
付帯事業収入	0
教材料収入	0
業務受託収入	0
受取利息・配当金収入	0
その他の受取利息・配当金収入	0
雑収入	330,000
施設設備利用料収入	0
研究関連収入	330,000
その他の雑収入	0
借入金等収入	0
長期借入金収入	0
計	330,000

支出の部

(単位:円)

科目	部門 臨床医学研究所
人件費支出	2,162,492
教員人件費支出	2,162,492
職員人件費支出	0
役員報酬支出	0
退職金支出	0
教育研究経費支出	506,592
消耗品費支出	0
光熱水費支出	0
旅費交通費支出	0
奨学費支出	0
福利費支出	0
通信費支出	0
印刷製本費支出	0
修繕費支出	0
損害保険料支出	0
貸借料支出	506,592
報酬委託手数料支出	0
保健衛生費支出	0
負担金支出	0
行事費支出	0
実習費支出	0
研修費支出	0
教材費支出	0
給食費支出	0
雑費支出	0
管理経費支出	0
消耗品費支出	0
光熱水費支出	0
旅費交通費支出	0
福利費支出	0
通信費支出	0
印刷製本費支出	0
修繕費支出	0
損害保険料支出	0
貸借料支出	0
公租公課支出	0
広報費支出	0
諸会費支出	0
渉外費支出	0
報酬委託手数料支出	0
行事費支出	0
負担金支出	0
実習費支出	0
研修費支出	0
教材費支出	0
給食費支出	0
車両燃料費支出	0
雑費支出	0

科目	部門 臨床医学研究所
借入金等利息支出	0
借入金利息支出	0
借入金等返済支出	0
借入金返済支出	0
施設関係支出	0
土地支出	0
建物支出	0
構築物支出	0
設備関係支出	0
教育研究用機器備品支出	0
管理用機器備品支出	0
図書支出	0
車両支出	0
ソフトウェア支出	0
計	2,669,084

固定資産台帳、減価償却費明細書

70 学校法人湘南ふれあい学園		平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日																
勘定科目	資産コード	資産名	数量	供用年月 除却年月	取得価額	※残存価額	耐用年数	使用月数 償却率	償却 方法	期首簿価	期中増 減	増加 減少	差引取得額×5% 定率改定取得額	改定 償却率	※特別、割増 償却額	※当期償却額	期末簿価	償却累計額
214		HD1~2, H収1~32, HC1~8 リス 中央実験台一式	1	H30. 4	2,313,449		10	12 0.100	定額	2,082,105						231,344	1,850,761	462,688
		HSW-001, HPC-004~005 リス SPSS-Statistics	1	H30. 4	760,771		10	12 0.100	定額	684,694						76,077	608,617	152,154
		HPC-001 デスクトップPC 1台	1	H30. 4	110,160		5	12 0.200	定額	88,128						22,032	66,096	44,064
		H研-012 リス 多本架冷却遠心機	1	H30. 4	767,420		10	12 0.100	定額	690,678						76,742	613,936	153,484
		HSW-002, HPC-006~007 リス 海綿骨・皮質骨	1	H30. 4	6,707,372		10	12 0.100	定額	6,036,635						670,737	5,365,898	1,341,474
		H研-011 リス 微量高速冷却遠心	1	H30. 4	622,396		10	12 0.100	定額	560,157						62,239	497,918	124,478
		H研-010 リス 薬用冷蔵ショーケース	1	H30. 4	262,252		10	12 0.100	定額	236,027						26,225	209,802	52,450
		H研-003 リス 超低温フリーザー	1	H30. 4	1,649,651		10	12 0.100	定額	1,484,686						164,965	1,319,721	329,930
		H研-014 リス TouchリアルタイムPCR解	1	H30. 4	5,063,764		10	12 0.100	定額	4,557,388						506,376	4,051,012	1,012,752
		H研-015 リス マイクロプレートリーダーPC	1	H30. 4	894,316		10	12 0.100	定額	804,885						89,431	715,454	178,862
		H研-016 リス NanoDropLite(プリ	1	H30. 4	1,065,928		10	12 0.100	定額	959,336						106,592	852,744	213,184
		H研-021 リス オートクレープLBS-325	1	H30. 4	558,343		10	12 0.100	定額	502,509						55,834	446,675	111,668
		H研-024 リス ウォーターバスシェイカー	1	H30. 4	316,638		10	12 0.100	定額	284,975						31,663	253,312	63,326
		H研-008~009 バイオメディカルフリーザー	2	H30. 4	561,384		10	12 0.100	定額	505,246						56,138	449,108	112,276
		H研-017 アルミブロック恒温槽ドライヤー	1	H30. 4	107,989		10	12 0.100	定額	97,191						10,798	86,393	21,596
		H研-019 ドライバス・インキュベーター	1	H30. 4	104,781		10	12 0.100	定額	94,303						10,478	83,825	20,956
		H研-022 感熱滅菌器	1	H30. 4	262,062		10	12 0.100	定額	235,856						26,206	209,650	52,412
		H研-025 Phメーター	1	H30. 4	183,816		10	12 0.100	定額	165,435						18,381	147,054	36,762
		H研-026 分析天秤	1	H30. 4	181,764		10	12 0.100	定額	163,588						18,176	145,412	36,352
		H研-001 CT一式	1	H30. 9	25,764,641		10	12 0.100	定額	24,261,704						2,576,464	21,685,240	4,079,401
		H研-027 業務用体組成計	1	H30.12	769,872		10	12 0.100	定額	744,210						76,987	667,223	102,649
		【 部門計 】 研究所			49,028,769					45,239,736						4,913,885	40,325,851	8,702,918
		【 科目計 】 教育用機器備品			49,028,769					45,239,736						4,913,885	40,325,851	8,702,918

(注) ※印の項目は、上段が個人専用、下段が事業専用を指します。
(注) 資産コード欄に*印が印刷されている資産は、減損処理を行った資産です。

旧定率法の場合は
償却可能限度額

(注) リース期間定額法、旧リース期間定額法(貸手)は、残存価額欄に残価保証額、耐用年数欄にリース期間、使用月数欄に当り月数を印刷します。
(注) 数量による一部除却の場合、数量欄は上段に除却後、下段に除却前の数量を印刷します。

